

授 業 概 要

平成 26 年度

群馬医療福祉大学 短期大学部

〒371-0823 群馬県前橋市川曲町191-1

TEL 027-253-0294

FAX 027-254-0294

授 業 概 要

平成 26 年度

授業概要の活用にあたり

この授業概要（英語では Syllabus）は、今年度開設する授業科目について、学生諸君が授業を受講する際に参考になるように、各科目担当教員が執筆したものです。

授業内容は、基礎教養科目と専門科目からなっています。

各授業の概要の中には、授業のねらい・授業のながれ・履修上の注意・評価の方法・教科書・参考書などが述べられています。学生諸君は自主的、意欲的に学習に取り組むためにこの授業概要を十分に活用して下さい。

群馬医療福祉大学 短期大学部 教務課

目 次

平成26年度 群馬医療福祉大学短期大学部 介護福祉学科 開講科目一覧(本科生)・・・	1
平成26年度 群馬医療福祉大学短期大学部 介護福祉学科 開講科目一覧(25年度入学訓練生)・・・	2
平成26年度 群馬医療福祉大学短期大学部 介護福祉学科 開講科目一覧(26年度入学訓練生)・・・	3

基礎科目

スポーツ及びレクリエーション実技	6
マスメディア論(理論編)	8
マスメディア論(応用実践編)	9
情報処理演習	10
道德教育	12
ソーシャルワーク入門	13
英語I	14
英語II	15
整容技術演習(後期)	16

専門科目

基礎演習	18
総合演習	20
ボランティア活動I	22
ボランティア活動II	24
介護福祉特講I	26
介護福祉特講II	28

介護福祉士指定科目

社会と制度の理解	32
介護保険請求制度論	34
レクリエーション活動援助法	36
介護の基本I	38
介護の基本II	40
介護の基本III	42
コミュニケーション技術	44
生活支援技術I	46
生活支援技術II	48
生活支援技術IV	50
生活支援技術V	52
介護過程の展開II	54
介護過程の展開III	56
介護総合演習I	58
介護総合演習II	60
生活支援実習I-①	62

生活支援実習Ⅰ-②	63
生活支援実習Ⅱ-①	64
生活支援実習Ⅱ-②	65
発達と老化の理解	66
認知症の理解	68
障害の理解	70
こころとからだのしくみⅠ	72
こころとからだのしくみⅡ	74
人間の尊厳と自立(哲学)	76
人間関係とコミュニケーション	77
福祉住環境	78
障害者スポーツ論	79
生活支援技術Ⅲ	80
介護過程の展開Ⅰ	81
医療福祉コース	
アクティビティ・サービス援助技術	84
医療事務実務Ⅰ	86
医療事務実務Ⅱ	88
公務員Ⅰ	90
公務員Ⅱ	92
手話	94
点字	95
福祉総合コース	
高齢者に対する支援と介護保険制度	98
相談援助の基盤と専門職	100
社会福祉特講Ⅱ	102
相談援助の理論と方法Ⅰ	104
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	106
社会保障	108
障害者に対する支援と障害者総合支援法	110
心理学理論と心理的支援	111
社会理論と社会システム	112
社会福祉特講Ⅰ	113
相談援助演習Ⅰ	114
権利擁護と成年後見制度	115
講座等	
編入学指導	118
就職指導	119

平成26年度 群馬医療福祉大学短期大学部 介護福祉学科 開講科目一覧(本科生)

領域	授業科目の名称	教員	開講年次	時間数	単位数			備考	対象とする資格等 (介護福祉士を除く)
					必修	選択	コース必修		
基礎科目	道徳教育	塚本	1	30	2				
	スポーツ及びレクリエーション実技	長津	1	60	2			レク・インストラクター	
	ソーシャルワーク入門	土屋	1	30	2				
	英語Ⅰ	秋山	2	30		2		福祉総合・編入希望者選択	
	英語Ⅱ	マレク	2	30		2		福祉総合・編入希望者選択	
	マスメディア論	新井	1	60		2		医療福祉コース必修	
	整容技術演習	黒澤	2	30		2		医療福祉コース必修	
情報処理演習	—	2	30			2	医療福祉コース必修	マイクロソフトスペシャリスト	
専門科目	基礎演習Ⅰ	—	1	60	2				
	総合演習	—	2	60	2				
	ボランティア活動Ⅰ	土屋(辻)	1	60	2				
	ボランティア活動Ⅱ	柳澤	2	60		2		福祉総合・編入希望者選択	
	介護福祉特講Ⅰ	片桐	1	60	2				
	介護福祉特講Ⅱ	片桐	2	60		2			
人間と社会	人間の尊厳と自立(哲学)	鈴木学長	1	30	2				
	人間関係とコミュニケーション	柳澤・辻	1	30	2				
	社会と制度の理解	土屋	1	60	2				
	介護保険請求制度論	関口	2	60		4		介護保険事務士	
	福祉住環境	岡部	2	30		2		福祉住環境コーディネーター2級	
	障害者スポーツ	櫻井	2	30		2		障害者スポーツ指導員2級	
	レクリエーション活動援助法	高橋	2	60		4		レク・インストラクター	
	介護の基本Ⅰ	白井	1	60	2				
	介護の基本Ⅱ	白井	1	60	2				
	介護の基本Ⅲ	土屋	2	60		2			
介護福祉士指定科目	コミュニケーション技術	川口	1	60	2				
	生活支援技術Ⅰ	矢島・辻	1	60	2				
	生活支援技術Ⅱ	矢島・辻	1	60	2				
	生活支援技術Ⅲ	梅山	2	60	2				
	生活支援技術Ⅳ	山岸	2	60	2				
	生活支援技術Ⅴ	矢島・辻	2	60	2				
	介護過程の展開Ⅰ	白井・川口	1	30	1				
	介護過程の展開Ⅱ	白井・川口	1	60	2				
	介護過程の展開Ⅲ	白井・川口	2	60		2			
	介護総合演習Ⅰ	片桐・川口	1	60	2				
	介護総合演習Ⅱ	片桐・川口	2	60		2			
	生活支援実習Ⅰー①	片桐・川口	1	20	1				
	生活支援実習Ⅰー②	片桐・川口	1	30	1				
	生活支援実習Ⅱー①	片桐・川口	2	200	4				
	生活支援実習Ⅱー②	片桐・川口	2	200		4			
	こころからの学び	発達と老化の理解	松崎	1	60	2			
		認知症の理解	片桐	1	60	2			
障害の理解		松崎	1	60	2				
こころからの学びⅠ		李	1	60	2				
こころからの学びⅡ		松崎	2	60	2				
医療	医療的ケア	松崎	2	90		4		平成26年度開講なし	
医療福祉コース	高齡F	手話協会	1	30			1		
	点字	岡田	1	30			1		
	アクティビティ援助技術	廣池	2	60			2	アクティビティ・ワーカー	
	医療事務実務Ⅰ	清水	1	60			2	医療事務管理士	
	医療事務実務Ⅱ	清水	2	60			2	医療事務管理士	
公務員F	公務員Ⅰ	対策委員	1	60			2		
	公務員Ⅱ	対策委員	2	60			2		
福祉総合コース	高齢者に対する支援と介護保険制度	鈴木・土屋	1	60		2		福祉総合コース必修	社会福祉士国家資格受験資格
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	真下	1	30		2		福祉総合コース必修	社会福祉士国家資格受験資格
	心理学理論と心理的支援	島内	1	30		2		福祉総合コース必修	社会福祉士国家資格受験資格
	相談援助の基盤と専門職	松永	1	60		2		福祉総合コース必修	社会福祉士国家資格受験資格
	社会理論と社会システム	白石	1	30		2		福祉総合コース必修	社会福祉士国家資格受験資格
	社会福祉特講Ⅰ	柳澤	1	30		2			社会福祉士国家資格受験資格
	社会福祉特講Ⅱ	柳澤	2	60		2			社会福祉士国家資格受験資格
	相談援助演習Ⅰ	宮本	2	30		2			社会福祉士国家資格受験資格
	権利擁護と成年後見制度	森田	2	30		2			社会福祉士国家資格受験資格
	相談援助の理論と方法Ⅰ	柳澤	2	60		2			社会福祉士国家資格受験資格
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	真下	2	60		2			社会福祉士国家資格受験資格	
社会保障	白石	2	60		2			社会福祉士国家資格受験資格	
講座等	アロマセラピー	—	2	30	—	—	—		
	ネイルケア	—	2	30	—	—	—		
	リフレクソロジー	—	2	30	—	—	—		
	フェイスケア	—	2	30	—	—	—		
	編入学指導	大竹	2	30			○	福祉総合コース受講	
	就職指導	長津	2	30			○	医療福祉コース受講	

平成26年度 群馬医療福祉大学短期大学部 介護福祉学科 開講科目一覧(25年度入学訓練生)

領域	授業科目の名称	教員	開講年次	時間数	単位数			備考	対象とする資格等 (介護福祉士を除く)
					必修	選択	コース必修		
基礎科目	道徳教育	塚本	1	30	2				
	スポーツ及びレクリエーション実技	長津	1	60	2				レク・インストラクター
	マスメディア論	新井	1	60	2				
	整容技術演習	黒澤	2	30	2				
	情報処理演習	—	2	30	2				マイクロソフトスペシャリスト
専門科目	基礎演習Ⅰ	—	1	60	2				
	総合演習	—	2	60	2				
	ボランティア活動Ⅰ	土屋(辻)	1	60	2				
	介護福祉特講Ⅰ	片桐	1	60	2				
	介護福祉特講Ⅱ	片桐	2	60	2				
人間と社会 介護福祉士指定科目	人間の尊厳と自立(哲学)	鈴木学長	1	30	2				
	人間関係とコミュニケーション	柳澤・辻	1	30	2				
	社会と制度の理解	土屋	1	60	2				
	介護保険請求制度論	関口	2	60	4				介護保険事務士
	レクリエーション活動援助法	高橋	2	60	4				レク・インストラクター
	介護の基本Ⅰ	白井	1	60	2				
	介護の基本Ⅱ	白井	1	60	2				
	介護の基本Ⅲ	土屋	2	60	2				
	コミュニケーション技術	川口	1	60	2				
	生活支援技術Ⅰ(介護技術演習)	矢島・辻	1	60	2				
	生活支援技術Ⅱ(介護技術演習)	矢島・辻	1	60	2				
	生活支援技術Ⅲ(栄養調理)	梅山	2	60	2				
	生活支援技術Ⅳ(被服住居)	山岸	2	60	2				
	生活支援技術Ⅴ(総合)	矢島・辻	2	60	2				
	介護過程の展開Ⅰ	白井・川口	1	30	1				
	介護過程の展開Ⅱ	白井・川口	1	60	2				
	介護過程の展開Ⅲ	白井・川口	2	60	2				
	介護総合演習Ⅰ	片桐・川口	1	60	2				
	介護総合演習Ⅱ	片桐・川口	2	60	2				
	生活支援実習Ⅰ-①	片桐・川口	1	20	1				
生活支援実習Ⅰ-②	片桐・川口	1	30	1					
生活支援実習Ⅱ-①	片桐・川口	2	200	4					
生活支援実習Ⅱ-②	片桐・川口	2	200	4					
こころとからだのしくみ	発達と老化の理解	松崎	1	60	2				
	認知症の理解	片桐	1	60	2				
	障害の理解	松崎	1	60	2				
	こころとからだのしくみⅠ	李	1	60	2				
	こころとからだのしくみⅡ	松崎	2	60	2				
医療福祉コース 高齢F	手話	手話協会	1	30	1				
	点字	岡田	1	30	1				
	アクティビティ援助技術	廣池	2	60	2				アクティビティ・ワーカー
講座等	就職指導	長津	2	30			○	医療福祉コース受講	

平成26年度 群馬医療福祉大学短期大学部 介護福祉学科 開講科目一覧(26年度入学訓練生)

領域	授業科目の名称	教員	開講年次	時間数	単位数			備考	対象とする資格等 (介護福祉士を除く)
					必修	選択	コース必修		
基礎科目	道徳教育	塚本	1	30	2				
	情報処理演習	—	2	30	2				マイクロソフトスペシャリスト
専門科目	基礎演習Ⅰ	—	1	60	2				
	総合演習	—	2	60	2				
	ボランティア活動Ⅰ	土屋(辻)	1	60	2				
	介護福祉特講Ⅰ	片桐	1	60	2				
	介護福祉特講Ⅱ	片桐	2	60	2				
介護福祉士指定科目	人間と社会	人間の尊厳と自立(哲学)	鈴木学長	1	30	2			
		人間関係とコミュニケーション	柳澤・辻	1	30	2			
		社会と制度の理解	土屋	1	60	2			
		介護保険請求制度論	関口	2	60	4			介護保険事務士
		レクリエーション活動援助法	高橋	2	60	4			レク・インストラクター
	介護	介護の基本Ⅰ	白井	1	60	2			
		介護の基本Ⅱ	白井	1	60	2			
		介護の基本Ⅲ	土屋	2	60	2			
		コミュニケーション技術	川口	1	60	2			
		生活支援技術Ⅰ(介護技術演習)	矢島・辻	1	60	2			
		生活支援技術Ⅱ(介護技術演習)	矢島・辻	1	60	2			
		生活支援技術Ⅲ(栄養調理)	梅山	2	60	2			
		生活支援技術Ⅳ(被服住居)	山岸	2	60	2			
		生活支援技術Ⅴ(総合)	矢島・辻	2	60	2			
		介護過程の展開Ⅰ	白井・川口	1	30	1			
		介護過程の展開Ⅱ	白井・川口	1	60	2			
		介護過程の展開Ⅲ	白井・川口	2	60	2			
		介護総合演習Ⅰ	片桐・川口	1	60	2			
		介護総合演習Ⅱ	片桐・川口	2	60	2			
		こころとからだのしくみ	生活支援実習Ⅰ-①	片桐・川口	1	20	1		
	生活支援実習Ⅰ-②		片桐・川口	1	30	1			
	生活支援実習Ⅱ-①		片桐・川口	2	200	4			
	生活支援実習Ⅱ-②		片桐・川口	2	200	4			
	発達と老化の理解		松崎	1	60	2			
	認知症の理解		片桐	1	60	2			
	障害の理解		松崎	1	60	2			
	医療	こころとからだのしくみⅠ	李	1	60	2			
こころとからだのしくみⅡ		松崎	2	60	2				
医療福祉コース	医療的ケア	松崎	2	90	4			平成26年度開講なし	
	高齢F	アクティビティ援助技術	廣池	2	60		2		アクティビティ・ワーカー
	医事F	医療事務実務Ⅰ	清水	1	60		2		医療事務管理士
	医事F	医療事務実務Ⅱ	清水	2	60		2		医療事務管理士
講座等	就職指導	長津	2	30			○	医療福祉コース受講	

基 礎 科 目

科目名	スポーツ及びレクリエーション実技	担当教員 (単位認定者)	長津 一博	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	スポーツ及びレクリエーション実技				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

『身体運動』だけでなく、様々なスポーツ(NEWスポーツ)及びレクリエーションを通し、基本的な考え方等を学び、レクリエーションの企画や運営を実践できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①スポーツ及びレクリエーションの基本的な考え方を理解できる。
- ②協力・強調・友愛などの意識を高める。
- ③学生生活の充実を図ると共にスポーツ及びレクリエーションの重要性を理解する。

■授業の概要

スポーツ及びレクリエーションをグループワークにより行い、生涯学習及び社会福祉現場での実践へ動機づけることで、健康の保持増進や、スポーツ及びレクリエーションの楽しさ・素晴らしさを授業で学び取る。
また、実践においては各個人の身体的特性や能力に応じて展開する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	前期科目オリエンテーション(概要・評価の流れ)
第2回	NEWスポーツ①
第3回	NEWスポーツ②
第4回	NEWスポーツ③
第5回	バドミントンI ルール・基本
第6回	バドミントンII ゲーム
第7回	OMNIKIN KIN-BALL I ルール・基本動作
第8回	OMNIKIN KIN-BALL II ゲーム
第9回	ニテレクボール
第10回	レクリエーションの企画①
第11回	レクリエーションの企画②
第12回	ソフトバレーボール I ルール・基本動作
第13回	ソフトバレーボール II ゲーム
第14回	レクリエーションの企画③
第15回	レクリエーションの企画④ 前期総括

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生関わる情報〕

・上下学校指定体育着・体育館シューズを着用すること。

〔受講のルール〕

- ・授業シラバスを確認し積極的に臨むこと。
- ・身体を動かすことが多数あるため爪が伸びていたり装備品の装着等他の者にも支障がないようにすること。
- ・出席時間の厳守。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

第1回のオリエンテーションで説明する。

■評価方法

授業意欲・態度・取り組み 60%、レポート 40%を総合的に評価する。評価の詳細はオリエンテーションにおいて説明する。

■教科書

必要に応じて授業時に紹介する。

■参考書

適宜、授業中に紹介する。

科目名	スポーツ及びレクリエーション実技	担当教員 (単位認定者)	長津 一博	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	スポーツ及びレクリエーション実技				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

『身体運動』だけでなく、様々なスポーツ（NEWスポーツ）及びレクリエーションを通し、基本的な考え方等を学び、レクリエーションの企画や運営を実践できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①スポーツ及びレクリエーションの基本的な考え方を理解できる。
- ②協力・強調・友愛などの意識を高める。
- ③学生生活の充実を図ると共にスポーツ及びレクリエーションの重要性を理解する。

■授業の概要

スポーツ及びレクリエーションをグループワークにより行い、生涯学習及び社会福祉現場での実践へ動機づけることで、健康の保持増進や、スポーツ及びレクリエーションの楽しさ・素晴らしさを授業で学び取る。
また、実践においては各個人の身体的特性や能力に応じて展開する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	後期オリエンテーション
第17回	NEWスポーツ④
第18回	レクリエーションの運営①
第19回	レクリエーションの運営②
第20回	レクリエーションの運営③
第21回	レクリエーションの運営④
第22回	レクリエーションの運営⑤
第23回	バスケットボール I ルール・基本動作
第24回	バスケットボール II ゲーム
第25回	NEWスポーツ⑤
第26回	NEWスポーツ⑥
第27回	フットサル I ルール・基本動作
第28回	フットサル II ゲーム
第29回	NEWスポーツ⑦
第30回	後期総括 レポート提出

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生関わる情報〕

・上下学校指定体育着・体育館シューズを着用すること。

〔受講のルール〕

- ・授業シラバスを確認し積極的に臨むこと。
- ・身体を動かすことが多数あるため爪が伸びていたり装備品の装着等他の者にも支障がないようにすること。
- ・出席時間の厳守。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

第1回のオリエンテーションで説明する。

■評価方法

授業意欲・態度・取り組み 60%、レポート 40%を総合的に評価する。評価の詳細はオリエンテーションにおいて説明する。

■教科書

必要に応じて授業時に紹介する。

■参考書

適宜、授業中に紹介する。

科目名	マスメディア論（理論編）	担当教員 （単位認定者）	新井 英司	単位数 （時間数）	2 （60）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	コミュニケーション、マスメディア、メディア・リテラシー、情報、客観性				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

これからの人生で自分を輝かせていくには、どうしたらよいか。マスメディアの正しい理解や豊かなコミュニケーションの探求を通して、今日の高度な情報化社会を明るく楽しく生きる実践力を学ぶ。

〔到達目標〕

- ①グローバル社会が進む中、マスメディアが危機を迎えていることを理解する。
- ②マスメディアやジャーナリズムの特性を考え、メディア・リテラシーの重要性を深める。
- ③コミュニケーションを起源から掘り起こし、人間社会の営みの中で「ありがとう」の認識がいかに大切かを体得する。

■授業の概要

マスメディアの現状と課題を取り上げるとともに、情報やジャーナリズムの特性を具体的に学習し、多様化するメディアをいかに生活に生かすかを考える。

■授業計画

※下記予定は受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	複眼という視点
第2回	公正と利他
第3回	冷静と時代感覚
第4回	「学ぶ」ということ
第5回	マスメディアの危機① グローバル化の中で
第6回	マスメディアの危機② テレビと新聞のもたれ合い
第7回	マスメディアの危機③ マニュアル化という暴走
第8回	マスメディアの危機④ 市場原理に埋没
第9回	メディア・リテラシー① ニュースとは何か
第10回	メディア・リテラシー② 客観報道とは何か
第11回	メディア・リテラシー③ ジャーナリズムの特性
第12回	メディア・リテラシー④ 批判と疑いの精神
第13回	メディア・リテラシー⑤ 自らの感度を磨く
第14回	まとめ① たくましく情熱的に生きる
第15回	まとめ② メディアの未来と私たち

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

毎日のテレビ、新聞等のニュースを取り上げて、意見や感想を発表し合います。その都度、資料も配付しますので、積極的に授業に参加して下さい。

〔受講のルール〕

社会の動きや身の回りの出来事に関心を持って、自分の見方や考え方を整理しよう。

■授業時間外学習にかかわる情報

テキストは熟読し、予習を实践しよう。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験100%

■教科書

内田 樹 『街場のメディア論』（光文社新書） 外岡 秀俊 『情報のさばき方』（朝日新書）

■参考書

日々の新聞

科目名	マスメディア論（応用実践編）	担当教員 （単位認定者）	新井 英司	単位数 （時間数）	2 （60）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
	カリキュラム上の位置づけ	一覧表参照			
キーワード	コミュニケーション、ことば、不易流行				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

これからの人生で自分を輝かせていくには、どうしたらよいか。コミュニケーションの正しい理解や身の回りのことばの意味を深め、今日の高度な情報化社会を明るく楽しく生きる実践力を学ぶ。

〔到達目標〕

- ①コミュニケーションの意味や臨む態度についての認識が深まる。
- ②不易流行、常識的なことばに関心をもち、豊かなコミュニケーション力を培う。
- ③生きたことば遣いや生きたコミュニケーションを体得する。

■授業の概要

ことばに込められた生き方や智慧を古今東西の出来事、エピソードから学び、ことばの深さや面白さ、諸相にふれ、楽しく役に立つ実践的コミュニケーション論を展開します。

■授業計画

※下記予定は受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	メディア論からコミュニケーション論へ
第2回	目は口ほどに物を言う
第3回	話し上手は聞き上手
第4回	諸行無常の響あり
第5回	常識では読めない地名、人名
第6回	女のム口は始めだけ
第7回	春秋を重ねて白寿
第8回	『〇活』って多くない？
第9回	世にあふれる『〇〇力』
第10回	説得力と質問力
第11回	欺かれやすい上州人
第12回	常識のホント、ウソ
第13回	雑学・向学・取材学
第14回	面接と挫折
第15回	相手は鏡

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

毎日のテレビ、新聞等のニュースを取り上げて、意見や感想を発表し合います。その都度、資料も配付しますので、積極的に授業に参加して下さい。

〔受講のルール〕

社会の動きや身の回りの出来事、ことばに関心を持って、自分の見方や考え方を整理しよう。

■授業時間外学習にかかわる情報

ともかく、ことばを数多く知り、「表現と理解」を深めていく。そのためにはいつも辞書を持ち歩きましょう。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験100%

■教科書

特にありませんが、国語の辞書を携帯して下さい。

■参考書

日々の新聞

科目名	情報処理演習	担当教員 (単位認定者)	情報処理担当教員	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	情報処理演習				

■授業の目的・到達目標

現代社会において事務処理に欠かす事のできないパーソナルコンピュータの利用方法の習得を目的とする。Microsoft 認定資格である MOS 試験合格の実力をつける。

■授業の概要

事務処理において比較的使用頻度の高い Word と Excel を Microsoft 認定のテキストを使用して活用できるようにする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第 1 回授業にて配布します。

第 1 回	コンテンツの作成 1 文字列・記号・繰返し使用する文字列の挿入と編集。
第 2 回	コンテンツの作成 2 特定コンテンツの選択。グラフィックの挿入。
第 3 回	コンテンツの作成 3 図表とグラフの作成。情報の検索・選択・挿入。
第 4 回	コンテンツの作成 4 集客広告の作成 (1)。
第 5 回	コンテンツの作成 5 集客広告の作成 (2)。
第 6 回	コンテンツの書式設定 1 文字・段落の書式設定。
第 7 回	コンテンツの書式設定 2 段組の設定と変更。ヘッダーとフッターの挿入。
第 8 回	コンテンツの書式設定 3 文書のレイアウトおよびページ設定の変更。
第 9 回	コンテンツの整理 箇条書・段落番号の書式、アウトラインの作成。
第 10 回	文書の書式設定と管理 1 テンプレートを使用した新規文書の作成。
第 11 回	文書の書式設定と管理 2 適切な形式での文書保存・プレビュー。
第 12 回	文書の書式設定と管理 3 ウィンドウの変更と整理。フォルダーの整理。
第 13 回	グループ作業 1 校閲のための文書の回覧。コメントの挿入・表示・編集。
第 14 回	グループ作業 2 文書の比較と変更箇所の反映。変更履歴の記録。
第 15 回	MOS (Word) 模擬試験と解説

■受講生に関わる情報および受講のルール

演習は、毎日が前回までの成果を前提とした積み重ねとなるため、欠席で成果の途切れることのないよう心掛けること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

- ①平常点 (出席状況・授業態度) (60%)
- ②課題の提出状況 (40%)

■教科書

“よくわかる” マスター Word2003 問題集 (FOM 出版)
“よくわかる” マスター Excl2003 問題集 (FOM 出版)

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	情報処理演習	担当教員 (単位認定者)	情報処理担当教員	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	情報処理演習				

■授業の目的・到達目標

現代社会において事務処理に欠かす事のできないパーソナルコンピュータの利用方法の習得を目的とする。Microsoft 認定資格である MOS 試験合格の実力をつける。

■授業の概要

事務処理において比較的使用頻度の高い Word と Excel を Microsoft 認定のテキストを使用して活用できるようにする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第 1 回授業にて配布します。

第 16 回	データとコンテンツの作成1 セルコンテンツの入力と編集。
第 17 回	データとコンテンツの作成2 画像の挿入・配置・サイズの設定。
第 18 回	データとコンテンツの書式設定1 書式の設定と変更。スタイルの設定と変更。
第 19 回	データとコンテンツの書式設定2 行と列の書式の変更。シートの書式設定。
第 20 回	ブックの管理1 テンプレートを使用した新規ブックの作成。
第 21 回	ブックの管理2 適切な形式でデータ保存する操作。セルの挿入・削除・移動。
第 22 回	ブックの管理3 ワークシートの整理。ウィンドウレイアウトのカスタマイズ。
第 23 回	ブックの管理4 ハイパーリンクの作成と変更。データのプレビュー。
第 24 回	ブックの管理5 ページ設定。データの印刷。
第 25 回	データの分析1 「オートフィルタ」を使用したリストのフィルタ処理。
第 26 回	データの分析2 数式の挿入と変更。
第 27 回	データの分析3 統計関数・財務関数・論理関数の使用。
第 28 回	データの分析4 ワークシートのデータをもとにした、図表とグラフの作成・変更。
第 29 回	グループ作業 コメントの挿入・表示・編集。
第 30 回	MOS (Word) 模擬試験と解説

■受講生に関わる情報および受講のルール

演習は、毎日が前回までの成果を前提とした積み重ねとなるため、欠席で成果の途切れることのないよう心掛けること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

- ①平常点 (出席状況・授業態度) (60%)
- ②課題の提出状況 (40%)

■教科書

“よくわかる” マスター Word2003 問題集 (FOM 出版)
“よくわかる” マスター Excl2003 問題集 (FOM 出版)

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	道徳教育	担当教員 (単位認定者)	塚本 忠男	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	道徳教育研究				

■授業の目的・到達目標

本学の学生として、恥じない美徳を身につける。

■授業の概要

伝統の建学精神の理解と実践を学習し、我が身の人格完成につとめるとともに、社会福祉、教育、看護の道を極め(含、短期大学部)、卒業後、社会に寄与する人を育成することを目標にする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	本学の沿革、並びに講経について学んでゆく
第2回	〃 (学問所の開学)
第3回	〃 (古の人の志しについて)
第4回	〃 (現代の人の更なる志しについて)
第5回	建学精神の把握と実践、並びに先人の箴言について
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	教育理念の把握について、及び校歌、詩等について
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	本学の特色を中心として学んでゆく
第14回	〃
第15回	王学各義(附編)

■受講生に関わる情報および受講のルール

1. 授業に集中して勉学すること。
2. 各自、ノートに大切な点を纏めておくこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

定期試験(85%)、出席点・平常点(15%)を総合して評価。

■教科書

「咸有一徳・学校法人昌賢学園の全人教育」著者(鈴木利定学長・中田勝教授)

■参考書

講義中に適宜紹介。

科目名	ソーシャルワーク入門	担当教員 (単位認定者)	土屋 昭雄	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	相談援助 バイステックの7原則 倫理綱領				

■授業の目的・到達目標

介護福祉士を目指す者にとって、相談援助に関する知識を得ておくことは、意義のあることである。相談援助の意義、使命・役割、さらには、展開過程等の把握に努め、社会福祉領域にも精通した介護福祉士になることを目指す。

■授業の概要

相談援助（ソーシャルワーク）に関する知識は社会福祉士だけが有しておくべき事項ではない。本講義においては、相談援助における倫理、技術、原則等、専門職に必要な諸事項について概説する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	相談援助の意義
第3回	相談援助専門職の使命および役割
第4回	相談援助の概念と歴史
第5回	相談援助の理念および価値
第6回	相談援助の実践原則
第7回	相談援助の倫理
第8回	相談援助の体系
第9回	相談援助の展開過程①
第10回	相談援助の展開過程②
第11回	相談援助にかかわる専門職
第12回	相談援助における援助関係
第13回	相談援助における権利擁護
第14回	総合的・包括的な援助と多職種連携
第15回	総括

■受講生に関わる情報および受講のルール

私語は慎み、真摯な態度で授業に臨むこと。教科書・諸文献等を用い、必ず予習、復習すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期試験による。

■教科書

空閑浩人編『ソーシャルワーク入門』ミネルヴァ書房

■参考書

福祉小六法

科目名	英語 I	担当教員 (単位認定者)	秋山 千代子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	英語 I				

■授業の目的・到達目標

外国人の見た日本文化についてのエッセイを軸に、平易な英文を「読む」「聞く」「書く」「話す」へ発展させ、4技能の基礎力を養うことを主眼とする。

■授業の概要

300語程度のシンプルな英文。エクササイズはリスニングのほか、語句の選択問題から簡単な英作文まで様々なメニューで授業の展開をはかる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	Cherry Blossoms Everywhere さくら、さくら、...
第3回	Home Away From Home 第二の我が家
第4回	Commuter Trains in Tokyo 東京の通勤事情
第5回	Rain, Rain, Go Away あした天気になあれ
第6回	Different Places, Different Things 所変れば品変わる
第7回	Hot Springs: The Perfect Stress Reliever 温泉でストレス解消
第8回	Tanabata, The Star Festival お星さまキラキラ
第9回	Fancy Fruit フルーツの王国からきて
第10回	The Grateful Crane ツルの恩返し
第11回	Kimono Show and Competition きもの装いコンテスト
第12回	Visiting a Japanese Home 日本の家庭を初体験
第13回	University Clubs サークルとクラブ
第14回	New Year お正月
第15回	Yummy, Yummy Food! ごちそうをどうぞ

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業は学生による発表を中心に進めるので、学生一人ひとりの積極性が望まれる。また、テキストに沿った形の演習形式を取るため、予習は欠かせない。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期試験の成績(60%)・出席状況(20%)・授業への取り組み(20%)を総合的に評価する。

■教科書

Alison's Reports on Japan アリソンの日本滞在記(三修社)

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	英語Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	グジェビック・マレク	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	英会話				

■授業の目的・到達目標

受講生は初歩的で実地的な英語の知識を次の事柄に関連して習得する。

- (1) 単語同士がつながった場合の発音、文中でのアクセント、イントネーション
- (2) 語彙 — 人間関係と社会に関する基本的な言葉と語句を練習する
- (3) 機能的な言語の構造 — さまざまな社会生活の場面で相手の人が反応してくれて、意思の疎通がはかれるもの
- (4) 文法 — 英語の文法の基本的な原則を勉強する

■授業の概要

さまざまな方法でこうした事柄を表す言い方を勉強する。自己紹介、自分の趣味や興味のあること、学校や仕事の話をする場面、自分の願いや計画を述べたり、能力を表す言い方、前の出来事を表す言い方、提案をしたり、約束をする場面などが扱われる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション Self-introduction. Introducing people	(自己紹介、他者紹介すること)
第2回	Talking about people-friends, relatives, etc. Pastimes and hobbies	(他の人について話す、趣味・興味)
第3回	Making offers. Names of drinks and fruits	(提供すること)
第4回	Making suggestions. Expressing wishes, desires	(提案すること、意図・意思を表す)
第5回	Inviting people. Stating purpose. Giving reason	(招待する、理由を説明すること)
第6回	Talking about professions	(仕事について話す)
第7回	Describing jobs. Expressing opinions	(仕事の描写をすること、意見を表現すること)
第8回	Action happening now. Telling the time	(いまのところ起る活動、時間を数える)
第9回	Talking about one's plans	(自分の経験について話す)
第10回	Expressing ability. Lack of ability	(能力を表す、能力不足を表す)
第11回	Possibility. Permission	(可能性、許可・同意する)
第12回	Talking about past events and experiences	(昔の出来事・経験について話す)
第13回	Which is better? Which is the best?	(どちらが良い?どちらが一番良い?)
第14回	Touring the States - have you ever?	(アメリカ(USA)を旅行する。行ったことがありますか?)
第15回	General review and test preparation	(一般的な復習と試験の準備)

■受講生に関わる情報および受講のルール

会話のコースなので、次の点がとても重要。

- 授業に出席すること
- 授業の事柄を準備すること
- 練習に参加すること

■授業時間外学習にかかわる情報

オリエンテーション時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

1. 学んだ語彙と文法に関する定期試験の成績(70%)
2. 授業への出席状況、積極的に参加しているかという点から総合的に評価する(30%)。

■教科書

『By Way of Review. A Short Course of English for University Students』グジェビック・マレク著(2014)

■参考書

授業時に指示する。

科目名	整容技術演習（後期）	担当教員 (単位認定者)	黒澤 治美	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	整容技術演習				

■授業の目的・到達目標

- ・皮膚構造と外体代謝の過程、皮膚の働き（組織）を理解したうえでのメイク実習、技術演習。
- ・パーソナルカラーで自分の色を探しベストカラーをみつける。
- ・筆ペンの基礎を学びプリントを書き進め、年賀状や金封、詩に至るまでの指導。

■授業の概要

講義から実習での技術演習。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション・これからの授業の進め方				
第2回	皮膚構造と外体代謝の過程	皮膚理論			
第3回	皮膚の働き				
第4回	化粧品を使つてのメイクアップ、頭皮マッサージ				
第5回	ナチュラルメイク、フェミニンなクールビューティメイク 明るくキャリアメイク				
第6回	自分を美しく表現できるメイク、元気になるメイク、華やかメイク	メイク実習			
第7回	普段と違った自分を発見できるメイクに挑戦 パーティメイク お出掛けメイク				
第8回	筆ペンの基礎→筆になれる（ひらがな～数字）				
第9回	筆ペンの基礎→カタカナ、住所（地名）				
第10回	筆ペンの基礎→地名、名字～自分の住所と氏名を書く	筆ペン実習			
第11回	筆ペンの基礎→お正月のハガキ（寒中見舞他）、年賀状や挨拶文を書く				
第12回	筆ペンの基礎→金封（祝～仏事まで）				
第13回	パーソナルカラー（ブルーベース・イエローベース）	四季→24節気→72候			
第14回	パーソナルカラー	モデルに出た人のベストカラー、パーソナルカラーをみつけてあげる			
第15回	パーソナルカラー	スプリング・サマー・ウォータム・ウィンターの四季のカラーをみつけてあげる アンケート集計			

■受講生に関わる情報および受講のルール

実習においては集中して筆ペンで書いていく。カラー診断も他の人を判断していく。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

授業態度、筆ペンにて集中力、カラーでは相手の診断をする。

■教科書

授業内で適宜紹介する。

■参考書

プリントを参照。

專 門 科 目

科目名	基礎演習	担当教員 (単位認定者)	各クラス担任	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	基礎演習				

■授業の目的・到達目標

〔目的〕

建学の精神に基づき、豊かな人間性を育み、社会に貢献するための基礎的教養を養うとともに、礼儀、挨拶、身だしなみ、環境美化、ボランティア活動等を自主的に取り組むことができるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

建学の精神を理解し自身の言葉で表現することができる。職業観について深く考え、自身の将来設計について他者に発表することができる。

■授業の概要

行事やボランティア活動、環境美化活動、実習等の実践を通して考えたことを振り返り発表する。文章力を養う。行事の計画を立案、企画、評価する。委員会の活動内容を考え、実施、評価する。就職説明会や職能団体大会などに参加し、進路について考える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション/フレッシュャーズキャンプの振り返り①
第2回	フレッシュャーズキャンプの振り返り及び発表/親睦体育大会準備
第3回	防犯についての講話/親睦体育大会準備
第4回	親睦体育大会振り返り
第5回	レポート発表について
第6回	委員会活動について
第7回	社会人としての準備(セルフプラン)
第8回	介護百人一首
第9回	レポート発表準備
第10回	レポート発表
第11回	委員会活動
第12回	セルフプラン評価
第13回	昌賢祭準備①
第14回	昌賢祭準備②
第15回	昌賢祭準備③/委員会活動/就職説明会について

■受講生に関わる情報および受講のルール

環境美化活動やボランティア活動、実習等と関連させながら学ぶこと。学外講師による講話がある場合は授業内容を変更したり、授業時間を変更したりする場合があるため、留意すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

レポート準備や委員会活動等、授業外で取り組むことが多いため、計画的、積極的に取り組むこと。

■オフィスアワー

各クラス担任に確認すること。

■評価方法

提出物 40%、課題への取り組みなど 60%

■教科書

基礎演習テキスト

■参考書

適宜紹介する。

科目名	基礎演習	担当教員 (単位認定者)	各クラス担任	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	基礎演習				

■授業の目的・到達目標

〔目的〕

建学の精神に基づき、豊かな人間性を育み、社会に貢献するための基礎的教養を養うとともに、礼儀、挨拶、身だしなみ、環境美化、ボランティア活動等を自主的に取り組むことができるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

建学の精神を理解し自身の言葉で表現することができる。職業観について深く考え、自身の将来設計について他者に発表することができる。

■授業の概要

行事やボランティア活動、環境美化活動、実習等の実践を通して考えたことを振り返り発表する。文章力を養う。行事の計画を立案、企画、評価する。委員会の活動内容を考え、実施、評価する。就職説明会や職能団体大会などに参加し、進路について考える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	就職面接会振り返り/前橋まつりについて
第17回	昌賢祭準備④
第18回	昌賢祭準備⑤
第19回	昌賢祭準備⑥
第20回	昌賢祭準備⑦
第21回	昌賢祭振り返り
第22回	セルフプラン評価
第23回	卒業生講話
第24回	委員会活動
第25回	クラス活動
第26回	セルフプラン評価
第27回	次年度親睦体育大会について
第28回	次年度親睦体育大会について
第29回	老人福祉施設協会就職説明会(老人福祉施設協議会)
第30回	1年振り返り

■受講生に関わる情報および受講のルール

環境美化活動やボランティア活動、実習等と関連させながら学ぶこと。学外講師による講話がある場合は授業内容を変更したり、授業時間を変更したりする場合があるため、留意すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

レポート準備や委員会活動等、授業外で取り組むことが多いため、計画的、積極的に取り組むこと。

■オフィスアワー

各クラス担任に確認すること。

■評価方法

提出物 40%、課題への取り組みなど 60%

■教科書

基礎演習テキスト

■参考書

適宜紹介する。

科目名	総合演習	担当教員 (単位認定者)	各クラス担任	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	総合演習				

■授業の目的・到達目標

本学の建学の精神を身につけ、介護福祉士としての介護観や豊かな人間性を身につける。また社会人としての自立心や礼儀、マナーを重んじ、専門的知識を高め、社会に貢献できる人材となることを目的とする。

■授業の概要

建学の理念や教育方針にそって、環境美化活動やボランティア活動等積極的に実践し、専門分野の講師や卒業生の講話なども取り入れ、専門職としての知識を深める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	前期オリエンテーション・各委員の選出
第2回	親睦大会準備①
第3回	親睦大会準備②
第4回	各委員会報告会
第5回	環境美化活動(雑巾縫い)
第6回	就職ガイダンス①(一般常識テスト①)
第7回	実習事前指導・講話
第8回	実習指導・2年生、1年生との交流会
第9回	卒業生からの講話(進路について)
第10回	教養講座・外部講師
第11回	各委員会活動中間報告・今後の活動計画
第12回	共通試験対策について
第13回	三者面談
第14回	就職ガイダンス②・プロフィールカード記入
第15回	前期総括・総括レポート作成・夏季休暇中の活動について

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1、講義中の迷惑な行為は慎む。(私語や携帯電話の使用等)
- 2、介護福祉士を目指す学生としての姿勢で授業に取り組むこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

提示された課題の提出60%、授業態度20%、出欠20%とし、総合的に評価する。

■教科書

「咸有一徳」「伝統の建学の精神」

■参考書

必要時、資料を配布する。

科目名	総合演習	担当教員 (単位認定者)	各クラス担任	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	総合演習				

■授業の目的・到達目標

本学の建学の精神を身につけ、介護福祉士としての介護観や豊かな人間性を身につける。また社会人としての自立心や礼儀、マナーを重んじ、専門的知識を高め、社会に貢献できる人材となることを目的とする。

■授業の概要

建学の理念や教育方針にそって、環境美化活動やボランティア活動等積極的に実践し、専門分野の講師や卒業生の講話なども取り入れ、専門職としての知識を深める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	後期オリエンテーション
第17回	各委員会後期委員会報告会
第18回	就職ガイダンス②(一般常識試験②)
第19回	就職面接会の説明・プロフィールカード作成
第20回	昌賢祭の準備・連絡事項
第21回	昌賢祭の準備・連絡事項
第22回	昌賢祭の準備・連絡事項
第23回	昌賢祭のまとめ
第24回	就職ガイダンス③
第25回	事例報告会について
第26回	教養講座
第27回	冬休みの過ごし方・後期の共通試験対策
第28回	介護福祉士の資格登録の説明・記入
第29回	介護福祉士会の説明会
第30回	卒業に向けて・後期総括

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1、講義中の迷惑な行為は慎む。(私語や携帯電話の使用等)
- 2、介護福祉士を目指す学生としての姿勢で授業に取り組むこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

提示された課題の提出60%、授業態度20%、出欠20%とし、総合的に評価する。

■教科書

「咸有一徳」「伝統の建学の精神」

■参考書

必要時、資料を配布する。

科目名	ボランティア活動I	担当教員 (単位認定者)	土屋昭雄(辻志帆)	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	ボランティア活動I				

■授業の目的・到達目標

目標としては、介護福祉施設、老人保健施設、デイサービス、グループホーム、等々でのボランティア活動をすることにより、机上では学ぶことのできない施設の雰囲気や職員の業務内容・利用者とのコミュニケーションなどの体験を通して、本学の建学精神に則り、「心豊かな有為な人材を育てる」ことを目指す。

■授業の概要

介護福祉施設、老人保健施設、デイサービス、グループホーム等々でのボランティア活動をする。継続ボランティア、依頼ボランティア、社会貢献ボランティア活動を行う。その他に、クラス全員で近隣の施設での慰問や清掃等を実施する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション
第2回	建学精神・ボランティア活動とは何か
第3回	建学精神・ボランティアとは意義と目標
第4回	建学の精神 中田勝教授
第5回	継続ボランティアの事前指導
第6回	地域ボランティア活動について①
第7回	地域ボランティア活動について②
第8回	地域ボランティア活動について③
第9回	地域ボランティア活動について④
第10回	ボランティアフォーラム・卒業生講話
第11回	校内の環境美化活動
第12回	施設ボランティア活動について①
第13回	施設ボランティア活動について②
第14回	施設ボランティア活動について③
第15回	建学精神の確認・まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

誠意を持って真剣に取り組むこと。個人及び施設の情報については、秘密を厳守すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

レポート(20%)・ボランティア活動記録表(40%)・授業の参加態度(40%)にて総合的に評価する。基本的には欠席しないこと。

■教科書

授業中に指示する。

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	ボランティア活動I	担当教員 (単位認定者)	土屋昭雄(辻志帆)	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	ボランティア活動I				

■授業の目的・到達目標

目標としては、介護福祉施設、老人保健施設、デイサービス、グループホーム、等々でのボランティア活動をすることにより、机上では学ぶことのできない施設の雰囲気や職員の業務内容・利用者とのコミュニケーションなどの体験を通して、本学の建学精神に則り、「心豊かな有為な人材を育てる」ことを目指す。

■授業の概要

介護福祉施設、老人保健施設、デイサービス、グループホーム等々でのボランティア活動をする。継続ボランティア、依頼ボランティア、社会貢献ボランティア活動を行う。その他に、クラス全員で近隣の施設での慰問や清掃等を実施する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	建学精神 講義・中田勝教授
第17回	ボランティア活動記録の記入・確認
第18回	グループごとのボランティア活動計画(立案)
第19回	グループごとのボランティア活動計画(検討・周知)
第20回	グループごとのボランティア活動計画(実施)
第21回	グループごとのボランティア活動計画(振り返り)
第22回	校内の環境美化活動
第23回	ボランティアフォーラム
第24回	地域ボランティア活動について⑤
第25回	地域ボランティア活動について⑥
第26回	地域ボランティア活動について⑦
第27回	地域ボランティア活動についての学び①
第28回	地域ボランティア活動についての学び②
第29回	ボランティア活動記録の記入・確認・提出
第30回	建学精神の確認・まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

誠意を持って真剣に取り組むこと。個人及び施設の情報については、秘密を厳守すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

レポート(20%)・ボランティア活動記録表(40%)・授業の参加態度(40%)にて総合的に評価する。基本的には欠席しないこと。

■教科書

授業中に指示する。

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	ボランティア活動Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	柳澤 充	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	ボランティア定義、ボランティア活動、ボランティアリーダー				

■授業の目的・到達目標

〔目的〕

ボランティア活動の原理原則とその構造的な理解、及び、ボランティアリーダー論を学ぶことを目的とする。

〔到達目標〕

ボランティア活動とは何かについて、調べ学習に基づいて発表することができる。また、ボランティア企画を立案、実施、評価する手順について理解し説明することができる。

■授業の概要

前期では、調べ学習を基に、ボランティア活動の原理原則とその構造を理解する。また、調べた内容をKJ法やブレインストーミングによりカテゴリー化し、発表会資料を作成、発表する。後期では、前期の学習を踏まえ、実際のボランティア活動とリンクさせながら、主体的・自主的なボランティア活動の担い手を目指す。さらに、リーダーシップを発揮するための理論を学んだ上で、ボランティア企画を立案し、実施するとともに、評価する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション
第2回	ボランティア活動の原理・原則①
第3回	ボランティア活動の原理・原則②
第4回	ボランティア活動の原理・原則③
第5回	ボランティア活動の構造的な理解①
第6回	ボランティア活動の構造的な理解②
第7回	ボランティア活動の構造的な理解③
第8回	ボランティア活動の構造的な理解④(KJ法による分類①)
第9回	ボランティア活動の構造的な理解⑤(KJ法による分類②)
第10回	ボランティア活動の構造的な理解⑥(ブレインストーミングによる分類①)
第11回	ボランティア活動の構造的な理解⑦(ブレインストーミングによる分類②)
第12回	ボランティア活動の構造的な理解⑧(ブレインストーミングによる分類③)
第13回	ボランティア活動の構造的な理解⑨(発表準備①)
第14回	ボランティア活動の構造的な理解⑩(発表準備②)
第15回	発表会

■受講生に関わる情報および受講のルール

自主的、主体的、積極的に活動に取り組むこと。グループワークが中心となるため、協力・協働の姿勢で取り組むこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

調べ学習、発表会資料作りなど授業時間外に取り組む場合には、計画的に取り組むこと。実際のボランティア活動は積極的に参加すること。

■オフィスアワー

講義初回にて伝える。

■評価方法

試験またはレポート 60%、課題への取り組み・提出物など 40%

■教科書

授業にて指示する。

■参考書

授業にて適宜紹介する。

科目名	ボランティア活動Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	柳澤 充	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	ボランティア定義、ボランティア活動、ボランティアリーダー				

■授業の目的・到達目標

〔目的〕

ボランティア活動の原理原則とその構造的な理解、及び、ボランティアリーダー論を学ぶことを目的とする。

〔到達目標〕

ボランティア活動とは何かについて、調べ学習に基づいて発表することができる。また、ボランティア企画を立案、実施、評価する手順について理解し説明することができる。

■授業の概要

前期では、調べ学習を基に、ボランティア活動の原理原則とその構造を理解する。また、調べた内容をKJ法やブレインストーミングによりカテゴリー化し、発表会資料を作成、発表する。後期では、前期の学習を踏まえ、実際のボランティア活動とリンクさせながら、主体的・自主的なボランティア活動の担い手を目指す。さらに、リーダーシップを発揮するための理論を学んだ上で、ボランティア企画を立案し、実施するとともに、評価する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	後期オリエンテーション/活動計画立案①
第17回	現代社会とボランティア/活動計画立案②
第18回	地域福祉とボランティア/活動計画立案③
第19回	ボランティアリーダー論①/活動計画立案④
第20回	ボランティアリーダー論②/活動計画立案⑤
第21回	活動計画実施①
第22回	活動計画実施②
第23回	活動計画実施③
第24回	活動計画実施④
第25回	活動計画実施⑤
第26回	活動計画実施⑥
第27回	活動計画実施⑦
第28回	活動計画実施⑧
第29回	活動計画検証
第30回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

自主的、主体的、積極的に活動に取り組むこと。グループワークが中心となるため、協力・協働の姿勢で取り組むこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

調べ学習、発表会資料作りなど授業時間外に取り組む場合には、計画的に取り組むこと。実際のボランティア活動は積極的に参加すること。

■オフィスアワー

講義初回にて伝える。

■評価方法

試験またはレポート 60%、課題への取り組み・提出物など 40%

■教科書

授業にて指示する。

■参考書

授業にて適宜紹介する。

科目名	介護福祉特講 I	担当教員 (単位認定者)	片桐 幸司	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	介護福祉士国家試験対策				

■授業の目的・到達目標

- ①介護福祉士指定科目の概要をつかめる。
- ②介護福祉士指定科目の基礎を理解できる。
- ③介護福祉士国家試験及び卒業時共通試験に合格する実力が身につく。

■授業の概要

この介護福祉特講 I は、介護福祉分野の学びをより確実なものにするために、介護福祉士指定科目の広い範囲を概説的に指導する。このことで介護福祉士指定科目、国家試験及び卒業時共通試験に対する学習支援として位置付ける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション 介護の理念・基礎知識① 介護福祉士を取り巻く状況 pp.2-6を熟読しておくこと
第2回	介護の理念基礎知識② 介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ、人間の尊厳と自立/尊厳を支える介護
第3回	介護の理念基礎知識③ 介護における尊厳の保持・自立支援/自立に向けた介護
第4回	介護の理念基礎知識④ 介護従事者の倫理
第5回	介護の理念基礎知識⑤ 介護における安全の確保とリスクマネジメント
第6回	介護の理念・基礎知識 確認テスト
第7回	介護過程とコミュニケーションの理解① 介護過程の意義、介護過程の展開
第8回	介護過程とコミュニケーションの理解② コミュニケーションの基本と応用①
第9回	介護過程とコミュニケーションの理解③ コミュニケーションの基本と応用②
第10回	介護過程とコミュニケーションの理解④ 介護過程の実践的展開
第11回	介護過程とコミュニケーションの理解⑤ 介護過程とチームアプローチ/多職種連携
第12回	介護過程とコミュニケーションの理解 確認テスト
第13回	介護各論①身じたく、移動、食事・家事① 身じたくに関連したところからだのしくみ/自立に向けた身じたくの介護
第14回	介護各論①身じたく、移動、食事・家事② 移動に関連したところからだのしくみ/自立に向けた移動の介護
第15回	介護各論①身じたく、移動、食事・家事③ 食事・家事に関連したところからだのしくみ/自立に向けた食事・家事の介護

■受講生に関わる情報および受講のルール

介護福祉特講は、国家試験を受験しない養成校の学生にとっての合格する力をつけるための科目である。卒業時に実施される「卒業時共通試験」に合格する実力をつけると同時に、国家試験合格の実力をつけるための科目である。この科目及び卒業時共通試験の成績は、学生自身が、介護福祉士国家試験を合格か否かを示すものになる。予習復習を基本として意欲的に履修すること。授業時は、シラバスを参照して該当するテキスト巻と「図で分かる!重要ポイント88」を持参すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

国家試験の勉強は、とにかく反復練習を繰り返すこと。得点は机に向かった時間と比例する。得点が伸びないのはすべきことをやっていないだけ。勉強時間を確保する生活リズムをつけること。

■オフィスアワー

1限の時間帯、12:00～12:40

■評価方法

授業中に実施する確認テスト及び定期試験、国家試験過去問テストの総得点率で評価を行なう。

- ※1得点率小数点以下四捨五入
- ※2確認テスト及び過去問テスト欠席の場合は0点として扱う。
- ※3定期試験は履修中に実施した確認テストを中心に出题する。

■教科書

介護福祉士国家試験対策基本テキスト1巻～7巻(日本医療企画)

■参考書

オリジナル予想問題チャレンジ360(日本医療企画)、図でわかる!重要ポイント88(日本医療企画)

科目名	介護福祉特講Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	片桐 幸司	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	介護福祉士国家試験対策				

■授業の目的・到達目標

- ①介護福祉士指定科目の概要をつかめる。
- ②介護福祉士指定科目の基礎を理解できる。
- ③介護福祉士国家試験及び卒業時共通試験に合格する実力が身につく。

■授業の概要

この介護福祉特講Ⅰは、介護福祉分野の学びをより確実なものにするために、介護福祉士指定科目の広い範囲を概説的に指導する。このことで介護福祉士指定科目、国家試験及び卒業時共通試験に対する学習支援として位置付ける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第16回	介護各論①身じたく、移動、食事・家事④ 前期振り返り①
第17回	介護各論①身じたく、移動、食事・家事⑤ 前期振り返り②
第18回	介護各論①身じたく、移動、食事・家事 確認テスト
第19回	介護各論②入浴、清潔保持、排泄、睡眠① 入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ/自立に向けた入浴・清潔保持の介護
第20回	介護各論②入浴、清潔保持、排泄、睡眠② 排泄に関連したところとからだのしくみ/自立に向けた排泄の介護
第21回	介護各論②入浴、清潔保持、排泄、睡眠③ 睡眠に関連したところとからだのしくみ/自立に向けた睡眠の介護
第22回	介護各論②入浴、清潔保持、排泄、睡眠 確認テスト
第23回	介護各論③認知症患者への支援、ターミナルケア① 認知症に関連したところとからだの理解/自立に向けた認知症の介護
第24回	介護各論③認知症患者への支援、ターミナルケア② 死にゆく人のところとからだのしくみ/終末期の介護
第25回	介護各論③認知症患者への支援、ターミナルケア 確認テスト
第26回	1年のまとめ① 国家試験過去問テスト これまでの履修範囲について国家試験過去問等から選抜して出題
第27回	1年のまとめ② 国家試験過去問テスト これまでの履修範囲について国家試験過去問等から選抜して出題
第28回	1年のまとめ③ 国家試験過去問テスト これまでの履修範囲について国家試験過去問等から選抜して出題
第29回	1年のまとめ④ 国家試験過去問テスト これまでの履修範囲について国家試験過去問等から選抜して出題
第30回	1年のまとめ⑤ 国家試験過去問テスト これまでの履修範囲について国家試験過去問等から選抜して出題

■受講生に関わる情報および受講のルール

介護福祉特講は、国家試験を受験しない養成校の学生にとっての合格する力をつけるための科目である。卒業時に実施される「卒業時共通試験」に合格する実力をつけると同時に、国家試験合格の実力をつけるための科目である。この科目及び卒業時共通試験の成績は、学生自身が、介護福祉士国家試験を合格か否かを示すものになる。予習復習を基本として意欲的に履修すること。授業時は、シラバスを参照して該当するテキスト巻と「図で分かる!重要ポイント88」を持参すること。

※初回のみ「オリジナル予想問題チャレンジ360」を併せて持参。

■授業時間外学習にかかわる情報

国家試験の勉強は、とにかく反復練習を繰り返すこと。得点は机に向かった時間と比例する。得点が伸びないのはすべきことをやっていないだけ。勉強時間を確保する生活リズムをつけること。

■オフィスアワー

1限の時間帯、12:00～12:40

■評価方法

授業中に実施する確認テスト及び定期試験、国家試験過去問テストの総得点率で評価を行なう。

※1 得点率小数点以下四捨五入

※2 確認テスト及び過去問テスト欠席の場合は0点として扱う。

※3 定期試験は履修中に実施した確認テストを中心に出题する。

■教科書

介護福祉士国家試験対策基本テキスト1巻～7巻(日本医療企画)

■参考書

オリジナル予想問題チャレンジ360(日本医療企画)、図でわかる!重要ポイント88(日本医療企画)

科目名	介護福祉特講Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	片桐 幸司	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	介護福祉士国家試験対策 卒業時共通試験				

■授業の目的・到達目標

- ①介護福祉士指定科目の概要をつかめる。
- ②介護福祉士指定科目の基礎を理解できる。
- ③介護福祉士国家試験及び卒業時共通試験に合格する実力が身につく。

■授業の概要

この介護福祉特講Ⅱは、介護福祉分野の学びをより確実なものにするために、介護福祉士指定科目の広い範囲を概説的に指導する。このことで介護福祉士指定科目、国家試験及び卒業時共通試験に対する学習支援として位置付ける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション 法・制度の理解① 家族・地域、社会保障の基本概念、日本の社会保障制度史
第2回	法・制度の理解② 国民年金、医療保険制度
第3回	法・制度の理解①② 確認テスト
第4回	法・制度の理解③ 介護保険制度① 創設の背景・目的・動向
第5回	法・制度の理解④ 介護保険制度② 制度の基本理解
第6回	法・制度の理解⑤ 介護保険制度③ 国・都道府県・市町村の役割
第7回	法・制度の理解③④⑤ 確認テスト
第8回	法・制度の理解⑥ 障害者自立支援制度① 創設の背景・目的・動向
第9回	法・制度の理解⑦ 障害者自立支援制度② 制度の基本理解
第10回	法・制度の理解⑧ 障害者自立支援制度③ 国・都道府県・市町村の役割
第11回	法・制度の理解⑥⑦⑧ 確認テスト
第12回	法・制度の理解⑨ 介護実践に関する諸制度① 個人の権利を守る制度の概要
第13回	法・制度の理解⑩ 介護実践に関する諸制度② 保健医療福祉に関する施策の概要
第14回	法・制度の理解⑪ 介護実践に関する諸制度③ 介護と関連領域に必要な法規、生活保護制度
第15回	法・制度の理解⑨⑩⑪ 確認テスト

■受講生に関わる情報および受講のルール

介護福祉特講は、国家試験を受験しない養成校の学生にとっての合格する力をつけるための科目である。卒業時に実施される「卒業時共通試験」に合格する実力をつけると同時に、国家試験合格の実力をつけるための科目である。この科目及び卒業時共通試験の成績は、学生自身が、介護福祉士国家試験を合格か否かを示すものになる。予習復習を基本として意欲的に履修すること。授業時は、シラバスを参照して該当するテキスト巻と「図で分かる!重要ポイント88」を持参すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

国家試験の勉強は、とにかく反復練習を繰り返すこと。得点は机に向かった時間と比例する。得点が伸びないのはすべきことをやっていないだけ。勉強時間を確保する生活リズムをつけること。

■オフィスアワー

1限の時間帯、12:00～12:40

■評価方法

授業中に実施する確認テスト及び定期試験、国家試験過去問テストの総得点率で評価を行なう。
 ※1 得点率小数点以下四捨五入
 ※2 確認テスト無断欠席の場合0点として扱う。
 ※定期試験は履修中に実施した確認テストを中心に出題する。

■教科書

介護福祉士国家試験対策基本テキスト1巻～7巻(日本医療企画)

■参考書

オリジナル予想問題チャレンジ360(日本医療企画)、図でわかる!重要ポイント88(日本医療企画)

科目名	介護福祉特講Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	片桐 幸司	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	介護福祉士国家試験対策				

■授業の目的・到達目標

- ①介護福祉士指定科目の概要をつかめる。
- ②介護福祉士指定科目の基礎を理解できる。
- ③介護福祉士国家試験及び卒業時共通試験に合格する実力が身につく。

■授業の概要

この介護福祉特講Ⅱは、介護福祉分野の学びをより確実なものにするために、介護福祉士指定科目の広い範囲を概説的に指導する。このことで介護福祉士指定科目、国家試験及び卒業時共通試験に対する学習支援として位置付ける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	被介護者の理解① 人間の発達と基礎的理解
第17回	被介護者の理解② 高齢者に生じやすい症状
第18回	被介護者の理解①② 確認テスト
第19回	被介護者の理解③ 解剖生理と病態生理① 神経系、循環器系
第20回	被介護者の理解④ 解剖生理と病態生理② 血液・造血系、消化器系
第21回	被介護者の理解⑤ 解剖生理と病態生理③ 消化器、呼吸器系
第22回	被介護者の理解⑥ 解剖生理と病態生理④ 腎・泌尿器系、内分泌系
第23回	被介護者の理解⑦ 解剖生理と病態生理⑤ 感覚器系、筋・骨格系
第24回	被介護者の理解⑧ 解剖生理と病態生理⑥ アレルギー、膠原病、がん、生活習慣病、メタボリックシンドローム
第25回	被介護者の理解③～⑧ 確認テスト
第26回	被介護者の理解⑨ 認知症の医学面の理解① 認知症の定義と原因疾患、認知症の症状
第27回	被介護者の理解⑩ 認知症の医学面の理解② 認知症の検査、治療の実際
第28回	被介護者の理解⑨⑩ 確認テスト
第29回	被介護者の理解⑪ 障害の医学面の理解
第30回	被介護者の理解⑪ 確認テスト

■受講生に関わる情報および受講のルール

介護福祉特講は、国家試験を受験しない養成校の学生にとっての合格する力をつけるための科目である。卒業時に実施される「卒業時共通試験」に合格する実力をつけると同時に、国家試験合格の実力をつけるための科目である。この科目及び卒業時共通試験の成績は、学生自身が、介護福祉士国家試験を合格か否かを示すものになる。予習復習を基本として意欲的に履修すること。授業時は、シラバスを参照して該当するテキスト巻と「図で分かる!重要ポイント88」を持参すること。

※初回のみ「オリジナル予想問題チャレンジ360」を併せて持参。

■授業時間外学習にかかわる情報

国家試験の勉強は、とにかく反復練習を繰り返すこと。得点は机に向かった時間と比例する。得点が伸びないのはすべきことをやっていないだけ。勉強時間を確保する生活リズムをつけること。

■オフィスアワー

1限の時間帯、12:00～12:40

■評価方法

授業中に実施する確認テスト及び定期試験、国家試験過去問テストの総得点率で評価を行なう。

※1得点率小数点以下四捨五入

※2確認テスト無断欠席の場合0点として扱う。

※3定期試験は履修中に実施した確認テストを中心に出题する。

■教科書

介護福祉士国家試験対策基本テキスト1巻～7巻(日本医療企画)

■参考書

オリジナル予想問題チャレンジ360(日本医療企画)、図でわかる!重要ポイント88(日本医療企画)

介護福祉士指定科目

科目名	社会と制度の理解	担当教員 (単位認定者)	土屋 昭雄	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	介護保険制度 皆保険皆年金 権利擁護				

■授業の目的・到達目標

対人援助職である福祉従事者として、さまざまな法律・制度について把握しておくことは、極めて重要なことである。そこで、本講義においては、介護福祉士、あるいは、社会福祉士として業務を遂行していくうえで不可欠な法制度の目的・意義、しくみ等の概要理解を目的とする。

■授業の概要

介護福祉士として把握しておくべき、福祉関係法制を中心に概説していく。また、福祉を取り巻く現況、動向についても言及していく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	社会福祉の考え方
第3回	少子高齢社会の現状および課題
第4回	介護保険制度①(制度創設の背景・制度の基盤システム)
第5回	介護保険制度②(利用手続き)
第6回	介護保険制度③(サービス概要)
第7回	介護保険制度④(制度運営)
第8回	生活保護制度①(生活保護法の目的・基本原理・基本原則)
第9回	生活保護制度②(生活保護の種類および内容)
第10回	生活保護制度③(被保護者の権利義務)
第11回	生活保護制度④(生活保護の動向ほか)
第12回	社会保険制度概説
第13回	公的年金制度①(国民年金)
第14回	公的年金制度②(国民年金)
第15回	前期総括

■受講生に関わる情報および受講のルール

私語は慎み、真摯な態度で授業に臨むこと。教科書・諸文献等を用い、必ず予習、復習すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期試験による。

■教科書

介護福祉士養成講座編集委員会編『社会と制度の理解』中央法規出版
医療情報科学研究所編『介護スタッフ・介護学生のための なぜ? どうして? ①社会と福祉のしくみ』メディックメディア

■参考書

福祉小六法

科目名	社会と制度の理解	担当教員 (単位認定者)	土屋 昭雄	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	介護保険制度 皆保険皆年金 権利擁護				

■授業の目的・到達目標

対人援助職である福祉従事者として、さまざまな法律・制度について把握しておくことは、極めて重要なことである。そこで、本講義においては、介護福祉士、あるいは、社会福祉士として業務を遂行していくうえで不可欠な法制度の目的・意義、しくみ等の概要理解を目的とする。

■授業の概要

介護福祉士として把握しておくべき、福祉関係法制を中心に概説していく。また、福祉を取り巻く現況、動向についても言及していく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	科目オリエンテーション、前期復習
第17回	公的年金制度③(厚生年金)
第18回	公的年金制度④(共済年金)
第19回	医療保険制度①(国民健康保険)
第20回	医療保険制度②(健康保険・共済組合)
第21回	医療保険制度③(後期高齢者医療制度)
第22回	雇用保険・労働者災害補償保険
第23回	障害者総合支援法概説(制度のしくみ)
第24回	虐待防止法概説(児童・高齢者・DV・障害者)
第25回	介護実践にかかわる諸制度①
第26回	介護実践にかかわる諸制度②
第27回	確認テスト
第28回	確認テスト概説
第29回	確認テスト概説
第30回	総括

■受講生に関わる情報および受講のルール

私語は慎み、真摯な態度で授業に臨むこと。教科書・諸文献等を用い、必ず予習、復習すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期試験による。

■教科書

介護福祉士養成講座編集委員会編『社会と制度の理解』中央法規出版
医療情報科学研究所編『介護スタッフ・介護学生のための なぜ? どうして? ①社会と福祉のしくみ』メディックメディア

■参考書

福祉小六法

科目名	介護保険請求制度論	担当教員 (単位認定者)	関口 喜久代	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	介護保険請求制度論				

■授業の目的・到達目標

サービス提供表より介護保険請求レセプトを作成することができる。わが国の介護保険制度の概要としくみを理解し、多種類の居宅サービスや施設サービス費の算定方法を習得する。介護保険制度をより深く学ぶ。

■授業の概要

授業は講義およびレセプト作成の方法を学ぶ。テキストは実務編や学科編を使用し、単位数はコード表から検索する。テキストを中心として、講義・演習を進めていく。問題集等も使用する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	介護保険制度の背景と仕組み
第2回	介護保険サービスの種類と内容①
第3回	介護保険サービスの種類と内容②
第4回	介護保険給付の仕組み・介護報酬
第5回	地域区分単価
第6回	在宅サービス支給限度基準額
第7回	その他の利用料
第8回	居宅サービスの算定方法
第9回	居宅サービスの算定方法
第10回	居宅サービスの算定方法
第11回	居宅サービスのレセプト作成
第12回	居宅サービスのレセプト作成
第13回	居宅サービスのレセプト作成
第14回	施設サービスの算定方法
第15回	施設サービスの算定方法

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1、講義中の迷惑な行為は慎む。(私語や携帯電話の使用等)
- 2、卓上用の計算機を準備すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

毎回の講義・演習内容を主に復習を重ねる。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

平常点20%、筆記試験・実技試験80%
*出欠状況・授業態度も含んで総合的に評価する。

■教科書

介護保険事務士養成テキスト(実務編・学科編・介護給付費単位数等サービスコード表介護報酬の算定構造

■参考書

必要時、資料を配布する。

科目名	介護保険請求制度論	担当教員 (単位認定者)	関口 喜久代	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	介護保険請求制度論				

■授業の目的・到達目標

サービス提供表より介護保険請求レセプトを作成することができる。わが国の介護保険制度の概要としくみを理解し、多種類の居宅サービスや施設サービス費の算定方法を習得する。介護保険制度をより深く学ぶ。

■授業の概要

授業は講義およびレセプト作成の方法を学ぶ。テキストは実務編や学科編を使用し、単位数はコード表から検索する。テキストを中心として、講義・演習を進めていく。問題集等も使用する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	施設サービスのレセプト作成
第17回	施設サービスのレセプト作成
第18回	施設サービスのレセプト作成
第19回	施設サービスのレセプト作成
第20回	地域密着型サービスの算定方法
第21回	地域密着型サービスのレセプト作成
第22回	認知症対応型共同生活介護施設の算定方法
第23回	認知症対応型共同生活介護施設のレセプト作成
第24回	介護予防サービスの算定方法
第25回	介護予防サービスのレセプト作成
第26回	練習問題
第27回	練習問題
第28回	練習問題
第29回	模擬試験
第30回	模擬試験

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1、講義中の迷惑な行為は慎む。(私語や携帯電話の使用等)
- 2、卓上用の計算機を準備すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

毎回の講義・演習内容を主に復習を重ねる。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

平常点20%、筆記試験・実技試験80%
*出欠状況・授業態度も含んで総合的に評価する。

■教科書

介護保険事務士養成テキスト(実務編・学科編・介護給付費単位数等サービスコード表介護報酬の算定構造

■参考書

必要時、資料を配布する。

科目名	レクリエーション活動援助法	担当教員 (単位認定者)	高橋 良枝	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	ホスピタリティ精神・意義と歴史・アイスブレイキング・相互作用の活用・ハードル設定				

■授業の目的・到達目標

〔目的〕

対象者が元気で自立した豊かな生活を送れるような、レクリエーション援助ができるようになる。

〔到達目標〕

レクリエーションの意義を理解し、脳トレやゲーム等の技術・手法を身につけ、対象者にふさわしい形で様々なレクリエーション活動援助の支援が展開できるようになる。それにより公認指導者資格(レクリエーション・インストラクター)も取得することができる。

■授業の概要

レクリエーション活動援助者として、必要な理論と基礎技術を身につけ良好な人間関係が構築できるように、対象者を理解し受け止めるホスピタリティ精神や、レクリエーション財の獲得・楽しさの雰囲気づくり等を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目 オリエンテーション
第2回	コミュニケーション・ワーク (ホスピタリティ①)
第3回	コミュニケーション・ワーク (ホスピタリティ②)
第4回	基礎理論 (レクリエーションの意義)
第5回	基礎理論 (レクリエーションの歴史と背景①)
第6回	基礎理論 (レクリエーションの歴史と背景②)
第7回	基礎理論 (レクリエーション運動を支える制度)
第8回	目的にあわせたレクリエーション・ワーク (素材・アクティビティの選択)
第9回	目的にあわせたレクリエーション・ワーク (相互作用の活用)
第10回	目的にあわせたレクリエーション・ワーク (ハードル設定)
第11回	目的にあわせたレクリエーション・ワーク (演習)
第12回	コミュニケーション・ワーク (アイスブレイキング)
第13回	コミュニケーション・ワーク (アイスブレイキングのプログラミング)
第14回	コミュニケーション・ワーク (演習)
第15回	半期のまとめ (ふりかえり・評価)

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業は教科書に沿って進めるが、演習(実技)はグループ・ワークで、楽しさの体験学習を行うので、積極的な授業参加を前提とする。授業中の私語、携帯電話の使用は禁止します。課題は必ず提出すること。出席を常とし、遅刻をしないこと(遅刻3回で欠席1回とカウントする)。必要のないものは机の上に置かない。

■授業時間外学習にかかわる情報

学校外で開催される各種大会や講習会・セミナー・ボランティア等へ積極的に参加し、楽しい体験・人間交流の中でレクリエーション活動支援の在り方、技術、手法を習得してください。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験 70% 課題提出 20% 学習態度 10% (取り組み姿勢・積極性・コミュニケーション能力)

■教科書

レクリエーション支援の基礎 (公益財団法人) 日本レクリエーション協会発行

■参考書

必要に応じて適宜紹介する。

科目名	レクリエーション活動援助法	担当教員 (単位認定者)	高橋 良枝	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	ライフステージでの高齢者の欲求・アレンジ技術・A-PIEプロセス・安全管理				

■授業の目的・到達目標

〔目的〕

対象者が元気で自立した豊かな生活を送れるような、レクリエーション援助ができるようになる。

〔到達目標〕

レクリエーションの意義を理解し、脳トレやゲーム等の技術・手法を身につけ、対象者にふさわしい形で様々なレクリエーション活動援助の支援が展開できるようになる。それにより公認指導者資格(レクリエーション・インストラクター)も取得することができる。

■授業の概要

年代ごとの特徴や課題を知り、レクリエーション活動を、対象者にふさわしい形で提供することや集団と環境の重要性を理解する。
一つの事業を企画からプログラムづくり、準備・実施するまでをグループ・ワークで学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	科目 オリエンテーション
第17回	支援論(ライフステージごとの課題)
第18回	支援論(年代ごとの特徴と課題)
第19回	支援論(少子・高齢化社会の課題)
第20回	支援論(治療的意味合いを含めたレクリエーション)
第21回	対象者に合わせたレクリエーション・ワーク(基本技術)
第22回	対象者に合わせたレクリエーション・ワーク(アレンジの技術)
第23回	対象者に合わせたレクリエーション・ワーク(演習①)
第24回	対象者に合わせたレクリエーション・ワーク(演習②)
第25回	事業論(事業の考え方)
第26回	事業論(プログラムの組み立て方)
第27回	事業論(A-PIEプロセス)
第28回	事業論(プログラムの実際)
第29回	事業論(安全管理の考え方)
第30回	一年間の総まとめ(ふりかえり・評価)

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業は教科書に沿って進めるが、演習(実技)はグループ・ワークで、楽しさの体験学習を行うので、積極的な授業参加を前提とする。授業中の私語、携帯電話の使用は禁止します。課題は必ず提出すること。出席を常とし、遅刻をしないこと(遅刻3回で欠席1回とカウントする)。必要のないものは机の上に置かない。

■授業時間外学習にかかわる情報

学校外で開催される各種大会や講習会・セミナー・ボランティア等へ積極的に参加し、楽しい体験・人間交流の中でレクリエーション活動支援の在り方、技術、手法を習得してください。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験 70% 課題提出 20% 学習態度 10%(取り組み姿勢・積極性・コミュニケーション能力)

■教科書

レクリエーション支援の基礎 (公益財団法人)日本レクリエーション協会発行

■参考書

必要に応じて適宜紹介する。

科目名	介護の基本I	担当教員 (単位認定者)	白井 幸久	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会福祉士及び介護福祉士法、介護保険法等				

■授業の目的・到達目標

介護福祉士国家資格が誕生した社会背景などを学び、その社会的役割を理解するとともに、知識・技術及び資格取得の意識を持つことができるようにする。

■授業の概要

介護の意義と役割及び専門性について介護の歴史や関連法規を通じて理解し、介護実践の基本的な姿勢や介護の倫理などを学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	ガイダンス 授業計画や履修上の注意点など
第2回	介護問題の背景と介護福祉士制度
第3回	求められる介護福祉士像
第4回	社会福祉士及び介護福祉士法
第5回	社会福祉士及び介護福祉士法に関連する諸規定
第6回	介護福祉士の倫理 日本介護福祉士会倫理綱領
第7回	介護福祉士の倫理 介護実践における倫理
第8回	介護サービスの意義・特性とケアマネジメント
第9回	介護サービスの歴史的変遷と時代背景①
第10回	介護サービスの歴史的変遷と時代背景②
第11回	介護保険制度によるサービス概要①
第12回	介護保険制度によるサービス概要② 介護保険サービス等の種類
第13回	介護保険制度によるサービス概要③ 居宅サービス等と地域密着型サービス
第14回	介護保険制度によるサービス概要④ 介護保険サービス提供場の特性(高齢者関連)
第15回	前期のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

介護の基本は、介護福祉士の役割を学ぶ出発点となる。介護の意義や目的、介護福祉士の専門性を理解できるように授業に参加すること。必要に応じて小テストを実施する。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業では、單元ごとに課題等を出すので、しっかりと取り組むこと。

■オフィスアワー

火曜日～木曜日までの昼休み。

■評価方法

定期試験60%、課題提出及び小テスト40%

■教科書

介護の基本II 中央法規出版

■参考書

印刷資料等

科目名	介護の基本I	担当教員 (単位認定者)	白井 幸久	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	生活支援、自立支援、尊厳の保持等				

■授業の目的・到達目標

介護福祉士国家資格が誕生した社会背景などを学び、その社会的役割を理解するとともに、知識・技術及び資格取得の意義を持つことができるようにする。

■授業の概要

介護の意義と役割及び専門性について介護の歴史や関連法規を通じて理解し、介護の実践の基本的な姿勢や介護の倫理などを学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	後期ガイダンスと介護保険サービスの種類と提供の場の振り返り
第17回	障害者のためのサービス概要①
第18回	障害者のためのサービス概要② 日中活動系サービスと訪問系サービス
第19回	障害者のためのサービス概要③ 居宅系サービス提供の場とその特性(障害者関連)
第20回	障害者のためのサービス概要④ 入所系サービス提供の場とその特性(障害者関連)
第21回	多職種連携
第22回	地域連携
第23回	介護における全体の確保
第24回	事故防止と安全対策
第25回	感染管理① 生活の場での感染対策等
第26回	感染管理② 基礎知識と対応
第27回	介護職の健康管理① 意義と目的等
第28回	介護職の健康管理② 知識と技術
第29回	介護職の労働環境
第30回	後期のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

介護の基本は、介護福祉士の役割を学ぶ出発点となる。介護の意義や目的、介護福祉士の専門性を理解できるように授業に参加すること。必要に応じて小テストを実施していく。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業では、單元ごとに課題等を出すので、しっかりと取り組むこと。

■オフィスアワー

火曜日～木曜日までの昼休み。

■評価方法

定期試験60%、課題提出及び小テスト40%

■教科書

新・介護福祉士養成講座 「介護の基本Ⅱ」 中央法規出版

■参考書

印刷資料等

科目名	介護の基本Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	白井 幸久	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	生活支援、自立支援、尊厳の保持等				

■授業の目的・到達目標

介護を必要とする人の「生活の理解」や「自立支援」についての理解を深め、生活者として主体的に生きることを可能にするための人間尊重を基盤とした介護観を養う。

■授業の概要

生活者を理解し、自立支援、尊厳の保持について学習し、介護を必要とする人の生活を支える意識や実践についての自分達の生活に照らして考えていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	ガイダンス	授業計画や履修上の注意点など
第2回	生活とは何か	
第3回	生活の特性	
第4回	日本における介護の成り立ち①	施設での介護
第5回	日本における介護の成り立ち②	老人福祉法の制定期以降の施設での介護の質的变化
第6回	日本における介護の成り立ち③	在宅での介護
第7回	介護の見方・考え方の変化	
第8回	高齢者や障害者の暮らし	
第9回	その人らしさの理解①	その人らしさの背景と生活様式・生活文化の多様性
第10回	その人らしさの理解②	社会の変化とその人らしさとは
第11回	生活環境①	生活環境と介護機器等
第12回	生活環境②	くつろぎの場と居場所等
第13回	生活障害の理解	
第14回	生活ニーズ	
第15回	前期のまとめ	

■受講生に関わる情報および受講のルール

介護の基本は、介護福祉士の役割を学ぶ出発点である。介護の意義や目的、介護福祉士の専門性を理解できるように授業に参加すること。必要に応じて小テストを実施していく。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業では、單元ごとに課題等をだすので、しっかりと取り組んでほしい。

■オフィスアワー

火曜日～木曜日までの昼休み。

■評価方法

定期試験60%、課題提出及び小テスト40%

■教科書

新・介護福祉士養成講座 「介護の基本Ⅰ」 中央法規出版

■参考書

印刷資料等

科目名	介護の基本Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	白井 幸久	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会福祉士及び介護福祉士法、介護保険法等				

■授業の目的・到達目標

介護を必要とする人の「生活の理解」や「自立支援」についての理解を深め、生活者として主体的に生きることを可能にするための人間尊重を基盤とした介護観を養う。

■授業の概要

生活者を理解し、自立支援、尊厳の保持について学習し、介護を必要とする人の生活を支える意識や実践についての自らの生活に照らして考えていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	後期ガイダンス 前期授業の振り返りと後期授業内容等
第17回	自立に向けた介護のための介護職の役割
第18回	利用者に合わせた生活支援 「共感」と「個別ケア」等
第19回	自立に向けた支援 手続きの記録等
第20回	介護の専門性
第21回	介護職が行う生活支援① 生活支援と身体介護①
第22回	介護職が行う生活支援② 身体介護②
第23回	介護職が行う生活支援③ 家事支援と相談・援助等
第24回	尊厳を支える介護① 尊厳を支える介護とは
第25回	尊厳を支える介護② QOLの考え方とノーマライゼーション
第26回	介護におけるICFの考え方
第27回	ICFの視点に基づくアセスメント
第28回	介護におけるリハビリテーション
第29回	リハビリテーション専門職との連携
第30回	後期のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

介護の基本は、介護福祉士の役割を学ぶ出発点である。介護の意義や目的、介護福祉士の専門性を理解できるように授業に参加すること。必要に応じて小テストを実施していく。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業では、單元ごとに課題等を出すので、しっかりと取り組むこと。

■オフィスアワー

火曜日～木曜日までの昼休み。

■評価方法

定期試験60%、課題提出及び小テスト40%

■教科書

新・介護福祉士養成講座 「介護の基本Ⅰ」 中央法規出版

■参考書

印刷資料等

科目名	介護の基本Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	土屋 昭雄	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	介護の基本Ⅱ (ICFの理解と介護)				

■授業の目的・到達目標

介護の実践場面では、ケアの根拠を示すことが必須条件となる。ICF(国際生活機能分類)の視点をもとに根拠を提示し、同職種・多職種間の共通言語として理解を深めるとともに、協働・連携の場面で活用できることを目指す。また、個別援助計画立案の際のアセスメントの視点としても活用されるべき知識であることを認識し、観察の視点として活用できることを目指す。

■授業の概要

ICF(国際生活機能分類)の理解をすすめます。介護福祉士が介護の専門職として提供するケアの根拠となる内容について理解を深めます。また、同職種・多職種間の共通言語としての視点を学びます。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	ICFの基本的特徴
第3回	ICFの基本となる要素
第4回	生活機能とは①
第5回	生活機能とは②
第6回	活動とは①
第7回	活動とは②
第8回	参加とは①
第9回	参加とは②
第10回	心身機能と身体構造①
第11回	心身機能と身体構造②
第12回	背景因子とは
第13回	環境因子とは
第14回	個人因子とは
第15回	前期まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・レポート等の課題の提出期限を守ること。
- ・出席不足の場合には、定期試験が受験できず未修得となる。
- ・遅刻、欠席、早退の場合は理由を申し出ること。
- ・授業の雰囲気や乱す、他の学生の迷惑になる行為は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業前後に授業に関連する課題を出します。課題に取り組み、授業に臨んでください。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期試験60% 課題レポート20% 小テスト20%

■教科書

新・介護福祉士養成講座 「介護の基本Ⅱ」

■参考書

授業の中で適宜紹介する。

科目名	介護の基本Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	土屋 昭雄	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	介護の基本Ⅱ (ICFの理解と介護)				

■授業の目的・到達目標

介護の実践場面では、ケアの根拠を示すことが必須条件となる。ICF(国際生活機能分類)の視点をもとに根拠を提示し、同職種・多職種間の共通言語として理解を深めるとともに、協働・連携の場面で活用できることを目指す。また、個別援助計画立案の際のアセスメントの視点としても活用されるべき知識であることを認識し、観察の視点として活用できることを目指す。

■授業の概要

ICF(国際生活機能分類)の理解をすすめます。介護福祉士が介護の専門職として提供するケアの根拠となる内容について理解を深めます。また、同職種・多職種間の共通言語としての視点を学びます。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	前期復習
第17回	ICFの視点に立った介護のあり方①
第18回	ICFの視点に立った介護のあり方②
第19回	ICFの視点に立った介護のあり方③
第20回	背景因子が生活機能に及ぼす影響
第21回	健康状態が生活機能に及ぼす影響
第22回	生活不活発病と生活機能低下の悪循環
第23回	「目標」の大切さ
第24回	「目標」達成のための支援
第25回	安全の確保とリスクマネジメント
第26回	事故防止、安全対策
第27回	連携・協働
第28回	活動向上に向けた「よくする介護」の進め方①
第29回	活動向上に向けた「よくする介護」の進め方②
第30回	後期のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・レポート等の課題の提出期限を守ること。
- ・出席不足の場合には、定期試験が受験できず未修得となる。
- ・遅刻、欠席、早退の場合は理由を申し出ること。
- ・授業の雰囲気や乱す、他の学生の迷惑になる行為は厳禁

■授業時間外学習にかかわる情報

授業前後に授業に関連する課題を出します。課題に取り組み、授業に臨んでください。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期試験60% 課題レポート20% 小テスト20%

■教科書

新・介護福祉士養成講座 「介護の基本Ⅱ」

■参考書

授業の中で適宜紹介する。

科目名	コミュニケーション技術	担当教員 (単位認定者)	川口 真実	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	コミュニケーション技術				

■授業の目的・到達目標

コミュニケーションの意義や目的を理解し、具体的なコミュニケーション技法の習得を目指す。

■授業の概要

演習での授業方法を中心にし、対人援助としてのコミュニケーションのあり方について理解し、具体的な利用者・家族に対するコミュニケーションの技法、ならびに介護チームの多職種間のコミュニケーション技法について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション【自己紹介・授業説明】
第2回	対人援助について
第3回	コミュニケーションについて
第4回	コミュニケーション技法について
第5回	介護福祉士におけるコミュニケーションの役割
第6回	価値観と受容について
第7回	自己覚知について
第8回	アクティブリスニングについて
第9回	利用者のコミュニケーションについて
第10回	質問技法について
第11回	共感的理解について
第12回	会話の分析
第13回	事例検討①
第14回	報告・連絡・相談
第15回	プロセスレコード

■受講生に関わる情報および受講のルール

講義中に演習等を行うため、遅刻や欠席をしないように注意すること。
また、毎回小テストを実施するため、予習・復習を徹底すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

試験 60%、出席状況・受講態度 20%、小テスト 20%

■教科書

「新・介護福祉士養成講座 コミュニケーション技術」中央法規

■参考書

黒澤貞夫、小熊順子「コミュニケーション技術」建帛社

科目名	コミュニケーション技術	担当教員 (単位認定者)	川口 真実	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	コミュニケーション技術				

■授業の目的・到達目標

コミュニケーションの意義や目的を理解し、具体的なコミュニケーション技法の習得を目指す。

■授業の概要

演習での授業方法を中心にし、対人援助としてのコミュニケーションのあり方について理解し、具体的な利用者・家族に対するコミュニケーションの技法、ならびに介護チームの多職種間のコミュニケーション技法について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	介護場面におけるコミュニケーション
第17回	プレゼンテーション①
第18回	プレゼンテーション②
第19回	利用者の特性に応じたコミュニケーション〈コミュニケーション障害〉
第20回	利用者の特性に応じたコミュニケーション〈高次脳機能障害、失語症〉
第21回	利用者の特性に応じたコミュニケーション〈視覚障害者、聴覚障害者、精神障害者〉
第22回	利用者の特性に応じたコミュニケーション〈知的障害者、認知症高齢者〉
第23回	事例検討①
第24回	事例検討②
第25回	事例検討③
第26回	コミュニケーション障害の実際
第27回	記録の実際①
第28回	記録の実際②
第29回	記録の実際③
第30回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

講義中に演習等を行うため、遅刻や欠席をしないように注意すること。
また、毎回小テストを実施するため、予習・復習を徹底すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

試験 60%、出席状況・受講態度 20%、小テスト 20%

■教科書

「新・介護福祉士養成講座 コミュニケーション技術」中央法規

■参考書

黒澤貞夫、小熊順子「コミュニケーション技術」建帛社

科目名	生活支援技術Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	矢島 栄司・辻 志帆	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	生活支援技術Ⅰ				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

介護を必要としている人に対して、介護者として、相手をよく理解し、適切な介護を提供できるよう技術の基本的知識、技術を習得する。科学的根拠に基づいた介護技術を学ぶ。

■授業の概要

授業は講義および演習とし、単元ごとに講義により必要事項の説明や関連事項の知識を学ぶ。演習により体験を通して、介護技術の方法を学ぶ。

教科書を中心として、講義・演習を進めていく。受講生の関心や理解の程度により多少の変更も考慮する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション・ガイダンス
第2回	居住環境の整備
第3回	他職種の役割と協働
第4回	高齢者の疑似体験
第5回	福祉用具の展示場見学
第6回	ベッドメイキング
第7回	移動介護・安全な杖歩行（視覚障害者への支援）
第8回	車イスでの移乗・移動介護
第9回	車イスの介助②
第10回	体位変換の介護①
第11回	安楽な「体位」保持と介護
第12回	口腔ケア
第13回	身じたくの介護
第14回	入浴の介護
第15回	入浴の介護介護・機械浴・一般浴

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1、講義中の迷惑な行為は慎む。(私語や携帯電話の使用等)
- 2、演習時は、学校指定のジャージを必ず着用すること
- 3、上履きの後は踏まないこと

■授業時間外学習にかかわる情報

毎回の講義・演習内容を主に復習を重ねる。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

平常点20%、授業内レポート20%、筆記試験・実技試験60%

*出欠状況・授業態度も含んで総合的に評価する。

■教科書

新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅱ

■参考書

- 1、必要時、資料を配布する。
- 2、参考文献は授業時に適宜紹介する。

科目名	生活支援技術Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	矢島 栄司・辻 志帆	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	生活支援技術Ⅰ				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

介護を必要としている人に対して、介護者として、相手をよく理解し、適切な介護を提供できるよう技術の基本的知識、技術を習得する。科学的根拠に基づいた介護技術を学ぶ。

■授業の概要

授業は講義および演習とし、単元ごとに講義により必要事項の説明や関連事項の知識を学ぶ。演習により体験を通して、介護技術の方法を学ぶ。

教科書を中心として、講義・演習を進めていく。受講生の関心や理解の程度により多少の変更も考慮する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	清潔の意義と目的・清拭の介護
第17回	洗髪・部分浴の介護
第18回	洗髪の介護②
第19回	自立に向けた食事介護の意義と目的・食事のメカニズム
第20回	食事の基本的な知識・誤嚥の予防と対応
第21回	認知症・視覚に障害をもつ利用者の食事介護
第22回	排泄の意義と目的・排泄のメカニズム移動介護
第23回	排泄介護・ポータブルトイレの介護
第24回	排泄介護・差し込み便器・尿器での介護
第25回	排泄介護・布オムツ・紙オムツでの介護
第26回	利用者の状態に応じた介護方法
第27回	睡眠の意義と目的・睡眠介護
第28回	終末期の介護
第29回	総合的な介護技術演習
第30回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1、講義中の迷惑な行為は慎む。(私語や携帯電話の使用等)
- 2、演習時は、学校指定のジャージを必ず着用すること
- 3、上履きの後は踏まないこと

■授業時間外学習にかかわる情報

毎回の講義・演習内容を主に復習を重ねる。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

平常点20%、授業内レポート20%、筆記試験・実技試験60%
*出欠状況・授業態度も含んで総合的に評価する。

■教科書

新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅱ

■参考書

- 1、必要時、資料を配布する。
- 2、参考文献は授業時に適宜紹介する。

科目名	生活支援技術Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	矢島 栄司・辻 志帆	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	生活支援技術Ⅱ				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

介護を必要としている人に対して、介護者として、相手をよく理解し、適切な介護を提供できるよう技術の基本的知識、技術を習得する。科学的根拠に基づいた介護技術を学ぶ。

■授業の概要

授業は講義および演習とし、単元ごとに講義により必要事項の説明や関連事項の知識を学ぶ。演習により体験を通して、介護技術の方法を学ぶ。

教科書を中心として、講義・演習を進めていく。受講生の関心や理解の程度により多少の変更も考慮する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	生活とは何か・生活支援の基本的な考え方
第2回	家庭生活にかかわる基本知識
第3回	高齢者の生活史を学び、理解する
第4回	生活支援と福祉用具の活用
第5回	ベッドメイキング
第6回	移動の意義と目的・ボデイメカニクス
第7回	安全な「歩行」を支える介護・杖歩行
第8回	安全な車イスの介護方法を理解する
第9回	車イスの介護③
第10回	体位変換の介護②
第11回	ベッド上での移動介護①
第12回	口腔ケア
第13回	身じたくの介護
第14回	入浴の介護
第15回	入浴の介護介護・機械浴・一般浴

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1、講義中の迷惑な行為は慎む。(私語や携帯電話の使用等)
- 2、演習時は、学校指定のジャージを必ず着用すること
- 3、上履きの後は踏まないこと

■授業時間外学習にかかわる情報

毎回の講義・演習内容を主に復習を重ねる。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

平常点20%、授業内レポート20%、筆記試験・実技試験60%
*出欠状況・授業態度も含んで総合的に評価する。

■教科書

新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅱ

■参考書

- 1、必要時、資料を配布する。
- 2、参考文献は授業時に適宜紹介する。

科目名	生活支援技術Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	矢島 栄司・辻 志帆	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	生活支援技術Ⅱ				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

介護を必要としている人に対して、介護者として、相手をよく理解し、適切な介護を提供できるよう技術の基本的知識、技術を習得する。科学的根拠に基づいた介護技術を学ぶ。

■授業の概要

授業は講義および演習とし、単元ごとに講義により必要事項の説明や関連事項の知識を学ぶ。演習により体験を通して、介護技術の方法を学ぶ。

教科書を中心として、講義・演習を進めていく。受講生の関心や理解の程度により多少の変更も考慮する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	清潔保持の介護・清拭
第17回	部分浴(足浴)の介護
第18回	洗髪の介護
第19回	食事介護・座位姿勢での介護
第20回	食事介護・臥床での介護
第21回	排泄介護・トイレ誘導の介護
第22回	排泄介護・車イスでの介護
第23回	排泄介護・布オムツの当て方①
第24回	排泄介護・紙オムツの当て方②
第25回	利用者の状態に応じた介護方法
第26回	終末期の介護
第27回	総合的な介護演習
第28回	総合的な介護演習
第29回	総合的な介護演習
第30回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1、講義中の迷惑な行為は慎む。(私語や携帯電話の使用等)
- 2、演習時は、学校指定のジャージを必ず着用すること
- 3、上履きの後は踏まないこと

■授業時間外学習にかかわる情報

毎回の講義・演習内容を主に復習を重ねる。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

平常点20%、授業内レポート20%、筆記試験・実技試験60%
*出欠状況・授業態度も含んで総合的に評価する。

■教科書

新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅱ

■参考書

- 1、必要時、資料を配布する。
- 2、参考文献は授業時に適宜紹介する。

科目名	生活支援技術Ⅳ	担当教員 (単位認定者)	山岸 裕美子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	衣 食 住 家庭経済 家庭管理 生活文化				

■授業の目的・到達目標

利用者に対する日常生活の支援を行うために、家庭生活や日常生活そのものの本質を理解するとともに、生活事象の原理原則を知る。さらに、日本の自然を背景とする生活文化についての知識も身につけ、支援に活かせるようになる。

■授業の概要

衣・食・住・家庭経済・家庭管理について、「生活を科学する」ことをモットーとし、学際的に学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	ガイダンス：「生活を科学する」とは？(「生活科学チェックテスト」)
第2回	「生活科学チェックテスト」をととした生活支援についての理解
第3回	生活の経営：家族・家庭生活の現状
第4回	生活の経営：家族周期と生活設計 生活時間と家事労働・介護労働 高齢期の生活設計
第5回	生活の経営：ライフコースの作成①
第6回	生活の経営：ライフコースの作成②
第7回	被服生活：被服の役割と機能「装うこと」をととしての生活支援の方法
第8回	被服生活：裁縫の基礎①
第9回	被服生活：裁縫の基礎②
第10回	被服生活：被服の素材① 繊維の観察 繊維の種類と特徴①
第11回	被服生活：被服の素材② 繊維の種類と特徴②
第12回	被服生活：被服の素材③ 布の種類 布の加工と新素材
第13回	被服生活：紙オムツの観察(被服素材の知識をもとに)
第14回	被服生活：被服の選択と管理① 品質表示
第15回	被服生活：被服の選択と管理② 被服の選択(サイズ等)

■受講生に関わる情報および受講のルール

一つの単元が終了した時点で小テストを行うので、毎時間真剣に取り組むこと(実施日は事前に知らせる)。ワークシートや作品などは、提出期限を守ること(期限を過ぎて提出された物は、評価の対象としない)。実習・実験はグループ学習の形態で行うので、メンバーと協力し合いながら積極的に取り組むこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

日常生活に関する事象を取り扱うので、各自、買い物(食材や生活用品)・洗濯・家の中の各所の掃除などを行っていること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

小テスト(50%) 提出物(30%) 実践活動への取り組み(20%)

■教科書

佐々井 啓 監修『家政学概論(介護福祉士実践ブック)』(共栄出版)

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	生活支援技術Ⅳ	担当教員 (単位認定者)	山岸 裕美子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	衣 食 住 家庭経済 家庭管理 生活文化				

■授業の目的・到達目標

利用者に対する日常生活の支援を行うために、家庭生活や日常生活そのものの本質を理解するとともに、生活事象の原理原則を知る。さらに、日本の自然を背景とする生活文化についての知識も身につけ、支援に活かせるようになる。

■授業の概要

衣・食・住・家庭経済・家庭管理について、「生活を科学する」ことをモットーとし、学際的に学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	被服生活： 被服と皮膚衛生 被服の管理（取り扱い絵表示・組成表示等）
第17回	被服生活： 被服の管理（洗濯・・・湿式・乾式）
第18回	被服生活： 被服の管理（収納・保管・アイロンかけ）
第19回	被服生活・住生活： 洗剤の成分
第20回	被服生活・住生活： 界面活性剤の作用と洗浄理論
第21回	住生活： 住居の役割と機能 生活行為と生活空間 快適な室内空間 住居の安全と管理
第22回	住生活： 高齢者・障がい者の住居（自立のための住環境・地域環境）
第23回	生活文化の知識①：春夏秋冬の自然
第24回	生活文化の知識②：春夏秋冬の行事
第25回	生活文化の知識③：日本の文様・色彩
第26回	介護を必要とする人の生活を豊かにするためのプロジェクト～生活文化に基づく働きかけ～
第27回	介護を必要とする人の生活を豊かにするためのプロジェクト～生活文化に基づく働きかけ～
第28回	介護を必要とする人の生活を豊かにするためのプロジェクト～生活文化に基づく働きかけ～ 中間発表
第29回	介護を必要とする人の生活を豊かにするためのプロジェクト～生活文化に基づく働きかけ～
第30回	介護を必要とする人の生活を豊かにするためのプロジェクト 発表会

■受講生に関わる情報および受講のルール

一つの単元が終了した時点で小テストを行うので、毎時間真剣に取り組むこと（実施日は事前に知らせる）。ワークシートや作品などは、提出期限を守ること（期限を過ぎて提出された物は、評価の対象としない）。実習・実験はグループ学習の形態で行うので、メンバーと協力し合いながら積極的に取り組むこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

日常生活に関する事象を取り扱うので、各自、買い物（食材や生活用品）・洗濯・家の中の各所の掃除などを行っていること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

小テスト（50％） 提出物（30％） 実践活動への取り組み（20％）

■教科書

佐々井 啓 監修『家政学概論（介護福祉士実践ブック）』（共栄出版）

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	生活支援技術Ⅴ	担当教員 (単位認定者)	矢島栄司・辻志帆	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	生活支援技術Ⅴ(総合)				

■授業の目的・到達目標

生活、生活形成のプロセス、生活経営、マネジメント、生活支援の考え方を学ぶ。

■授業の概要

この授業では、介護福祉士が利用者及びその家族等への生活を支援するために修得しておかなければならない、個々人の尊厳を保持し、その人らしい生活とは何かを学ぶ。「起きる」、「食事をとる」、「身じたくを整える」、「入浴」、「睡眠」などの一連の活動の中身を細かく見ていくと、一つひとつの活動が、その人らしい「生活」を形作っていることが理解できる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション・ガイダンス
第2回	生活支援とは何か・ICFの活用
第3回	生活の定義・全体像・施設での生活
第4回	生活支援の基本的な考え方
第5回	生活支援とリハビリテーション
第6回	生活支援と介護予防
第7回	生活支援と福祉用具の活用
第8回	自立に向けた身じたくの介護・意義と目的
第9回	自立に向けた身じたくの介護・整容
第10回	自立に向けた身じたくの介護・口腔ケア
第11回	介護技術・移動介助
第12回	介護技術・排泄介助
第13回	介護技術・食事介助
第14回	介護技術・総合
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

誠意ある態度での受講を求めます。ジャージを必ず着用すること。物品の整理整頓をすること。授業修了後、豆テストを実施する。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験・実技試験またはレポート(70%)、授業への参加態度(30%)を総合して評価する。

■教科書

「新・介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ」2009年 中央法規出版社

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	生活支援技術V	担当教員 (単位認定者)	矢島栄司・辻志帆	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	生活支援技術V(総合)				

■授業の目的・到達目標

生活、生活形成のプロセス、生活経営、マネジメント、生活支援の考え方を学ぶ。

■授業の概要

この授業では、介護福祉士が利用者及びその家族等への生活を支援するために修得しておかなければならない、個々人の尊厳を保持し、その人らしい生活とは何かを学ぶ。「起きる」、「食事をとる」、「身じたくを整える」、「入浴」、「睡眠」などの一連の活動の中身を細かく見ていくと、一つひとつの活動が、その人らしい「生活」を形作っていることが理解できる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	居住環境の整備・意義と目的
第17回	視覚障害を持っている人への介助方法
第18回	バリアフリーの体験
第19回	安心して快適な生活の場づくり
第20回	家庭生活にかかわる基本知識
第21回	家庭生活の理解
第22回	家庭生活の営み
第23回	家事の介護・意義と目的
第24回	家事支援における介護技術
第25回	家の清掃・利用者の心理を考える
第26回	他職種の役割と協働
第27回	施設・在宅での他職種の役割と協働
第28回	緊急時対応の知識と技術
第29回	応急処置・緊急時対応の実際
第30回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

誠意ある態度での受講を求めます。ジャージを必ず着用すること。物品の整理整頓をすること。授業修了後、豆テストを実施する。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験・実技試験またはレポート(70%)、授業への参加態度(30%)を総合して評価する。

■教科書

「新・介護福祉士養成講座6 生活支援技術I・II」2009年 中央法規出版社

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	介護過程の展開Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	白井幸久・川口真実	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	介護過程、アセスメント、計画の立案、実施、評価、ICF等				

■授業の目的・到達目標

他の科目で身につけた知識や技術を統合し、介護過程が展開できる。介護過程の展開におけるプロセスを理解し、適切なサービスの提供ができる能力を養う。また、介護過程の展開の意義、目的、内容、展開方法について学ぶ。

■授業の概要

全てのケアの方法や手順には意味と理由があり、ケアの実施についてはその根拠を説明できなくてはならない。個別のニーズを的確に把握し、計画的に介護が実践できるように知識と技術を統合する。さらに、利用者の能力に合わせて応用させ、達成すべき課題に向けて支援する能力を身につける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目ガイダンス
第2回	「介護過程」の意義と目的
第3回	「介護過程」の必要性和生活支援の考え方
第4回	「介護過程」の全体像
第5回	アセスメントとは（アセスメントと情報収集）
第6回	アセスメントツール
第7回	ICF（国際生活機能分類）の理解①
第8回	ICF（国際生活機能分類）の理解②
第9回	情報収集する際の留意点
第10回	情報の解釈①
第11回	情報の解釈②
第12回	情報の統合①
第13回	情報の統合②
第14回	情報の解釈・統合のまとめ
第15回	前期のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・介護過程の展開は、介護福祉士の専門性と他職種連携を支える重要な思考プロセスやスキルである。したがって、予習・復習（課題）を繰り返す。授業内容が理解できるように積極的に授業に参加すること。分からない場合は、質問し解決すること。
- ・この授業は、利用者支援と直接結びつく内容であるため、真剣に誠実な態度で受講すること。
- ・遅刻、欠席、早退の場合は、理由を申し出ること。遅刻者は、授業の妨げにならないように、静かに着席すること。
- ・出席不良となった場合は、定期試験の受験が出来ず未習得となるので、出席不足には注意すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業では、演習課題や宿題、レポート等の提出を求めるので、しっかり取り組むこと。

■オフィスアワー

火曜日～木曜日までの昼休み

■評価方法

定期試験70%、提出物等30%

■教科書

新・介護福祉士養成講座 「介護過程の展開」 中央法規

■参考書

印刷資料等

科目名	介護過程の展開Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	白井幸久・川口真実	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	介護過程、アセスメント、計画の立案、実施、評価、ICF等				

■授業の目的・到達目標

他の科目で身につけた知識や技術を統合し、介護過程が展開できる。介護過程の展開におけるプロセスを理解し、適切なサービスの提供ができる能力を養う。また、介護過程の意義、目的、内容、展開方法を学ぶ。

■授業の概要

全てのケアの方法や手順には意味と理由があり、ケアの実施についてはその根拠を説明できなくてはならない。個別のニーズを的確に把握し、計画的に介護が実践できるように知識と技術を統合する。さらに、利用者の能力に合わせて応用させ、達成すべき課題に向けて支援する能力を身につける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	後期ガイダンス（前期の振り返り）等
第17回	実習で実施した「アセスメント」の振り返り①
第18回	実習で実施した「アセスメント」の振り返り②
第19回	個別援助計画の意義と目的
第20回	個別援助計画の目標の設定
第21回	具体的な支援内容①
第22回	具体的な支援内容②
第23回	具体的な支援内容③
第24回	実施
第25回	評価①
第26回	評価②
第27回	事例に基づく介護過程の展開①
第28回	事例に基づく介護過程の展開②
第29回	事例に基づく介護過程の展開③
第30回	後期まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・介護過程の展開は、介護福祉士の専門性と他職種連携を支える重要な思考プロセスやスキルである。したがって、予習・復習（課題）を繰り返す。授業内容が理解できるように積極的に授業に参加すること。分からない場合は、質問し解決すること。
- ・この授業は、利用者支援と直接結びつく内容であるため、真剣に誠実な態度で受講すること。
- ・遅刻、欠席、早退の場合は、理由を申し出ること。遅刻者は、授業の妨げにならないように、静かに着席すること。
- ・出席不良となった場合は、定期試験の受験が出来ず未習得となるので、出席不足には注意すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業では、演習課題や宿題、レポートを求めるので、しっかりと取り組むこと。

■オフィスアワー

火曜日～木曜日までの昼休み

■評価方法

定期試験70%、提出物等30%

■教科書

新・介護福祉士養成講座 「介護過程の展開」 中央法規

■参考書

印刷資料等

科目名	介護過程の展開Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	白井幸久・川口真実	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	介護過程の展開、ICF、アセスメント、計画の立案、実施、計画等				

■授業の目的・到達目標

1年次の学びと実習を踏まえて、介護専門職として実践的なスキルを身につける。介護過程での学びは、実習との相互性を活かし実施されることで、利用者の支援と他職種連携の核となる実践的思考が理解できる。介護過程の展開を学ぶにあたって、他職種連携を意識し、介護福祉士の役割を自覚することができる。

■授業の概要

現場では、他職種との連携が求められる。その中で、より専門性の高い介護を提供するために、介護過程を展開する場合の思考プロセスやスキルが重要である。また、事例検討や模擬カンファレンスを実施し、介護実習との相互性を活かして、実践的思考とスキルの修得を目指す。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	ガイダンス
第2回	1年次の振り返り
第3回	ICF（国際生活機能分類）の視点に立ったアセスメント
第4回	情報収集（全体像を捉える） 事例①
第5回	情報の解釈と統合（アセスメント） 事例②
第6回	計画の立案 事例③
第7回	評価 事例④
第8回	実習前の総括
第9回	実習の振り返り①（アセスメントを振り返る）
第10回	実習の振り返り②（アセスメントを振り返る）
第11回	実習の振り返り③（介護過程の展開を振り返る）
第12回	実習の振り返り④（介護過程の展開を振り返る）
第13回	実習の振り返り⑤（評価等を振り返る）
第14回	実習の振り返り⑥（評価等を振り返る）
第15回	前期のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・介護過程の展開は、介護福祉士の専門性と他職種連携を支える重要な思考プロセスやスキルである。したがって、予習・復習（課題）を繰り返す。授業内容が理解できるように積極的に授業に参加すること。分からない場合は、質問し解決すること。
- ・この授業は、利用者の支援と直接結びつく内容であるため、真剣に誠実な態度で受講すること。
- ・遅刻、欠席、早退の場合は、理由を申し出ること。遅刻者、授業の妨げにならないように、静かに着席すること。
- ・出席不足となった場合は、定期試験の受験は出来ず未習得となるので、出席不足には注意すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業では、演習課題や宿題、レポート等の提出を求めらるので、しっかりと取り組むこと。

■オフィスアワー

火曜日から木曜日までの昼休み

■評価方法

定期試験 60%、提出物等 40%

■教科書

新・介護福祉士養成講座 「介護過程の展開」 中央法規

■参考書

印刷資料等

科目名	介護過程の展開Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	白井幸久・川口真実	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	介護過程の展開、ICF、アセスメント、計画の立案、実施、評価等				

■授業の目的・到達目標

1年次の学びと実習を踏まえて、介護専門職として実践的なスキルを身につける。介護過程の学びは、実習と相互性を活かし実施されることで、利用者の支援と他職種連携の核となる実践的思考が理解できる。介護過程の展開を学ぶにあたって、他職種連携を意識し、介護福祉士の役割を自覚することができる。

■授業の概要

現場では他職種との連携が求められる。その中で、より専門性の高い介護を提供するために、介護過程の展開する場合の思考プロセスやスキルが重要である。また、事例検討や模擬カンファレンスを実施し、介護実習との相互性を活かし、実践的思考とスキルの習得を目指す。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	後期ガイダンス
第17回	事例検討①（施設）
第18回	事例検討②（施設）
第19回	事例検討③（施設）
第20回	事例検討④（在宅）
第21回	事例検討⑤（在宅）
第22回	事例検討⑥（地域）
第23回	事例検討⑦（地域）
第24回	介護過程の展開のまとめ（説明とグループ分け）
第25回	介護過程の展開のまとめ①（グループ別）
第26回	介護過程の展開のまとめ②（グループ別）
第27回	介護過程の展開のまとめ③（グループ別）
第28回	介護過程の展開のまとめ発表①
第29回	介護過程の展開のまとめ発表②
第30回	後期まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・介護過程の展開は、介護福祉士の専門性と他職種連携を支える重要な思考プロセスやスキルである。したがって、予習・復習（課題）を繰り返す。授業内容が理解できるように積極的に授業に参加すること。分からない場合は、質問して解決すること。
- ・この授業は、利用者の支援と直接結びつく内容であるため、真剣に誠実な態度で受講すること。
- ・遅刻、欠席、早退の場合は、理由を申し出ること。遅刻者は、授業の妨げにならないように、静かに着席すること。
- ・出席不良となった場合は、定期試験の受験は出来ず未習得となるので、出席不足には注意すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業では、演習課題や宿題、レポート等の提出が求められるので、しっかりと取り組むこと。

■オフィスアワー

火曜日から木曜日までの昼休み

■評価方法

定期試験60%、提出物等40%

■教科書

新・介護福祉士養成講座 「介護過程の展開」 中央法規

■参考書

印刷資料等

科目名	介護総合演習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	片桐幸司・川口真実	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	生活支援実習、実習目標等				

■授業の目的・到達目標

生活支援実習の意義と目的を理解し、期待される学習効果や介護福祉士の活動の場である介護施設を理解する。また、その介護施設を利用する利用者や介護実践の場を理解することを目指す。

■授業の概要

介護総合演習では、学生が介護実習等に望むまでの環境を調整すること、必要な知識を習得することなどを目的とする科目である。開講される1コマ1コマが重要な意味を持っている。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	ガイダンス
第2回	生活支援実習とは?
第3回	介護福祉士の職業倫理について
第4回	生活支援実習Ⅱの施設理解【特別養護老人ホーム、介護保健施設、障害者支援施設、重症心身障害児・者施設】
第5回	実習生紹介票作成①
第6回	実習生紹介票作成②
第7回	実習目標作成①
第8回	実習目標作成②
第9回	生活支援実習の記録について①
第10回	生活支援実習の記録について②
第11回	生活支援実習の記録について③
第12回	生活支援実習記録物の配布・確認
第13回	実習準備 実習へ望む姿勢、実習への不安と対策、電話のかけ方
第14回	生活支援実習Ⅱ-①壮行会
第15回	生活支援実習課題テスト

■受講生に関わる情報および受講のルール

介護総合演習は生活支援実習と対となる科目である。よって、科目に対する姿勢・態度や提出物等が重要な意味があることを理解しておくこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

生活支援実習に係る事前学習をすすめておくこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

授業に臨む参加態度 20%、提出物 40%、課題テスト 40%

■教科書

新・介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」中央法規

■参考書

介護福祉士養成テキストブック「介護総合演習」ミネルヴァ書房

科目名	介護総合演習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	片桐幸司・川口真実	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	生活支援実習、実習目標等				

■授業の目的・到達目標

生活支援実習の意義と目的を理解し、期待される学習効果や介護福祉士の活動の場である介護施設を理解する。また、その介護施設を利用する利用者や介護実践の場を理解することを目指す。

■授業の概要

介護総合演習では、学生が介護実習等に望むまでの環境を調整すること、必要な知識を習得することなどを目的とする科目である。開講される1コマ1コマが重要な意味を持っている。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	帰学日指導①
第17回	帰学日指導②
第18回	帰学日指導③
第19回	帰学日指導④
第20回	生活支援実習Ⅱ-①の振り返り ①(個別作業)
第21回	生活支援実習Ⅱ-①の振り返り ②(個別作業)
第22回	生活支援実習Ⅱ-①の振り返り ③(グループ作業)
第23回	生活支援実習Ⅱ-①の振り返り ④(グループ作業)
第24回	生活支援実習Ⅱ-①の振り返り ⑤(発表)
第25回	生活支援実習Ⅱ-①の振り返り ⑥(発表)
第26回	記録の振り返り①
第27回	記録の振り返り②
第28回	生活支援実習Ⅰの施設理解【小規模多機能型居宅介護、通所介護、訪問介護、認知症対応型共同生活介護】
第29回	生活支援実習Ⅰ-② 施設配置
第30回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

介護総合演習は生活支援実習と対となる科目である。よって、科目に対する姿勢・態度や提出物等が重要な意味があることを理解しておくこと。
生活支援実習期間中の帰学日指導は、介護総合演習の出席となる。

■授業時間外学習にかかわる情報

生活支援実習に係る事前学習をすすめておくこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

授業に臨む参加態度 20%、提出物 40%、課題テスト 40%

■教科書

新・介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」中央法規

■参考書

介護福祉士養成テキストブック「介護総合演習」ミネルヴァ書房

科目名	介護総合演習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	片桐幸司・川口真実	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	生活支援実習、実習目標等				

■授業の目的・到達目標

生活支援実習の意義と目的を理解し、期待される学習効果や介護福祉士の活動の場である介護施設を理解する。また、その介護施設を利用する利用者や介護実践の場を理解することを目指す。

■授業の概要

介護総合演習では、学生が介護実習等に望むまでの環境を調整すること、必要な知識を習得することなどを目的とする科目である。開講される1コマ1コマが重要な意味を持っている。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	ガイダンス 実習生紹介票の作成①
第2回	実習目標作成①
第3回	実習目標作成②
第4回	実習準備 実習へ望む姿勢、実習への不安と対策、電話のかけ方
第5回	生活支援実習課題テスト
第6回	実習記録書類の配布・確認
第7回	生活支援実習Ⅱ-②壮行会
第8回	帰学日指導①
第9回	帰学日指導②
第10回	帰学日指導③
第11回	帰学日指導④
第12回	生活支援実習Ⅱ-②の振り返り ①
第13回	生活支援実習Ⅱ-②の振り返り ②
第14回	生活支援実習Ⅱ-②の振り返り ③
第15回	生活支援実習課題テスト

■受講生に関わる情報および受講のルール

介護総合演習は生活支援実習と対となる科目である。よって、科目に対する姿勢・態度や提出物等が重要な意味があることを理解しておくこと。

生活支援実習期間中の帰学日指導は、介護総合演習の出席となる。

■授業時間外学習にかかわる情報

生活支援実習に係る事前学習をすすめておくこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

授業に臨む参加態度 20%、提出物 40%、課題テスト 40%

■教科書

新・介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」中央法規

■参考書

介護福祉士養成テキストブック「介護総合演習」ミネルヴァ書房

科目名	介護総合演習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	片桐幸司・川口真実	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	生活支援実習、実習目標等				

■授業の目的・到達目標

生活支援実習の意義と目的を理解し、期待される学習効果や介護福祉士の活動の場である介護施設を理解する。また、その介護施設を利用する利用者や介護実践の場を理解することを目指す。

■授業の概要

介護総合演習では、学生が介護実習等に望むまでの環境を調整すること、必要な知識を習得することなどを目的とする科目である。開講される1コマ1コマが重要な意味を持っている。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	事例報告書の作成について・説明
第17回	事例報告書の作成①
第18回	事例報告書の作成②
第19回	事例報告書の作成③
第20回	事例報告書提出・事例報告会の運営について①
第21回	事例報告会運営について② 実行委員選抜
第22回	事例報告会運営について③ 運営のあり方
第23回	事例報告会運営について④ 運営のあり方
第24回	要旨作成について①
第25回	要旨作成について②
第26回	要旨提出
第27回	実習のまとめ①
第28回	実習のまとめ②
第29回	実習のまとめ③ 発表
第30回	実習のまとめ④ 発表

■受講生に関わる情報および受講のルール

介護総合演習は生活支援実習と対となる科目である。よって、科目に対する姿勢・態度や提出物等が重要な意味があることを理解しておくこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

生活支援実習に係る事前学習をすすめておくこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

授業に臨む参加態度 60%、提出物 40%

■教科書

新・介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」中央法規

■参考書

介護福祉士養成テキストブック「介護総合演習」ミネルヴァ書房

科目名	生活支援実習Ⅰ-①	担当教員 (単位認定者)	片桐幸司・川口真実	単位数 (時間数)	1 (20)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	生活支援実習 施設の理解 利用者の理解				

■授業の目的・到達目標

- ①介護を提供する施設がどのようなところか理解できる。
- ②介護を必要とする人がどのような状態にあるかの基本的な状態を理解できる。
- ③介護福祉士の役割が理解できる。

■実習履修資格者

「群馬医療福祉大学短期大学部生活支援実習履修規程」を参照。

■実習時期及び実習日数・時間

1年次 平成26年8月4日(月)～6日(金) (3日間/24時間)

■実習上の注意

「群馬医療福祉大学短期大学部生活支援実習履修規程」を参照。

■評価方法

「群馬医療福祉大学短期大学部生活支援実習履修規程」を参照。

科目名	生活支援実習Ⅰ-②	担当教員 (単位認定者)	片桐幸司・川口真実	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	地域、在宅、訪問介護、小規模多機能型居宅介護、通所介護、認知症対応型共同生活介護				

■授業の目的・到達目標

- ①利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践をすることができる。
- ②多職種協働について理解している。
- ③施設と居宅の介護技術の違いについて理解している。

■実習履修資格者

「群馬医療福祉大学短期大学部生活支援実習履修規程」を参照。

■実習時期及び実習日数・時間

2年次 平成26年8月11日(月)～9月19日(金)【4日間】までの期間に4事業所
(訪問介護、小規模多機能型居宅介護、通所介護、認知症対応型共同生活介護)
各1日間(32時間)

■実習上の注意

「群馬医療福祉大学短期大学部生活支援実習履修規程」を参照。

■評価方法

「群馬医療福祉大学短期大学部生活支援実習履修規程」を参照。

科目名	生活支援実習Ⅱ-①	担当教員 (単位認定者)	片桐幸司・川口真実	単位数 (時間数)	4 (200)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
	カリキュラム上の位置づけ	一覧表参照			
キーワード	地域、在宅、訪問介護、小規模多機能型居宅介護、通所介護、認知症対応型共同生活介護				

■授業の目的・到達目標

- ①介護を必要とする対象者の自立支援に係る技術と知識を介護の現場で理解ができる。
- ②実習施設の役割と介護を必要とする利用者の理解ができる。
- ③介護福祉士として求められる必要な資質、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
- ④介護過程の展開(アセスメント～課題抽出まで)の必要な事柄について基本的な理解ができる。

■実習履修資格者

「群馬医療福祉大学短期大学部生活支援実習履修規程」を参照。

■実習時期及び実習日数・時間

1年次
平成26年8月18日(月)…事前オリエンテーション
平成26年8月19日(火)～9月22日(月)25日間以上かつ200時間以上とする。

■実習上の注意

「群馬医療福祉大学短期大学部生活支援実習履修規程」を参照。

■評価方法

「群馬医療福祉大学短期大学部生活支援実習履修規程」を参照。

科目名	生活支援実習Ⅱ-②	担当教員 (単位認定者)	片桐幸司・川口真実	単位数 (時間数)	4 (200)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	地域、在宅、訪問介護、小規模多機能型居宅介護、通所介護、認知症対応型共同生活介護				

■授業の目的・到達目標

- ①介護を必要とする対象者の自立支援に係る技術と知識を介護の現場で理解ができる。
- ②実習施設の役割と介護を必要とする利用者の理解ができる。
- ③介護福祉士として求められる必要な資質、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
- ④介護過程の展開を理解し、必要な情報収集ののち、個別援助計画の立案・実施・評価ができる。

■実習履修資格者

「群馬医療福祉大学短期大学部生活支援実習履修規程」を参照。

■実習時期及び実習日数・時間

2年次
平成26年6月2日(月)…事前オリエンテーション
平成26年6月3日(火)～7月5日(土)25日間以上かつ200時間以上とする。

■実習上の注意

「群馬医療福祉大学短期大学部生活支援実習履修規程」を参照。

■評価方法

「群馬医療福祉大学短期大学部生活支援実習履修規程」を参照。

科目名	発達と老化の理解	担当教員 (単位認定者)	松崎 圭子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	成長と発達、老年期、発達課題、老化				

■授業の目的・到達目標

■授業の到達目標・期待される学習効果

発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する学習とする。

■授業の概要

発達は誕生から死に至るまでの連続的な変化としてとらえられている。本講義では加齢が及ぼす心理的影響について論じるとともに、高齢者の心理を、中心に発達現象を総合的に考察する。その中で、「人間の成長発達と心理的理解→老化とその心理的影響→高齢者へのへの対応という道筋で、高齢者への心理的援助アプローチ」という道筋で、高齢者への心理的支援のアプローチについて考える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション
第2回	発達とは/発達段階と発達課題
第3回	発達と個人差
第4回	老化とは/老年期の発達課題
第5回	老化が及ぼす心理的影響/受容
第6回	高齢者のこころの問題と精神障害
第7回	要介護による高齢者の心理
第8回	老化に伴う身体的機能の変化①/免疫機能、感覚機能
第9回	老化に伴う身体的機能の変化②/消化機能、循環器の機能
第10回	老化に伴う身体的機能の変化③/呼吸器の機能、運動器の機能
第11回	老化に伴う身体的機能の変化④/泌尿器・生殖機能・体温維持機能
第12回	老化に伴う知的機能の変化①/記憶機能
第13回	老化に伴う知的機能の変化②/認知機能
第14回	前期まとめ① 前期に学んだことの確認テスト(練習問題)
第15回	前期まとめ② 前期に学んだことの確認テスト

■受講生に関わる情報および受講のルール

受講上のルールとして、私語は禁止とする。私語は相手、周囲の者に対する迷惑行為である。厳に慎むことを自覚して授業に主体的に参加すること。新聞、ニュースなどで関連事項があればチェックしておくこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

1限の時間帯、12:00～12:40(昼休み時間帯)

■評価方法

①前期:確認テスト40%+定期試験60% ②後期:確認テスト40%+定期試験60%

③総合評価(①+②)/0.5 少数点以下四捨五入

■教科書

新・介護福祉士養成講座11「発達と老化の理解」第2版 中央法規

■参考書

授業時に指示する。

科目名	発達と老化の理解	担当教員 (単位認定者)	松崎 圭子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	成長と発達、老年期、発達課題、老化				

■授業の目的・到達目標

■授業の到達目標・期待される学習効果

発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する学習とする。

■授業の概要

発達は誕生から死に至るまでの連続的な変化としてとらえられている。本講義では加齢が及ぼす心理的影響について論じるとともに、高齢者の心理を、中心に発達現象を総合的に考察する。その中で、「人間の成長発達と心理的理解⇒老化とその心理的影響⇒高齢者へのへの対応という道筋で、高齢者への心理的援助アプローチ」という道筋で、高齢者への心理的支援のアプローチについて考える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	オリエンテーション
第17回	高齢者の症状・疾患の特徴
第18回	高齢者に多い症状と留意点①/痛み、めまい、食欲不振
第19回	高齢者に多い症状と留意点②/しびれ、むくみ、かゆみ
第20回	高齢者に多い症状と留意点③/咳、痰、息切れ、誤嚥
第21回	高齢者に多い症状と留意点④/不眠、便秘、下痢、出血
第22回	生活習慣病
第23回	骨関節系の病気、口腔・目・耳の病気
第24回	皮膚の病気、呼吸器の病気、循環器系の病気
第25回	腎・泌尿器の病気、消化器系の病気
第26回	脳・神経系の病気、精神の病気
第27回	介護保険の特定疾患、感染症
第28回	保健医療職との連携
第29回	後期まとめ① 後期に学んだことの確認テスト(練習問題)
第30回	後期まとめ② 後期に学んだことの確認テスト

■受講生に関わる情報および受講のルール

受講上のルールとして、私語は禁止とする。私語は相手、周囲の者に対する迷惑行為である。厳に慎むことを自覚して授業に主体的に参加すること。新聞、ニュースなどで関連事項があればチェックしておくこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

1限の時間帯、12:00～12:40(昼休み時間帯)

■評価方法

①前期:確認テスト40%+定期試験60% ②後期:確認テスト40%+定期試験60%

③総合評価(①+②)/0.5 少数点以下四捨五入

■教科書

新・介護福祉士養成講座11「発達と老化の理解」第2版 中央法規

■参考書

授業時に指示する。

科目名	認知症の理解	担当教員 (単位認定者)	片桐 幸司	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	認知症介護、パーソンセンタードケア、その人中心の介護、原因疾患、中核症状、周辺症状 (BPSD)				

■授業の目的・到達目標

- ①認知症の医学的理解
- ②認知症における行動・心理症状の理解
- ③認知症の症状に悩む「人」と「生活」を理解することによって、介護福祉士に求められる認知症ケアの基本的理解を目指す。

■授業の概要

認知症の中核症状とそこから派生する認知症高齢者の行動・心理症状 (BPSD) の機序を理解し、認知症の症状に悩む本人及び介護者 (家族等) に提供するケアの具体策を体系的に学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション テキストpp. 2-4を熟読し、感想、意見等をまとめておくこと。
第2回	認知症を取り巻く状況① 認知症ケアの歴史 ほか
第3回	認知症を取り巻く状況② 認知症ケアの理念と視点
第4回	認知症の人の医学・行動・心理的理解① 認知症の人の行動・心理症状
第5回	認知症の人の医学・行動・心理的理解② 脳のしくみ、原因疾患
第6回	認知症の人の医学・行動・心理的理解③ 認知症の診断と治療、予防
第7回	認知症の人の医学・行動・心理的理解④ 認知症の人の心理的理解 (演習)
第8回	認知症の人の体験の理解① 認知症の人を介護していくために
第9回	認知症の人の体験の理解② 認知症の人の体験、本人本位の視点を確かなものに (演習)
第10回	認知症の人の生活理解 認知機能の変化が生活に及ぼす影響、環境の力 ほか
第11回	認知症の人に対する介護① 認知症の人へのかかわりの基本、認知症への気づき
第12回	認知症の人に対する介護② 認知症の人の介護過程
第13回	認知症の人に対する介護③ 認知症の進行に応じた介護
第14回	前期まとめ (レポート作成) 介護実習にあたって科目として準備すること (告知)
第15回	前期確認テスト (前期の内容についてテストを実施)

■受講生に関わる情報および受講のルール

「認知症の理解」は専門的用語、医学、心理学、行動学からのアプローチが中心となる広い範囲を持つ学びである。介護福祉士の専門性を支える根幹の1つであるので、授業には知的好奇心をもって臨むこと。受講上のルールとして、私語は禁止とする。私語は相手、周囲の者に対する迷惑行為である。厳に慎むことを自覚して授業に参加すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

認知症の理解は、机上の勉強だけでは理解できないので、実習やボランティア活動を通じて、事例に多く携わること。実習やボランティアに赴く際は、「認知症 (介護) の何を勉強したいのか」を明確にしておくこと。

■オフィスアワー

1限の時間帯、12:00～12:40 (昼休み時間帯)

■評価方法

- ①前期: 確認テスト40% + 定期試験60%
- ②後期: 確認テスト20% + レポート20% + 定期試験60%
- ③総合評価 (①+②) / 0.5 少数点以下四捨五入

■教科書

新・介護福祉士養成講座12「認知症の理解」第2版 中央法規

■参考書

「認知症ぜんぶ図解」メディカ出版

科目名	認知症の理解	担当教員 (単位認定者)	片桐 幸司	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	認知症介護、パーソンセンタードケア、その人中心の介護、原因疾患、中核症状、周辺症状 (BPSD)				

■授業の目的・到達目標

- ①認知症の医学的理解
- ②認知症における行動・心理症状の理解
- ③認知症の症状に悩む「人」と「生活」を理解することによって、介護福祉士に求められる認知症ケアの基本的理解を目指す。

■授業の概要

認知症の中核症状とそこから派生する認知症高齢者の行動・心理症状 (BPSD) の機序を理解し、認知症の症状に悩む本人及び介護者 (家族等) に提供するケアの具体策を体系的に学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	介護実習に係るレポート① レポート作成、グループ編成、レポートフォーム告知
第17回	介護実習に係るレポート② グループレポート作成 (ppt作成)
第18回	介護実習に係るレポート③ グループレポート作成 (ppt作成)
第19回	介護実習に係るレポート④ グループ発表I
第20回	介護実習に係るレポート⑤ グループ発表II
第21回	地域の力を活かす 連携と協働
第22回	家族の力を活かす
第23回	認知症に関する制度・関係機関
第24回	介護福祉士国家試験問題練習①
第25回	介護福祉士国家試験問題練習②
第26回	介護福祉士国家試験問題練習③
第27回	介護福祉士国家試験問題練習④
第28回	介護福祉士国家試験問題練習⑤
第29回	後期確認テスト (介護福祉士国家試験問題練習①～⑤を範囲としたテストを実施)
第30回	科目のまとめ 1年間の振り返り (レポート)

■受講生に関わる情報および受講のルール

「認知症の理解」は専門的用語、医学、心理学、行動学からのアプローチが中心となる広い範囲を持つ学びである。介護福祉士の専門性を支える根幹の1つであるので、授業には知的好奇心をもって臨むこと。受講上のルールとして、私語は禁止とする。私語は相手、周囲の者に対しての迷惑行為である。厳に慎むことを自覚して授業に参加すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

認知症の理解は、机上の勉強だけでは理解できないので、実習やボランティア活動を通じて、事例に多く携わること。実習やボランティアに赴く際は、「認知症 (介護) の何を勉強したいのか」を明確にしておくこと。

■オフィスアワー

1限の時間帯、12:00～12:40 (昼休み時間帯)

■評価方法

- ①前期: 確認テスト40% + 定期試験60%
- ②後期: 確認テスト20% + レポート20% + 定期試験60%
- ③総合評価 (①+②) / 0.5 少数点以下四捨五入

■教科書

新・介護福祉士養成講座12「認知症の理解」第2版 中央法規

■参考書

「認知症ぜんぶ図解」メディカ出版

科目名	障害の理解	担当教員 (単位認定者)	松崎 圭子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	障害の理解				

■授業の目的・到達目標

- ①障害の種別
- ②障害がある人の理解
- ③障害を取り巻く社会制度等を理解することによって、介護福祉士に求められる障害者のケア基本的理解を目指す。

■授業の概要

障害の概念及び種別、影響、それらのケア（介護）を理解し、障害に悩む本人及び介護者（家族等）に提供するケアの具体策を体系的に学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション 個人ワーク「障害について」
第2回	障害の概念 障害とは何か
第3回	障害者福祉の基本理念
第4回	視覚障害とは 視覚障害のある人の生活
第5回	聴覚・言語障害とは 聴覚・言語障害のある人の生活/重複障害とは 重複障害のある人の生活
第6回	肢体不自由（運動障害）とは 肢体不自由（運動障害）のある人の生活
第7回	精神障害とは 精神障害のある人の生活
第8回	高次脳機能障害とは 高次脳機能障害のある人の生活
第9回	知的障害とは 知的障害のある人の生活
第10回	発達障害とは 発達障害のある人の生活
第11回	重症心身障害とは 重症心身障害のある人の生活
第12回	内部障害とは 内部障害のある人の生活
第13回	難病とは 難病の人の生活
第14回	障害のある人に対する介護の基本視点
第15回	前期まとめ 前期に学んだことの確認テスト

■受講生に関わる情報および受講のルール

「障害の理解」は幅広い障害の概念および障害を持つ人の理解など多岐に渡る。授業には知的好奇心をもって臨むこと。受講上のルールとして、私語は禁止とする。私語は相手、周囲の者に対する迷惑行為である。厳に慎むことを自覚して授業に参加すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

障害及び障害のある人の理解は、机上の勉強だけでは理解できないので、実習やボランティア活動を通じて、事例に多く携わること。実習やボランティアに赴く際は、「何を勉強したいのか」を明確にしておくこと。

■オフィスアワー

1限の時間帯、12:00～12:40（昼休み時間帯）

■評価方法

- ①前期：確認テスト 40% + 定期試験 60%
- ②後期：確認テスト 30% + レポート 10% + 定期試験 60%
- ③総合評価（①+②）/0.5 少数点以下四捨五入

■教科書

新・介護福祉士養成講座 13「障害の理解」第3版 中央法規

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	障害の理解	担当教員 (単位認定者)	松崎 圭子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	障害の理解				

■授業の目的・到達目標

- ①障害の種別
- ②障害がある人の理解
- ③障害を取り巻く社会制度等を理解することによって、介護福祉士に求められる障害者のケア基本的理解を目指す。

■授業の概要

障害の概念及び種別、影響、それらのケア（介護）を理解し、障害に悩む本人及び介護者（家族等）に提供するケアの具体策を体系的に学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	障害の理解レポート① レポート作成、グループ編成、レポートフォーム告知
第17回	障害の理解レポート② グループレポート作成（ppt作成）
第18回	障害の理解レポート③ グループレポート作成（ppt作成）
第19回	障害の理解レポート④ グループ発表I
第20回	障害の理解レポート⑤ グループ発表II
第21回	障害がある人の家族への支援
第22回	連携と協働の理解
第23回	介護福祉士国家試験 過去問題等練習①
第24回	介護福祉士国家試験 過去問題等練習②
第25回	介護福祉士国家試験 過去問題等練習③
第26回	介護福祉士国家試験 過去問題等練習④
第27回	介護福祉士国家試験 過去問題等練習⑤
第28回	後期まとめ① 後期確認テスト（練習問題）
第29回	後期まとめ② 後期確認テスト
第30回	障害の理解 まとめ 障害の理解を学んで得たこと、変化したこと

■受講生に関わる情報および受講のルール

「障害の理解」は幅広い障害の概念および障害を持つ人の理解など多岐に渡る。授業には知的好奇心をもって臨むこと。受講上のルールとして、私語は禁止とする。私語は相手、周囲の者に対する迷惑行為である。厳に慎むことを自覚して授業に参加すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

障害及び障害のある人の理解は、机上の勉強だけでは理解できないので、実習やボランティア活動を通じて、事例に多く携わること。実習やボランティアに赴く際は、「何を勉強したいのか」を明確にしておくこと。

■オフィスアワー

1限の時間帯、12:00～12:40（昼休み時間帯）

■評価方法

- ①前期：確認テスト 40% + 定期試験 60%
- ②後期：確認テスト 30% + レポート 10% + 定期試験 60%
- ③総合評価（①+②）/0.5 少数点以下四捨五入

■教科書

新・介護福祉士養成講座 13「障害の理解」第3版 中央法規

■参考書

授業時に指示する。

科目名	こころとからだのしくみI	担当教員 (単位認定者)	李 英姿	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	定義、疫学、原因、症状、分類、検査、診断、治療、予後、予防				

■授業の目的・到達目標

- ①人体の構造と機能を説明することができる。
- ②生活習慣病について説明することができる。
- ③高齢者に多くみられる疾患の症状、特徴について説明することができる。
- ④障害者医療の特徴について説明することができる。

■授業の概要

介護現場において、介護福祉士はさまざまな医療専門職と連携して介護に従事する。医学・医療に関する基礎知識・技術を学び、医療専門職と十分な意思疎通を図り、より良い介護を提供できる。人体の仕組み、高齢者に多発する疾患、障害者の疾患の特徴について学習し、理解を深める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション、人体の区分、細胞と組織
第2回	調節系
第3回	呼吸・循環器系
第4回	消化器系、代謝系
第5回	泌尿器系、皮膚
第6回	骨格系
第7回	筋系
第8回	特殊感覚系
第9回	生殖器系、免疫系
第10回	貧血、出血傾向、チアノーゼ、ショック
第11回	咳・喀痰、呼吸困難、排便困難、排尿困難
第12回	悪心・嘔吐、食欲不振、嚥下障害、黄疸
第13回	脱水、浮腫、発熱、痛み、けいれん、知覚障害
第14回	めまい、意識障害、歩行障害、失語
第15回	前期のまとめ、国家試験対策

■受講生に関わる情報および受講のルール

教科書を中心として、プリント、スライド、ビデオ、DVDを使用して講義をする。ノートをきちんととること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(100%)

■教科書

テキスト:最新介護福祉全書 別巻1 医学一般 メヂカルフレンド社

■参考書

からだの地図帳 講談社編 監修・解説:高橋長雄 講談社

科目名	こころとからだのしくみI	担当教員 (単位認定者)	李 英姿	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	定義、疫学、原因、症状、分類、検査、診断、治療、予後、予防				

■授業の目的・到達目標

- ①人体の構造と機能を説明することができる。
- ②生活習慣病について説明することができる。
- ③高齢者に多くみられる疾患の症状、特徴について説明することができる。
- ④障害者医療の特徴について説明することができる。

■授業の概要

介護現場において、介護福祉士はさまざまな医療専門職と連携して介護に従事する。医学・医療に関する基礎知識・技術を学び、医療専門職と十分な意思疎通を図り、より良い介護を提供できる。人体の仕組み、高齢者に多発する疾患、障害者の疾患の特徴について学習し、理解を深める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	呼吸器疾患
第17回	循環器疾患
第18回	腎・泌尿器疾患
第19回	消化器疾患
第20回	神経・筋疾患
第21回	血液・造血器疾患
第22回	内分泌・代謝性疾患
第23回	感染症
第24回	膠原病
第25回	精神疾患
第26回	運動器疾患
第27回	感覚器疾患
第28回	皮膚疾患、口腔疾患
第29回	後期の復習
第30回	まとめ、国家試験対策

■受講生に関わる情報および受講のルール

教科書を中心として、プリント、スライド、ビデオ、DVDを使用して講義をする。ノートをきちんととること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(100%)

■教科書

テキスト:最新介護福祉全書 別巻1 医学一般 メヂカルフレンド社

■参考書

介護福祉士受験ワークブック 介護福祉士受験ワークブック編集委員会編集 中央法規

科目名	こころとからだのしくみⅡ	担当教員 (単位認定者)	松崎 圭子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	人体の構造・機能・生理、基本的欲求、自己実現、生きがい、心理的身体的配慮				

■授業の目的・到達目標

- ①生活支援技術実践の根拠を他者に説明することができるようになる。
- ②介護サービス提供における安全への留意点や心理的側面への配慮を理解する。
- ③他者に共感し相手の立場に立って考えられる姿勢を身につける。
- ④生活を回復したり築いていく活動の総体であるリハビリテーションについて理解を深める。

■授業の概要

こころのしくみ及びからだのしくみ(構造・機能)と生活支援技術との関連を学ぶ。こころのしくみとからだのしくみが密接に関連していることを理解し、移動・食事・入浴清潔・排泄・睡眠・死にゆく人の生活支援の根拠について学習する。疾患の特徴をふまえてリハビリテーションを学び介護を考える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション こころとからだのしくみを学ぶ意義
第2回	人間の基本的欲求と尊厳
第3回	自己実現と生きがい
第4回	こころのしくみ①
第5回	こころのしくみ②
第6回	からだのしくみ①
第7回	からだのしくみ②
第8回	からだの動き
第9回	身じたくに関連したこころとからだのしくみ
第10回	移動に関連したこころとからだのしくみ
第11回	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ
第12回	食事に関連したこころとからだのしくみ①/栄養、摂食・嚥下
第13回	食事に関連したこころとからだのしくみ②/変化の気づきと対応
第14回	前期まとめ① 前期に学んだことの確認テスト(練習問題)
第15回	前期まとめ② 前期に学んだことの確認テスト

■受講生に関わる情報および受講のルール

受講上のルールとして、私語は禁止とする。私語は相手、周囲の者に対する迷惑行為である。厳に慎むことを自覚して授業に主体的に参加すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

人体の解剖・生理を基本とするのでこころとからだのしくみⅠを復習しておく必要がある。
授業内容に該当する箇所の予習(教科書を読む)をすること。

■オフィスアワー

1限の時間帯、12:00～12:40(昼休み時間帯)

■評価方法

- ①前期:確認テスト40%+定期試験60%
- ②後期:確認テスト30%+レポート10%+定期試験60%
- ③総合評価(①+②)/0.5 少数点以下四捨五入

■教科書

新・介護福祉士養成講座14「こころとからだのしくみ」第2版 中央法規

■参考書

授業時に指示する。

科目名	こころとからだのしくみⅡ	担当教員 (単位認定者)	松崎 圭子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	人体の構造・機能・生理、基本的欲求、自己実現、生きがい、心理的・身体的配慮、リハビリテーション				

■授業の目的・到達目標

- ①生活支援技術実践の根拠を他者に説明することができるようになる。
- ②介護サービス提供における安全への留意点や心理的側面への配慮を理解する。
- ③他者に共感し相手の立場に立って考えられる姿勢を身につける。
- ④生活を回復したり築いていく活動の総体であるリハビリテーションについて理解を深める。

■授業の概要

こころのしくみ及びからだのしくみ(構造・機能)と生活支援技術との関連を学ぶ。こころのしくみとからだのしくみが密接に関連していることを理解し、移動・食事・入浴清潔・排泄・睡眠・死にゆく人の生活支援の根拠について学習する。疾患の特徴をふまえたリハビリテーションを学び介護を考える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	排泄に関連したこころとからだのしくみ
第17回	睡眠に関連したこころとからだのしくみ
第18回	死にゆく人のこころとからだのしくみ/「死」のとらえ方、死の受容
第19回	死にゆく人のこころとからだのしくみ/医療職との連携
第20回	実践の場における根拠に基づいた説明① レポート作成、グループ編成
第21回	実践の場における根拠に基づいた説明② グループワーク
第22回	実践の場における根拠に基づいた説明③ グループワーク
第23回	実践の場における根拠に基づいた説明④ 発表準備
第24回	実践の場における根拠に基づいた説明⑤ 発表準備
第25回	実践の場における根拠に基づいた説明⑥ 発表・講評
第26回	リハビリテーションに関わる職種と介護福祉士の役割
第27回	認知症高齢者のリハビリテーション
第28回	脳卒中のリハビリテーション
第29回	後期まとめ① 後期に学んだことの確認テスト(練習問題)
第30回	後期まとめ② 後期に学んだことの確認テスト

■受講生に関わる情報および受講のルール

受講上のルールとして、私語は禁止とする。私語は相手、周囲の者に対する迷惑行為である。厳に慎むことを自覚して授業に主体的に参加すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

人体の解剖・生理を基本とするのでこころとからだのしくみⅠを復習しておく必要がある。
授業内容に該当する箇所の予習(教科書を読む)をすること。

■オフィスアワー

1限の時間帯、12:00～12:40(昼休み時間帯)

■評価方法

- ①前期:確認テスト40%+定期試験60%
- ②後期:確認テスト30%+レポート10%+定期試験60%
- ③総合評価(①+②)/0.5 少数点以下四捨五入

■教科書

新・介護福祉士養成講座14「こころとからだのしくみ」第2版 中央法規

■参考書

授業時に指示する。

科目名	人間の尊厳と自立(哲学)	担当教員 (単位認定者)	鈴木 利定	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	儒教 論語 孔子 孟子 老荘思想				

■授業の目的・到達目標

「人間とは何か」我々はこれまで幾度となくこの問いかけを繰り返してきた。中国の思想家たちは、この問いにどのように解答しているのか。そしてそれぞれの解答に対して自分自身はどう思うのかを自ら問うてみる学問をねらいとしている。

■授業の概要

孔子は人間にいかによく生きべきかという問いについて、人間によるべき新しい「道」をどのように考えたか。仁と礼について、特に最近では礼儀をわきまえないという声もある。つまり「形式的な礼など無用だ。真心さえ持っていればそれでよいのでは虚礼廃止だ。」ということもあるが、孔子の説いた礼をもとに現代における礼のあり方を学ぶ。プラトンと同じく孔子は、理想国家を説くことにより政治のあり方を説いた。孔子の説いた政治道徳の現代にあてはまることを学ぶ。老子・荘子は孔子と並ぶ中国の代表的な思想家である。両者は全く相反する傾向すら持っている。この両者の思想を比較し、学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション/論語序説「史記」孔子出家で孔子の履歴を知る。学ぶことの意義、孝弟について、文を学ぶことは人倫の大きな者について、信と義について。君子と貧しきものの生き方。学問について。
第2回	政とは如何なるべきか。志学より従心までの心持。孝と敬と。人物の観察法。身を正すこと。内省。志の大切さ。道に志す。性善論。信の大切さ。
第3回	教育論、礼に反する儀式について。僭し泰れに旅したこと。祭りと祭神について。射にみる古道について。
第4回	大学の道についての孔子の説明。大学句序(右経一章) 明德を明らかにするを積く。民を新に積く。(右伝の三章、右伝の二章)
第5回	至善に止まるを積く。本末を積く。(右伝の三章、右伝の四章) 心を正しくして身を脩めて、家を斉う。(右伝の七章、右伝の八章)
第6回	家を斉へて国を治むるを積く。(右伝の十章) 朱子の中庸に対する解説であり、孔子の孫子思が道学のその伝を失わんことを優えて作るより説きおこす。(中庸章句序)
第7回	道に対する知者、愚者、賢者、不肖のかかわりを論ずる。(右章第四章、五章、六章)
第8回	顔回が中庸をえらび人生に処したことを論ずる。(右第七、八、九章)
第9回	国に道あると無きとに問わず節操を持つべきを子路に示す。(右第十、十一章)
第10回	孔子が憂いが無いのは文王だけだろうと語った理由を論ずる。(右第十九章)
第11回	よく民を治めるには、誠は天の道なるを知るに有るを論ずる。(右第二十章)
第12回	孔子の思想が「人間中心」であり、「ヒューマニズム」であるといわれるのはなぜかを学ぶ。
第13回	孟子の人間観と荀子の人間観は孔子を中心とした仁と礼のいずれかの強調からきたものである。孟子、荀子はそれぞれを重視するものか、仁を重視するものかを考える。「四端の心」について学ぶ。
第14回	老荘思想においては、人間をどのようにとらえるか。又、儒教の人間観に対してどのような批判をしているかを学ぶ。
第15回	老荘思想と儒教のどちらの人間観により自己の思想を築いていくのかを学ぶ。

■受講生に関わる情報および受講のルール

成績評価は、筆記試験・レポート・出席状況を監視、一度も休みのない者については、成績としては十分な評価を与える。出欠席は重視する。理由なくして欠席、遅刻の多い者(二回以上の者)は成績評価を受ける資格を失う。欠席の虚偽申告(代返等)をした者は単位を認めない。講義中のノート筆記は必ず行い、質問に対して的確な解答ができるよう努める。私語は厳禁。注意を促し、場合によっては退出を命ずる。再試は1回のみ。

■授業時間外学習にかかわる情報

テキストの予習・復習をすること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

■筆記試験(□論述 □客観) ■レポート □口頭試験 □実地試験 □その他

評価配分:成績評価は、筆記試験・レポート・出席状況を監視、一度も休みのない者については、成績評価としては十分な評価を与える。

■教科書

鈴木利定著「儒教哲学の研究-修正版」(明治書院)

咸有一徳(中央法規)

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	人間関係とコミュニケーション	担当教員 (単位認定者)	柳澤 充・辻 志帆	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーション、面接技術、自己覚知、価値観の相違				

■授業の目的・到達目標

[目的]

利用者や家族に対して、あるいは多職種（他職種）協力で進めるチームケアにおいて重要となる、円滑なコミュニケーションを図るための基本的なコミュニケーション技術について理解することを目的とする。また、基本的な面接技術や自己覚知の重要性、価値観の相違について理解する。

[到達目標]

演習を通じて言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーションについて理解し説明することができる。他者との価値観の相違や自己覚知について、意見をまとめ発表することができる。

■授業の概要

言語的コミュニケーション及び非言語的コミュニケーション、基本的な面接技術について演習を通じて理解を深めるとともに、自己覚知の重要性や価値観の相違について理解し、福祉専門職としてのものの見方、考えた方を養う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション
第2回	メッセージを共有する意欲を高める
第3回	言語と非言語でメッセージを共有する
第4回	利用者満足を高めるメッセージを学ぶ
第5回	きき方を身につける
第6回	メッセージを受け取る能力を高める
第7回	テクニックをスキルとして使いこなす
第8回	初心者を読み取る方法を学ぶ
第9回	成長させるアドバイスの方法を学ぶ
第10回	自己決定の引き出し方を学ぶ
第11回	振り返りによるスキルアップ
第12回	職場の人間関係の基本を学ぶ
第13回	五つの心を知る。明るい雰囲気をつくる
第14回	理性的・合理的に話し合う
第15回	自分を知り、相手を知る

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・グループワークにおいては普段の友人関係とは違うグループを意図的に設定するため、学生一人ひとりが積極的に授業に参加する姿勢が必要である。また、グループワークにおいては、全ての学生が発言できるように工夫して運営することが望まれる。
- ・積極的な姿勢で受講すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業で学んだことは、必ず復習すること。授業で学んだことをボランティアなど実際の場面で意図的に活用し自己評価すること。

■オフィスアワー

講義初回にて伝える。

■評価方法

課題への取り組み・リアクションペーパー・提出物 40%、定期試験（レポート等）60%とする。

■教科書

諏訪茂樹編著『介護福祉士養成テキスト2 人間関係とコミュニケーション（体験型ワークブック）』建帛社（最新版）

■参考書

適宜、紹介する。

科目名	福祉住環境	担当教員 (単位認定者)	岡部 貴代	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	バリアフリー、住宅改修				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

医療・福祉・建築について体系的に幅広い知識を身につけ、住宅から地域のまちづくりまで住環境整備のあり方を理解し、在宅生活においては実際に問題解決を提案できる能力を養う。

〔到達目標〕

- ①住環境整備がなされたときの利点を理解し、その必要性を説明することができる。
- ②在宅生活において、生活行為別に住環境整備の提案をおこなうことができる。
- ③基本的な建築用語を理解でき、設計図面から簡単な情報を読み取ることができる。

■授業の概要

高齢者や障害者をとりまく住環境の問題点を抽出し、医療・福祉・建築など多方面から解決方法をアプローチする。福祉住環境コーディネーター検定試験 2 級のテキストに準拠して説明する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第 1 回授業にて配布します。

第 1 回	科目オリエンテーション・住環境整備の必要性
第 2 回	バリアフリーとユニバーサルデザイン、介護保険制度における住宅改修
第 3 回	高齢者の特性と住環境整備 (1)
第 4 回	高齢者の特性と住環境整備 (2)
第 5 回	高齢者の特性と住環境整備 (3)
第 6 回	小テスト① 障害者の特性と住環境整備 (1)
第 7 回	障害者の特性と住環境整備 (2)
第 8 回	住宅建築の基礎知識 (1)
第 9 回	住宅建築の基礎知識 (2)
第 10 回	住環境整備の進め方
第 11 回	小テスト②、住環境整備の共通基本技術 (1)
第 12 回	住環境整備の共通基本技術 (2)
第 13 回	生活行為別住環境整備の手法 (1)
第 14 回	生活行為別住環境整備の手法 (2)
第 15 回	小テスト③、生活行為別住環境整備の手法 (3)

■受講生に関わる情報および受講のルール

講義中のノート筆記は必ず行う。小テスト (テキスト準拠・テスト前回の講義時に範囲を提示する) は必ず受ける。

■授業時間外学習にかかわる情報

住宅、街、道路、交通など、自分の身の回りの生活環境を、授業で学習した住環境整備の視点で観察し、発見や疑問を授業内で確認、質問する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

講義中に実施する小テスト 3 回で 30%、定期試験で 70% の評価をする。

■教科書

東京商工会議所編・出版: 福祉住環境コーディネーター検定試験 2 級公式テキスト 改訂 2 版

■参考書

授業中に随時紹介する。

科目名	障害者スポーツ論	担当教員 (単位認定者)	櫻井 秀雄	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	障害区分、障害と特性、スポーツ、医療、社会参加と自立				

■授業の目的・到達目標

障害者が豊かな社会生活を送るために、障害者スポーツを理解して支援・援助できる知識・技能を習得する。また、障害者スポーツでは、重度障害者の参加も考慮し、生活の中で親しめるスポーツ、さらには、競技としてのスポーツを積極的に推進する障害者スポーツ指導者として理解とその援助法を習得する。

■授業の概要

障害者を取り巻く地域社会での福祉施策や、スポーツ環境、レクリエーションの意義、障害区分とスポーツ活動、スポーツ傷害の予防と処置、健康づくりとリハビリテーションの意義、障害者スポーツの実施と障害者のために工夫されたスポーツを学習する。「日本障害者スポーツ指導員」の資格取得をおこなう。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション(社会福祉、障害者福祉施策の概念)
第2回	障害の理解とスポーツ
第3回	障害各論と指導上の留意点
第4回	安全管理
第5回	全国障害者スポーツ大会と障害区分
第6回	全国障害者スポーツ大会の障害区分・
第7回	公認障害者スポーツ指導者制度と補装具
第8回	障害者との交流①
第9回	障害者との交流②
第10回	障害に応じたスポーツの工夫
第11回	障害者スポーツの実践研究①ブラインドウォーク・ランとゴールボール
第12回	障害者スポーツの実践研究②サウンドテーブルテニスとバレーボール卓球
第13回	障害者スポーツの実践研究③シットイングバレーとペタンク
第14回	障害者スポーツの実践研究④車椅子バスケットボール
第15回	まとめ(実践研究報告発表)

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関する情報]

- ・障害者の生活支援を念頭に置き、真摯な態度で受講する。
- ・運動着、運動靴の準備。実技でもメモの用意をする。

[受講のルール]

- ・着替え等は迅速にして授業の用具準備をおこなう。
- ・教材の整頓、会場の清掃は全員で協力しておこなう。

■授業時間外学習にかかわる情報

施設実習や障害者へのボランティア活動で、障害者スポーツには意識して接する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験・レポート(70%)実技試験(30%)総合評価で60%以上とする。

■教科書

日本障害者スポーツ協会:障害者スポーツ指導教本(初級・中級):ぎょうせい:平成24年

■参考書

中森邦男:LSADSPORTS(障害者スポーツ情報誌):日本障害者スポーツ協会:2012(年4回発刊)

科目名	生活支援技術Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	梅山 節子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	生活支援技術Ⅲ(栄養調理)				

■授業の目的・到達目標

生活支援の中の食生活支援は人間の尊厳と深く関わる行為であり、この支援を通して食生活の疾病予防や改善を考えたり、高齢者世帯の家計の現状も考慮しつつ楽しくおいしく食べられる食事を目指す。

■授業の概要

調理経験が乏しく食生活による健康管理も不十分であり知識・技術の個人差が大きい学生が多い中、介護現場で高齢者・障害者を調理支援に必要な知識、技術を基礎から専門的レベルまで指導していく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション 実習室利用・身支度	ノート整理の仕方	手指の汚れ検査
第2回	軟食の献立	"	
第3回	骨粗鬆症の献立	"	
第4回	介護食(咀嚼困難・嚥下困難)の献立	"	
第5回	病院食(糖尿病)の献立	"	
第6回	病院食(高血圧)の献立	"	
第7回	減塩食の献立	"	
第8回	健康食の献立	"	
第9回	行事食の献立	"	
第10回	季節に合った献立	"	
第11回	中華の献立	"	
第12回	おやつ3品	"	
第13回	講義内容のまとめ 小テスト	ノート・レポートの提出	
第14回	各班で作る介護食の打ち合わせ		
第15回	各班で考えた介護食 発表・評価		

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁。
実習中はエプロン・三角巾・ハンドタオルを必ず身に付ける。
長つめ マニキュア・アクセサリーは禁止・髪はたばねる。
解らない点は時間内で解決する。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

小テスト 20% 実習態度(出席身支度) 30% ノート提出 50%

■教科書

生活支援のための調理実習(建帛社) 1995円 新食品成分表(東京法令) 760円

■参考書

授業時に指示する。

科目名	介護過程の展開I	担当教員 (単位認定者)	白井幸久・川口真実	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	介護過程の展開、アセスメント、計画の立案、実施、評価、ICF等				

■授業の目的・到達目標

介護過程を継続した生活の一場面として捉えることの意味を踏まえて、介護過程の展開が「情報収集→計画→実施→評価」の繰り返しであること、それぞれの段階ごとに支援者として果たすべき役割を理解する。

■授業の概要

介護ニーズを的確に把握し、計画的に介護を実践・評価していく科学的な問題解決のための思考過程であることを理解する。利用者の生活の質の向上に向けて、生活上の課題を把握し、それを解決していくために必要な介護の在り方を個別に考察し計画を立案、実施、評価していく一連の流れを演習を通じて理解する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	ガイダンス (演習方法等)
第2回	介護過程の実践的展開①
第3回	介護過程の実践的展開②
第4回	介護過程の実践的展開③
第5回	介護過程の実践的展開④
第6回	介護過程の実践的展開⑤
第7回	介護過程の実践的展開⑥
第8回	介護過程の実践的展開のまとめ
第9回	本人を中心とした生活を継続する介護過程の展開①
第10回	本人を中心とした生活を継続する介護過程の展開②
第11回	本人を中心とした生活を継続する介護過程の展開③
第12回	本人を中心とした生活を継続する介護過程の展開④
第13回	本人を中心とした生活を継続する介護過程の展開⑤
第14回	本人を中心とした生活を継続する介護過程の展開⑥
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

この授業は参加型で展開されるので主体的に参加すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業では、演習課題や宿題、レポート等の提出を求めるので、しっかりと取り組むこと。

■オフィスアワー

火曜日～木曜日までの昼休み

■評価方法

定期試験 60%、提出物 40%

■教科書

新・介護福祉士養成講座 「介護過程の展開」 中央法規出版

■参考書

印刷資料等

医療福祉コース

科目名	アクティビティ・サービス援助技術	担当教員 (単位認定者)	廣池 利邦	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	アクティビティ、生活の快、余暇と余暇活動、生活支援、自立支援、人間の尊厳、現代史(生活史と文化史)				

■授業の目的・到達目標

福祉サービス利用者(高齢者施設、障害者施設、保育所、医療機関等)の心身と生活の活性化を支援するための知識と技術を身に付けるとともに、社会人としての人間性の向上と知識、教養を体得し、アクティビティ・ワーカーの資格取得を目指すことを目的とする。

■授業の概要

近年、福祉施設や医療機関の分野で使われるようになってきた『アクティビティ』という言葉の正しい意味と使い方について理解を深めるとともに、『人間の尊厳の保持』『自立支援・自律支援』『その人らしい生き方に対する支援』の視点から、実践的な知識と技術を身に付けるために、講義と演習による授業を展開する。特にレクリエーションとアクティビティの違いについて基本的な言葉の誤解からきめ細かく説明し、生活支援としての福祉サービスとは何かを教授する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション:履修上の注意と授業の受け方、学習の進め方について説明する。
第2回	『レクリエーションからアクティビティ・サービスへ』
第3回	垣内理論の成り立ち:生活の快論と社会福祉
第4回	ワークショップ:お年寄りと自分の人生の比較/日本の文化
第5回	アクティビティ・サービスとは何か
第6回	日常生活支援とコミュニケーション
第7回	ワークショップ:高齢者の知識と生きてきた道を知る/コミュニケーション・ギャップ
第8回	アクティビティ・サービスの効果について
第9回	アクティビティ・ワーカーの資質
第10回	ワーク・ショップ:DVD鑑賞
第11回	援助のための人間理解:高齢者とは
第12回	高齢者を理解する:心理的側面、身体的側面、社会的側面
第13回	ワーク・ショップ:DVD鑑賞(前編)
第14回	ワーク・ショップ:DVD鑑賞(後編)
第15回	アクティビティ・サービスの振り返り

■受講生に関わる情報および受講のルール

出席を重視し、授業態度を評価するので積極的で反応の良い授業参加を期待する。

■授業時間外学習にかかわる情報

日頃より高齢者に関する情報や明治、大正、昭和の歴史に興味・関心を持つ。また、障害者スポーツなどの記事や報道にも注意を払う。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期試験60%、授業態度・出席日数20%、レポート提出/小テストなど20%で評価する。

■教科書

新訂アクティビティ・サービス:中央法規出版、2014

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	アクティビティ・サービス援助技術	担当教員 (単位認定者)	廣池 利邦	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	アクティビティ、生活の快、余暇と余暇活動、生活支援、自立支援、人間の尊厳、現代史(生活史と文化史)				

■授業の目的・到達目標

福祉サービス利用者(高齢者施設、障害者施設、保育所、医療機関等)の心身と生活の活性化を支援するための知識と技術を身に付けるとともに、社会人としての人間性の向上と知識、教養を体得し、アクティビティ・ワーカーの資格取得を目指すことを目的とする。

■授業の概要

近年、福祉施設や医療機関の分野で使われるようになってきた『アクティビティ』という言葉の正しい意味と使い方について理解を深めるとともに、『人間の尊厳の保持』『自立支援・自律支援』『その人らしい生き方に対する支援』の視点から、実践的な知識と技術を身に付けるために、講義と演習による授業を展開する。特にレクリエーションとアクティビティの違いについて基本的な言葉の誤解からきめ細かく説明し、生活支援としての福祉サービスとは何かを教授する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	生活環境の全体整備とは何か
第17回	『衣』『食』『住』の話題
第18回	ワーク・ショップ: DVD鑑賞
第19回	生活の知恵や知識の話題
第20回	情報の提供について
第21回	ワーク・ショップ: DVD鑑賞(前編)
第22回	ワーク・ショップ: DVD鑑賞(後編)
第23回	アクティビティ・サービス計画論
第24回	提供すべきプログラムの実際
第25回	ワーク・ショップ: 計画作成の話し合い
第26回	アクティビティ・カレンダーの作成
第27回	アクティビティ・カレンダーの発表
第28回	リアリティ・オリエンテーション: 認知症について考える
第29回	アクティビティ・サービスの資料の使い方
第30回	アクティビティ・サービスのまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

出席を重視し、授業態度を評価するので積極的で反応の良い授業参加を期待する。

■授業時間外学習にかかわる情報

日頃より高齢者に関する情報や明治、大正、昭和の歴史に興味・関心を持つ。また、障害者スポーツなどの記事や報道にも注意を払う。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期試験60%、授業態度・出席日数20%、レポート提出/小テストなど20%で評価する。

■教科書

新訂アクティビティ・サービス: 中央法規出版、2014

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	医療事務実務I	担当教員 (単位認定者)	清水 春代	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	医療事務実務				

■授業の目的・到達目標

病院勤務に必要な医療保険制度の基本的知識及び医療事務の資格「医療事務管理士」取得に足る知識の習得。

■授業の概要

医療保険制度を基礎から学び、病院勤務に必要な基本知識を習得する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション
第2回	病院概論・医療保障制度
第3回	請求事務の基本・上書き
第4回	診察料1
第5回	診察料2
第6回	医学管理料1
第7回	医学管理料2
第8回	在宅医療料
第9回	投薬料1
第10回	投薬料2
第11回	投薬料3、注射料1
第12回	注射料2
第13回	注射料3
第14回	処置料1
第15回	処置料2

■受講生に関わる情報および受講のルール

教材、筆記用具と電卓を毎回持参すること。欠席するとその回を自力で補うのは困難なため極力欠席しないこと。予習・復習を怠らないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

出欠状況、授業態度、課題提出等と総合的に評価する。

■教科書

医科テキスト1～3、医科トレーニングブック、医科サポートブック、医科レポート集、診療報酬明細書、診療報酬点数表・索引

■参考書

印刷資料など

科目名	医療事務実務I	担当教員 (単位認定者)	清水 春代	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	医療事務実務				

■授業の目的・到達目標

病院勤務に必要な医療保険制度の基本的知識及び医療事務の資格「医療事務管理士」取得に足る知識の習得。

■授業の概要

医療保険制度を基礎から学び、病院勤務に必要な基本知識を習得する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	手術料1
第17回	手術料2
第18回	麻酔料1
第19回	検査料1
第20回	検査料2
第21回	検査料3
第22回	画像診断料1
第23回	画像診断料2
第24回	入院料1
第25回	入院料2
第26回	入院料3
第27回	公費負担医療
第28回	その他制度
第29回	点検・総括・まとめ
第30回	模擬試験

■受講生に関わる情報および受講のルール

教材、筆記用具と電卓を毎回持参すること。欠席するとその回を自力で補うのは困難なため極力欠席しないこと。予習・復習を怠らないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

出欠状況、授業態度、課題提出等と総合的に評価する。

■教科書

医科テキスト1～3、医科トレーニングブック、医科サポートブック、医科レポート集、診療報酬明細書、診療報酬点数表・索引

■参考書

印刷資料など

科目名	医療事務実務Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	清水 春代	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	医療事務実務				

■授業の目的・到達目標

病院勤務に必要な医療保険制度の知識及び医療事務資格の「医療事務管理士」取得に向けての知識の習得を集中的に行う。

■授業の概要

医療保険制度の知識の習得を集中的に行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション
第2回	医療事務実務の集中講義 1
第3回	医療事務実務の集中講義 2
第4回	医療事務実務の集中講義 3
第5回	医療事務実務の集中講義 4
第6回	医療事務実務の集中講義 5
第7回	医療事務実務の集中講義 6
第8回	医療事務実務の集中講義 7
第9回	医療事務実務の集中講義 8
第10回	医療事務実務の集中講義 9
第11回	医療事務実務の集中講義 10
第12回	医療事務実務の集中講義 11
第13回	医療事務実務の集中講義 12
第14回	医療事務実務の集中講義 13
第15回	医療事務実務の集中講義 14

■受講生に関わる情報および受講のルール

教材、筆記用具と電卓を毎回持参すること。欠席するとその回を自力で補うのは困難なため、極力欠席しないこと。予習・復習を怠らないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

欠席状況、授業態度、課題提出等と総合的に評価する。

■教科書

医科テキスト1～3、医科トレーニングブック、医科サポートブック、医科レポート集、診療報酬明細書、診療報酬点数表・索引

■参考書

印刷資料など

科目名	医療事務実務Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	清水 春代	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	医療事務実務				

■授業の目的・到達目標

病院勤務に必要な医療保険制度の知識及び医療事務資格の「医療事務管理士」取得に向けての知識の習得を集中的に行う。

■授業の概要

医療保険制度の知識の習得を集中的に行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	オリエンテーション
第17回	医療事務実務の集中講義1
第18回	医療事務実務の集中講義2
第19回	医療事務実務の集中講義3
第20回	医療事務実務の集中講義4
第21回	医療事務実務の集中講義5
第22回	医療事務実務の集中講義6
第23回	医療事務実務の集中講義7
第24回	医療事務実務の集中講義8
第25回	医療事務実務の集中講義9
第26回	医療事務実務の集中講義10
第27回	医療事務実務の集中講義11
第28回	医療事務実務の集中講義12
第29回	医療事務実務の集中講義13
第30回	医療事務実務の集中講義14

■受講生に関わる情報および受講のルール

教材、筆記用具と電卓を毎回持参すること。欠席するとその回を自力で補うのは困難なため、極力欠席しないこと。予習・復習を怠らないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

欠席状況、授業態度、課題提出等と総合的に評価する。

■教科書

医科テキスト1～3、医科トレーニングブック、医科サポートブック、医科レポート集、診療報酬明細書、診療報酬点数表・索引

■参考書

印刷資料など

科目名	公務員 I	担当教員 (単位認定者)	森田・橋本 白石・岡野	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	公務員 I				

■授業の目的・到達目標

- ①公務員試験出題科目の基礎知識を確認する。
- ②公務員試験出題科目の基礎知識を実際に使えるようにする。
- ③公務員試験出題科目の勉強方法を確認する。

■授業の概要

公務員試験は、公僕としての役割を果たせるよう幅広い知識を試すものとなっている。この試験に対応するためには、数多くの問題に自ら当たる必要がある。そのための方法を、各科目各項目について提案し、検討する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション 英語 be動詞と一般動詞 不定詞 動名詞・分詞
第2回	数学 文字式・式の計算 一次方程式・連立方程式 方程式とグラフ 平面図形・空間図形
第3回	国語 説明文・解説文の読み取り方 説明文の読み取り方 随想文の読み取り方 指示語・接続語のとりえ方
第4回	英語 現在進行形 助動詞 名詞・代名詞 形容詞・副詞
第5回	数学 比例と反比例 一次関数 図形の計量 平行と合同
第6回	国語 要点・文脈のとりえ方 要旨のとりえ方・要約のしかた 天声人語の要約 小説・物語の読み取り方
第7回	英語 比較・命令文 命令文・付加疑問・間接疑問 受動態(1) 受動態(2)
第8回	数学 三角形・四角形・円 確率 二次方程式 二次関数
第9回	国語 随筆の読み取り方 主語のとりえ方 詩の鑑賞のし方 短歌・俳句の鑑賞のし方
第10回	英語 現在完了(1) 現在完了(2) 関係代名詞(1) 関係代名詞(2)
第11回	数学 式の計算 平方根 図形と相似
第12回	国語 古文の味わい方(1) 古文の味わい方(2) 漢詩・漢文の味わい方(1) 漢詩・漢文の味わい方(2)
第13回	英語 前置詞 接続詞
第14回	数学 三平方の定理(1) 三平方の定理(2)
第15回	国語 日本文学の流れ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・可及的に多くの情報を提供したいので、予習復習は必ず行うこと。
- ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・社会福祉を志す者として、出席時間を厳守し、態度や身だしなみ等を整えること。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁する。

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書で予習・復習すること、類似の問題を自ら探して解くことが、絶対に必要です。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期試験(100%)で評価する。

■教科書

新・初級スーパー過去問ゼミ よくでる判断推理・よくでる数的推理(実務教育出版)(前期については、授業で指示する)

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	公務員 I	担当教員 (単位認定者)	森田・橋本 白石・岡野	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	公務員 I				

■授業の目的・到達目標

- ①公務員試験出題科目の基礎知識を確認する。
- ②公務員試験出題科目の基礎知識を実際に使えるようにする。
- ③公務員試験出題科目の勉強方法を確認する。

■授業の概要

公務員試験は、公僕としての役割を果たせるよう幅広い知識を試すものとなっている。この試験に対応するためには、数多くの問題に自ら当たる必要がある。そのための方法を、各科目各項目について提案し、検討する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	オリエンテーション
第17回	数的推理 数と式の計算
第18回	判断推理 暗号・集合・命題 方位と位置 国語
第19回	国語
第20回	政治経済 憲法、政治
第21回	判断推理 数量で表された条件
第22回	判断推理 文章で表された条件
第23回	数的推理 場合の数・確率
第24回	時事問題
第25回	判断推理 平面図形
第26回	数的推理 三角形の性質・多角形
第27回	判断推理 空間図形
第28回	数的推理 円と扇形・最短距離
第29回	政治経済 経済
第30回	数的推理 方程式・不等式の応用

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・可及的に多くの情報を提供したいので、予習復習は必ず行うこと。
- ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・社会福祉を志す者として、出席時間を厳守し、態度や身だしなみ等を整えること。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁する。

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書で予習・復習すること、類似の問題を自ら探して解くことが、絶対に必要です。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期試験(100%)で評価する。

■教科書

新・初級スーパー過去問ゼミ よくでる判断推理・よくでる数的推理(実務教育出版)(前期については、授業で指示する)

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	公務員Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	森田・橋本 白石・岡野	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	公務員Ⅱ				

■授業の目的・到達目標

- ①受験をする公務員試験の出題科目の知識を確認する。
- ②受験をする公務員試験の出題科目の知識を実際に使えるようにする。
- ③受験をする公務員試験に対応できる勉強方法を確認する。

■授業の概要

各学生の受験する公務員試験に合わせるかたちでの実践練習を中心として行う。加えて、学生の希望に沿って補強のための講義も行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション
第2回	判断推理 平面図形
第3回	数的推理 円と扇形・最短距離
第4回	小論文指導1
第5回	国語
第6回	小論文指導2
第7回	判断推理 空間図形
第8回	小論文指導3
第9回	資料解釈
第10回	小論文指導4
第11回	政治経済 憲法の基本原理と基本的人権
第12回	小論文指導5
第13回	政治経済 需要・供給と市場経済
第14回	実践講義(英語、学生の希望によって変更あり)
第15回	時事問題

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・可及的に多くの情報を提供したいので、予習復習は必ず行うこと。
- ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・社会福祉を志す者として、出席時間を厳守し、態度や身だしなみ等を整えること。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁する。

■授業時間外学習にかかわる情報

公務員Ⅰの授業内容を復習すること、自主的に受験予定の公務員試験の過去問題をできるだけ多く解くことが、絶対に必要です。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期試験(100%)で評価する。

■教科書

授業で指示する。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	公務員Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	森田・橋本 白石・岡野	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	公務員Ⅱ				

■授業の目的・到達目標

- ①受験をする公務員試験の出題科目の知識を確認する。
- ②受験をする公務員試験の出題科目の知識を実際に使えるようにする。
- ③受験をする公務員試験に対応できる勉強方法を確認する。

■授業の概要

各学生の受験する公務員試験に合わせるかたちでの実践練習を中心として行う。加えて、学生の希望に沿って補強のための講義も行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	オリエンテーション
第17回	国語
第18回	実践講義(数学、学生の希望によって変更あり)
第19回	総合問題練習
第20回	実践講義(国語、学生の希望によって変更あり)
第21回	総合問題練習
第22回	実践講義(判断推理・数的推理、学生の希望によって変更あり)
第23回	総合問題練習
第24回	実践講義(判断推理・数的推理、学生の希望によって変更あり)
第25回	総合問題練習
第26回	実践講義(政治・経済・時事問題・資料解釈、学生の希望によって変更あり)
第27回	総合問題練習
第28回	実践講義(政治・経済・時事問題・資料解釈、学生の希望によって変更あり)
第29回	総合問題練習
第30回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・可及的に多くの情報を提供したいので、予習復習は必ず行うこと。
- ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・社会福祉を志す者として、出席時間を厳守し、態度や身だしなみ等を整えること。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁する。

■授業時間外学習にかかわる情報

公務員Ⅰの授業内容を復習すること、受験予定の公務員試験の過去問題をできるだけ多く解くことが、絶対に必要です。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期試験(100%)で評価する。

■教科書

授業で指示する。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	手話	担当教員 (単位認定者)	手話協会	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	手話				

■授業の目的・到達目標

1. コミュニケーション手段としての基本的な手話を習得し、コミュニケーションの必要性や伝えることの大切さを学ぶ。
2. 聴覚障害者の生活、福祉等の歴史や現状を学び、外見では分かりにくい「障害」と社会的要因を理解する。

■授業の概要

目的達成に向け、教科書中心の講義に加えて健聴講師(手話通訳士)の経験を伝える。手話技術については、聴覚障害をもつ講師によって、生きた手話による指導を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション	実技 - 名前(姓)の表現・挨拶の表現
第2回	耳の役割・聞こえのしくみ	実技 - 指文字・挨拶と氏名の表現
第3回	耳の障害	実技 - 数・家族の紹介
第4回	補聴器・人口内耳	実技 - 趣味の紹介
第5回	コミュニケーションと言語	実技 - 住所の紹介
第6回	聴覚障害者とコミュニケーション手段	実技 - 仕事の紹介
第7回	手話の成立と発展(ろう教育)	実技 - 時制(1)
第8回	聴覚障害者(ろう者)の生活<ビデオ活用>	実技 - 時制(2)
第9回	盲ろう者のコミュニケーションとサポート	実技 - 会話練習(教科書)
第10回	聴覚障害者とバリアフリー	実技 - 自己紹介
第11回	体験学習 一ろう者との交流一	
第12回	聴覚障害者の介護と社会資源の利用<ビデオ活用>	実技 - 会話練習(教科書)
第13回	聴覚障害者の関連福祉制度(ろう運動)	実技 - 会話練習(教科書)
第14回	講義のまとめ ・ 実技のまとめ(手話の表現・手話の読み取り)	
第15回	実技試験 - 手話の読み取り・手話の表現	

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・携帯電話、私語厳禁はもちろんであるが、「手話を見る言葉」であることから、実技については特に聴覚障害をもつ講師への視線集中をすること。
- ・各自必ず復習をすること(授業の中にも必ず復習をいれる。)

■授業時間外学習にかかわる情報

特に実技については、繰り返し練習に励むこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験 50% ・ 実技試験 50%(手話表現 20% ・ 手話読み取り 30%)

■教科書

「聴覚・言語障害者とコミュニケーション」 新訂版 : 中央法規出版(株) : 2010年2月発行

■参考書

「誇りを持って未来へ」 : 全日本ろうあ連盟出版局

科目名	点字	担当教員 (単位認定者)	岡田 記代	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	視覚障害者福祉				

■授業の目的・到達目標

[目的]

視覚障害者に対する理解を深める。

[到達目標]

点字で手紙の読み書きができる程度まで習熟する。

■授業の概要

視覚障害者について、点字の歴史と概要、分かち書きや仮名遣い等の点字文法、点字の読み方と書き方

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	点字の歴史・視覚障害者の福祉について
第3回	点字の仕組み(50音について)
第4回	点字の仕組み(濁音・拗音について)
第5回	数字について(基本の数字の書き方)
第6回	数字について(数字の入った言葉や和語読みの数字の書き方)
第7回	アルファベットについて
第8回	かなづかい(基本のかなづかい)
第9回	かなづかい(長音の使い方)
第10回	分かち書き(自立語と付属語)
第11回	分かち書き(自立語内部)
第12回	記号や符号の書き方
第13回	書き方の形式 手紙の書き方
第14回	課題点訳
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

毎回、実際に点字の読み書きを行います。予習は必要ないが時間中に与えられた課題を集中して取り組んでもらいます。短い期間で習得してもらうので、休まずに出席して課題に取り組む事が大切です。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

毎回読んだり書いたりしたものをその都度採点して返却します。この平常の点数と、最後に課題点訳の結果を総合的に判断して評価します。平常点(普通の課題・確認テストを含む)50% 課題点訳50%

■教科書

THE 点字習得テキスト 初級練習帳

■参考書

授業時に指示する。

福祉総合コース

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度	担当教員 (単位認定者)	鈴木育三・土屋昭雄	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	少子高齢化 介護保険法				

■授業の目的・到達目標

介護福祉士を目指す者にとって、介護保険制度をはじめとした高齢者関係の法制度について把握しておくことは当然のことである。そこで、本講義においては、国家資格有資格者に相応しい助言・指導、言動等を行えるだけの知識の習得を目指す。

■授業の概要

介護保険法（介護保険制度）を中心に、各法制度の概要把握を主たる目的とし概説していく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	少子高齢社会と社会問題①
第3回	少子高齢社会と社会問題②
第4回	介護保険制度①
第5回	介護保険制度②
第6回	介護保険制度③
第7回	老人福祉法①
第8回	老人福祉法②
第9回	高齢者虐待防止法①
第10回	高齢者虐待防止法②
第11回	高齢者の医療の確保に関する法律
第12回	認知症ケア
第13回	任地症サポーター養成講座（予定）
第14回	住環境
第15回	総括

■受講生に関わる情報および受講のルール

私語は慎み、真摯な態度で授業に臨むこと。教科書・諸文献等を用い、必ず予習、復習すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期試験による。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編『高齢者に対する支援と介護保険制度』中央法規出版

■参考書

福祉小六法

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度	担当教員 (単位認定者)	鈴木育三・土屋昭雄	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	高齢者に対する支援と介護保険制度				

■授業の目的・到達目標

高齢者を取り巻く生活環境問題について理解し、それに係わる法・諸施策を把握する。

■授業の概要

高齢化の進展に伴い、介護保険制度をはじめとしたさまざまな法制度を把握しておくことは重要なことである。そこで、福祉専門職者（社会福祉士）としておさえておくべき下記事項を中心に概説していく。なお、社会福祉士国家試験に関する情報も適宜伝達していく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	オリエンテーション（シラバスについて・授業の進め方・国家試験について等概説）
第17回	高齢者の特性
第18回	少子高齢社会と社会問題①
第19回	少子高齢社会と社会問題②
第20回	介護保険制度①
第21回	介護保険制度②
第22回	介護保険制度③
第23回	介護保険制度④
第24回	居宅サービス①
第25回	居宅サービス②
第26回	施設サービス①
第27回	施設サービス②
第28回	地域密着型サービス
第29回	介護予防サービス
第30回	総括

■受講生に関わる情報および受講のルール

私語は慎み、積極的に受講すること。国家試験を考慮し、授業内に小テスト及び確認テストを実施していく。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期試験（100％）による。

■教科書

『高齢者に対する支援と介護保険制度（第二版）』弘文堂

■参考書

授業において紹介する。

科目名	相談援助の基盤と専門職	担当教員 (単位認定者)	松永 尚樹	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	総合的かつ包括的な相談援助 相談援助 ソーシャルワーク 社会福祉士				

■授業の目的・到達目標

社会福祉士や他職種の役割を学び、相談援助の概念や包括的な援助、他職種連携について理解することを本講義の目標とする。
本科目は社会福祉士国家試験の指定科目である。そのため、社会福祉士の国家試験を受験することを想定し、国家試験に関わる内容も授業に取り入れて行く。

[到達目標]

- ①社会福祉士や他の専門職の役割や意義について説明できる。
- ②相談援助の定義、理念、構成要素、形成過程を説明できる。
- ③総合的かつ包括的な相談援助における倫理や理論を説明できる。

■授業の概要

社会福祉士の役割と意義、ソーシャルワークの概念、ソーシャルワークの形成過程を時代背景を体系的に学ぶ。総合的かつ包括的な相談援助について、講義を中心として授業を進める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション
第2回	社会福祉士の役割と意義①(社会福祉士及び介護福祉士法)
第3回	社会福祉士の役割と意義②(他職種との連携 訪問介護を含む)
第4回	社会福祉士の役割と意義③(現代社会における地域生活と実際)
第5回	相談援助の定義と構成要素①(ソーシャルワークの概念)
第6回	相談援助の定義と構成要素②(ソーシャルワークの定義)
第7回	相談援助の定義と構成要素③(クライアントシステムとニーズ)
第8回	相談援助の定義と構成要素④(社会資源)
第9回	相談援助の形成過程①(ソーシャルワークの源流)
第10回	相談援助の形成過程②(ソーシャルワークの発展期)
第11回	相談援助の形成過程③(ソーシャルワークの展開期)
第12回	相談援助の理念①(ソーシャルワーカーと価値)
第13回	相談援助の理念②(ソーシャルワーク実践と価値)
第14回	相談援助の理念③(ソーシャルワーク実践と権利擁護)
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- (1) 履修上の注意 遅刻・欠席厳禁 提出物等の〆切厳守
- (2) 学習上の助言 社会福祉専門職として包括的かつ総合的な援助に必要な実践力の習得するために、自ら考え、理論を知識として吸収することが重要である。
- (3) 予備知識や技能 介護福祉士の科目とも深い関係がある。介護福祉士と社会福祉士の専門職としての共通点などを復習することが望まれる。

■授業時間外学習にかかわる情報

社会福祉士の国家試験の過去問題等は早い段階より取り組んだほうがよい。

■オフィスアワー

授業の中で説明する。

■評価方法

定期試験 40% 単元ごとの小テスト 20% リアクションペーパー 30% 受講態度・提出物の提出状況等 10%
単元ごとの小テストに理由もなく休んだ場合はその小テストは0点として評価するので注意してもらいたい。

■教科書

新・社会福祉士養成講座 第6巻 相談援助の基盤と専門職(第2版)(2010 中央法規出版)

■参考書

社会福祉小六法 社会福祉用語辞典(出版社は指定しないが、最新版のもの)

科目名	相談援助の基盤と専門職	担当教員 (単位認定者)	松永 尚樹	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	総合的かつ包括的な相談援助 相談援助 ソーシャルワーク 社会福祉士				

■授業の目的・到達目標

社会福祉士や他職種の役割を学び、相談援助の概念や包括的な援助、他職種連携について理解することを本講義の目標とする。
本科目は社会福祉士国家試験の指定科目である。そのため、社会福祉士の国家試験を受験することを想定し、国家試験に関わる内容も授業に取り入れて行く。

[到達目標]

- ①社会福祉士や他の専門職の役割や意義について説明できる。
- ②相談援助の定義、理念、構成要素、形成過程を説明できる。
- ③総合的かつ包括的な相談援助における倫理や理論を説明できる。

■授業の概要

社会福祉士の役割と意義、ソーシャルワークの概念、ソーシャルワークの形成過程を時代背景を体系的に学ぶ。総合的かつ包括的な相談援助について、講義を中心として授業を進める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	専門職倫理と倫理的ジレンマ①
第17回	専門職倫理と倫理的ジレンマ②
第18回	専門職倫理と倫理的ジレンマ③
第19回	総合的かつ包括的な相談援助の全体像①
第20回	総合的かつ包括的な相談援助の全体像②
第21回	総合的かつ包括的な相談援助の全体像③
第22回	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論①
第23回	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論②
第24回	相談援助にかかる専門職の概念と範囲①
第25回	相談援助にかかる専門職の概念と範囲②
第26回	相談援助にかかる専門職の概念と範囲③
第27回	総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能①
第28回	総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能②
第29回	総合的かつ包括的な援助に取り組む専門職としての基本的態度
第30回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- (1) 履修上の注意 遅刻・欠席厳禁 提出物等の厳守
- (2) 学習上の助言 社会福祉専門職として包括的かつ総合的な援助に必要な実践力の習得するために、自ら考え、理論を知識として吸収することが重要である。
- (3) 予備知識や技能 介護福祉士の科目とも深い関係がある。介護福祉士と社会福祉士の専門職としての共通点などを復習することが望まれる。

■授業時間外学習にかかわる情報

社会福祉士の国家試験の過去問題等は早い段階より取り組んだほうがよい。

■オフィスアワー

授業の中で説明する。

■評価方法

定期試験 40% 単元ごとの小テスト 20% リアクションペーパー 30% 受講態度・提出物の提出状況等 10%
単元ごとの小テストに理由もなく休んだ場合はその小テストは0点として評価するので注意してもらいたい。

■教科書

新・社会福祉士養成講座 第6巻 相談援助の基盤と専門職(第2版)(2010 中央法規出版)

■参考書

社会福祉小六法 社会福祉用語辞典(出版社は指定しないが、最新版のもの)

科目名	社会福祉特講Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	柳澤 充	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会福祉士国家試験				

■授業の目的・到達目標

〔目的〕

社会福祉特講Ⅰの学びを踏まえ、社会福祉士国家試験に向けた学習方法を自分なりに把握することを目的とする。また、編入後の学びが円滑に進むようにすることを目的とする。

〔達成目標〕

社会福祉士国家試験に向けて、自主的・主体的な学習方法を形成し、継続して学習する習慣を身につける。

■授業の概要

既習科目を中心に学習していく。社会福祉士国家試験に合格するための基礎的学習方法と基礎的学力の向上を図るため、過去問を解いた上で、自身で解説を作成し他者に発表する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション
第2回	人体の構造と機能及び疾病①
第3回	人体の構造と機能及び疾病②
第4回	心理学理論と心理的支援①
第5回	心理学理論と心理的支援②
第6回	相談援助の基盤と専門職①
第7回	相談援助の基盤と専門職②
第8回	高齢者に対する支援と介護保険制度①
第9回	高齢者に対する支援と介護保険制度②
第10回	障害者に対する支援と障害者自立支援制度①
第11回	障害者に対する支援と障害者自立支援制度②
第12回	社会保障①
第13回	社会保障②
第14回	社会保障③
第15回	前期まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

社会福祉士国家試験過去問3年分を自分で用意し、予め問題を解いておくこと。該当科目のテキストを持参すること。学内模試が行われる場合には、参加すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

社会福祉士国家試験過去問3年分を自分で用意し、予め問題を解いておくこと。

■オフィスアワー

講義初回にて伝える。

■評価方法

試験またはレポート(70%)、課題への取り組み・提出物など(30%)

■教科書

社会福祉士国家試験過去問3年分

■参考書

社団法人日本社会福祉士養成校協会編集『社会福祉士国家試験過去問解説集』中央法規(最新版)

科目名	社会福祉特講Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	柳澤 充	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会福祉士国家試験				

■授業の目的・到達目標

〔目的〕

社会福祉特講Ⅰの学びを踏まえ、社会福祉士国家試験に向けた学習方法を自分なりに把握することを目的とする。また、編入後の学びが円滑に進むようにすることを目的とする。

〔達成目標〕

社会福祉士国家試験に向けて、自主的・主体的な学習方法を形成し、継続して学習する習慣を身につける。

■授業の概要

〔目的〕

社会福祉特講Ⅰの学びを踏まえ、社会福祉士国家試験に向けた学習方法を自分なりに把握することを目的とする。また、編入後の学びが円滑に進むようにすることを目的とする。

〔達成目標〕

社会福祉士国家試験に向けて、自主的・主体的な学習方法を形成し、継続して学習する習慣を身につける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	児童や家庭に対する支援と児童家庭福祉制度①
第17回	児童や家庭に対する支援と児童家庭福祉制度①
第18回	児童や家庭に対する支援と児童家庭福祉制度①
第19回	権利擁護と成年後見制度①
第20回	権利擁護と成年後見制度②
第21回	相談援助の理論と方法Ⅰ①
第22回	相談援助の理論と方法Ⅰ②
第23回	人体の構造と機能及び疾病③
第24回	心理学理論と心理的支援③
第25回	相談援助の基盤と専門職③
第26回	高齢者に対する支援と介護保険制度③
第27回	障害者に対する支援と障害者自立支援制度③
第28回	社会保障④
第29回	国家試験模擬試験
第30回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

社会福祉士国家試験過去問3年分を自分で用意し、予め問題を解いておくこと。該当科目のテキストを持参すること。学内模試が行われる場合には、参加すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

社会福祉士国家試験過去問3年分を自分で用意し、予め問題を解いておくこと。

■オフィスアワー

講義初回にて伝える。

■評価方法

試験またはレポート(70%)、課題への取り組み・提出物など(30%)

■教科書

社会福祉士国家試験過去問3年分

■参考書

社団法人日本社会福祉士養成校協会編集『社会福祉士国家試験過去問解説集』中央法規(最新版)

科目名	相談援助の理論と方法 I	担当教員 (単位認定者)	柳澤 充	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	ソーシャルワークの展開過程、相談援助、アウトリーチ、面接技術、記録の技術、交渉の技術				

■授業の目的・到達目標

〔目的〕

個人、家族、小集団・組織、地域社会をクライアントシステムとしてとらえ、ソーシャルワークの展開過程に即して思考できることを目的とする。また、事例において適切な援助技術を想定できることを目的とする。

〔到達目標〕

ソーシャルワークの構成要素、構造と機能、展開過程について理解し、説明することができる。さらに、アウトリーチ、面接技術、記録の技術、交渉の技術などについて理解し、説明することができる。また、学びを活かして事例を適切に検討することができるようになる。

■授業の概要

相談援助とは何かについて学ぶ。また、相談援助の構造と機能、相談援助関係、相談援助の展開過程、アウトリーチ、契約、面接技術、記録の技術、交渉の技術について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション
第2回	第1章 相談援助とは第1節～第3節
第3回	第1章 相談援助とは第4節～第5節
第4回	第2章 相談援助の構造と機能第1節～第2節
第5回	第2章 相談援助の構造と機能第3節、第3章人と環境の交互作用①
第6回	第3章 人と環境の交互作用②
第7回	第4章 相談援助における援助関係第1節～第3節
第8回	第4章 相談援助における援助関係第4節～第5節
第9回	第5章 相談援助の展開過程I第1節～第3節
第10回	第5章 相談援助の展開過程I第4節～第6節
第11回	第5章 相談援助の展開過程I第7節～第8節
第12回	第6章 相談援助の展開過程II第1節～第2節
第13回	第6章 相談援助の展開過程II第3節～第4節
第14回	第7章 相談援助のためのアウトリーチの技術第1節
第15回	第7章 相談援助のためのアウトリーチの技術第1節

■受講生に関わる情報および受講のルール

毎時間、授業ノートを提出することになっている。ノートは板書を写すだけでは不十分であり、それ以外に口頭で解説したことなどをまとめて記述することを求めている。授業ノートは評価対象である。

■授業時間外学習にかかわる情報

予習として次回授業の該当部分を一読し、不明な用語などを調べ、調べた用語をノートにまとめ、提出することになっている。また、予習の段階で質問があれば、予めノートに記述しておくことになっている。これらをノートにまとめ提出する。用語調べは評価対象である。

■オフィスアワー

講義初回時に伝える。

■評価方法

定期試験 70%、授業ノート・課題への取り組み 30%

■教科書

- ①社会福祉士養成講座編集委員会編集『新・社会福祉士養成講座 7 相談援助の理論と方法 I』（中央法規）最新版、
- ②社会福祉用語辞典（出版社は問わない）

■参考書

適宜、紹介する。

科目名	相談援助の理論と方法 I	担当教員 (単位認定者)	柳澤 充	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	ソーシャルワークの展開過程、相談援助、アウトリーチ、面接技術、記録の技術、交渉の技術				

■授業の目的・到達目標

〔目的〕

個人、家族、小集団・組織、地域社会をクライアントシステムとしてとらえ、ソーシャルワークの展開過程に即して思考できることを目的とする。また、事例において適切な援助技術を想定できることを目的とする。

〔到達目標〕

ソーシャルワークの構成要素、構造と機能、展開過程について理解し、説明することができる。さらに、アウトリーチ、面接技術、記録の技術、交渉の技術などについて理解し、説明することができる。また、学びを活かして事例を適切に検討することができるようになる。

■授業の概要

相談援助とは何かについて学ぶ。また、相談援助の構造と機能、相談援助関係、相談援助の展開過程、アウトリーチ、契約、面接技術、記録の技術、交渉の技術について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	オリエンテーション
第17回	第8章 相談援助のための契約の技術
第18回	第9章 相談援助のためのアセスメント技術第1節～第2節
第19回	第9章 相談援助のためのアセスメント技術第3節
第20回	第10章 相談援助のための介入の技術第1節
第21回	第10章 相談援助のための介入の技術第2節
第22回	第11章 相談援助のための経過観察(モニタリング)、再アセスメント、効果測定、評価の技術第1節～第2節
第23回	第11章 相談援助のための経過観察(モニタリング)、再アセスメント、効果測定、評価の技術第3節～第4節
第24回	第12章 相談援助のための面接の技術第1節～第2節
第25回	第12章 相談援助のための面接の技術第3節～第4節
第26回	第13章 相談援助のための記録の技術第1節～第2節
第27回	第13章 相談援助のための記録の技術第3節～第4節
第28回	第14章 相談援助のための交渉の技術第1節～第2節
第29回	第14章 相談援助のための交渉の技術第3節
第30回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

毎時間、授業ノートを提出することになっている。ノートは板書を写すだけでは不十分であり、それ以外に口頭で解説したことなどをまとめて記述することを求めている。授業ノートは評価対象である。

■授業時間外学習にかかわる情報

予習として次回授業の該当部分を一読し、不明な用語などを調べ、調べた用語をノートにまとめ、提出することになっている。また、予習の段階で質問があれば、予めノートに記述しておくことになっている。これらをノートにまとめ提出する。用語調べは評価対象である。

■オフィスアワー

講義初回時に伝える。

■評価方法

定期試験 70%、授業ノート・課題への取り組み 30%

■教科書

- ①社会福祉士養成講座編集委員会編集『新・社会福祉士養成講座 7 相談援助の理論と方法 I』(中央法規)最新版
- ②社会福祉用語辞典(出版社は問わない)

■参考書

適宜、紹介する。

科目名	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	担当教員 (単位認定者)	真下 潔	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度				

■授業の目的・到達目標

児童福祉の歴史と展開を中心に、社会福祉士国家試験等の合格点に達することができる程度の知識をつける。

■授業の概要

児童福祉の歴史から始まり、その意義と課題を基礎用語から1年をかけて少しずつ理解していく。理解の補助のために可能な限りレジュメを配布するので復習や予習に役立ててもらいたい。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション
第2回	少子高齢社会と次世代育成支援
第3回	現代社会と子ども家庭の問題
第4回	子どもの育ち、子育てのニーズ
第5回	子どものための福祉の原理
第6回	子ども家庭福祉の理念
第7回	子どもと家庭の権利保障
第8回	児童福祉の発展
第9回	子ども家庭福祉の法体系
第10回	子ども家庭福祉の実施体制
第11回	子ども家庭福祉の財政
第12回	子ども家庭福祉の専門職
第13回	苦情解決と権利擁護
第14回	母子家庭
第15回	前期まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

児童福祉及び児童・家庭に対する支援は広範な内容であり、理解するためには基礎知識の積み重ねが重要となる。毎回出席は言うまでもない。講義中に紹介した文献等は後で必ず読んだり、見たりしておくこと。また、社会福祉に関係した新聞報道等のニュースは常に見ておくこと。必要に応じて理解補助のための資料・プリントを配布する。第2回以降毎回終了時にミニテストを実施。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

出席点(受講態度含む)を10%、期末試験を70%、ミニテストを20%とし、総合的に評価する。遅刻3回を欠席1回とする。年間欠席回数11回以上は単位を与えない。私語等は厳禁。指示に従わないものは退出させる。

■教科書

『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉』新・社会福祉士養成講座、中央法規

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	担当教員 (単位認定者)	真下 潔	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度				

■授業の目的・到達目標

児童福祉の歴史と展開を中心に、社会福祉士国家試験等の合格点に達することができる程度の知識をつける。

■授業の概要

児童福祉の歴史から始まり、その意義と課題を基礎用語から1年をかけて少しずつ理解していく。理解の補助のために可能な限りレジュメを配布するので復習や予習に役立ててもらいたい。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	障害・難病のある子どもと家庭への支援
第17回	児童健全育成
第18回	保育
第19回	子育て支援
第20回	ひとり親家庭の福祉
第21回	児童の社会的擁護サービス
第22回	非行児童・情緒障害児への支援
第23回	児童虐待対策1
第24回	児童虐待対策2
第25回	子どもと家庭に関わる女性福祉
第26回	子ども家庭への相談援助活動
第27回	施設ケアと子ども家庭福祉援助活動
第28回	地域援助活動とネットワーク
第29回	後期のまとめ1
第30回	後期のまとめ2

■受講生に関わる情報および受講のルール

児童福祉及び児童・家庭に対する支援は広範な内容であり、理解するためには基礎知識の積み重ねが重要となる。毎回出席は言うまでもない。講義中に紹介した文献等は後で必ず読んだり、見たりしておくこと。また、社会福祉に関係した新聞報道等のニュースは常に見ておくこと。必要に応じて理解補助のための資料・プリントを配布する。第2回以降毎回終了時にミニテストを実施。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

出席点(受講態度含む)を10%、期末試験を70%、ミニテストを20%とし、総合的に評価する。遅刻3回を欠席1回とする。年間欠席回数11回以上は単位を与えない。私語等は厳禁。指示に従わないものは退出させる。

■教科書

『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉』新・社会福祉士養成講座、中央法規

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	社会保障	担当教員 (単位認定者)	白石 憲一	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会保障				

■授業の目的・到達目標

福祉専門職に従事する者として求められる社会保障に関する知識を習得することを到達目標とする。また社会福祉士の受験科目でもあるため、合格水準に達することを到達目標とする。

■授業の概要

まず社会保障の全体像について学習し、年金・医療・介護・労働などの各保険制度の概要や現状、今後の課題について学習する。また現実のデータから社会保障の動向について整理を行う。さらに社会福祉士の社会保障の過去問を中心に問題演習も行う。問題演習では具体的な事例を想定しながら、社会保障制度の概要について学習することも試みる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	国民年金(1)
第3回	国民年金(2)
第4回	厚生年金
第5回	医療保険
第6回	まとめ
第7回	演習問題
第8回	演習問題解説
第9回	介護保険(1)
第10回	介護保険(2)
第11回	障害者と社会保障
第12回	社会保障の統計
第13回	まとめ
第14回	演習問題
第15回	演習問題解説

■受講生に関わる情報および受講のルール

必要とされる予備知識は、日本の保険制度の全体の概要についての事前の知識である。社会保障は社会福祉士の試験の中でも重要な科目であり、かつ難解な科目であるため、苦手科目にしないことが社会福祉士の受験対策上重要である。社会保障は具体的な事例を想定しながら、制度を学習すると理解しやすく、かつ暗記が容易となる。復習する際には、各自で具体的な事例を想定しながら学習することを求める。本講義では出席を重視する。また積極的に授業に参加すること。毎回小テストを実施する。

■授業時間外学習にかかわる情報

社会保障は社会福祉士の試験の中でも重要な科目であり、かつ難解な科目であるため、苦手科目にしないことが社会福祉士の受験対策上重要である。社会保障は具体的な事例を想定しながら、制度を学習すると理解しやすく、かつ暗記が容易となる。復習する際には、各自で具体的な事例を想定しながら学習することを求める。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

試験(60%)、授業中の課題(40%)を総合して評価する。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会「社会保障」中央法規出版株式会社

■参考書

授業の中で案内する。

科目名	社会保障	担当教員 (単位認定者)	白石 憲一	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会保障				

■授業の目的・到達目標

福祉専門職に従事する者として求められる社会保障に関する知識を習得することを到達目標とする。また社会福祉士の受験科目でもあるため、合格水準に達することを到達目標とする。

■授業の概要

まず社会保障の全体像について学習し、年金・医療・介護・労働などの各保険制度の概要や現状、今後の課題について学習する。また現実のデータから社会保障の動向について整理を行う。さらに社会福祉士の社会保障の過去問を中心に問題演習も行う。問題演習では具体的な事例を想定しながら、社会保障制度の概要について学習することも試みる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	生活保護制度(1)
第17回	生活保護制度(2)
第18回	障害者と社会保障制度(2)
第19回	雇用保険
第20回	諸外国の社会保障制度
第21回	まとめ
第22回	演習問題
第23回	演習問題解説
第24回	労働者災害補償保険
第25回	社会手当
第26回	アメリカの社会保障の実態(1)
第27回	アメリカの社会保障の実態(2)
第28回	社会保障の歴史
第29回	まとめ
第30回	演習問題

■受講生に関わる情報および受講のルール

必要とされる予備知識は、日本の保険制度の全体の概要についての事前の知識である。社会保障は社会福祉士の試験の中でも重要な科目であり、かつ難解な科目であるため、苦手科目にしないことが社会福祉士の受験対策上重要である。社会保障は具体的な事例を想定しながら、制度を学習すると理解しやすく、かつ暗記が容易となる。復習する際には、各自で具体的な事例を想定しながら学習することを求める。本講義では出席を重視する。また積極的に授業に参加すること。毎回小テストを実施する。

■授業時間外学習にかかわる情報

社会保障は社会福祉士の試験の中でも重要な科目であり、かつ難解な科目であるため、苦手科目にしないことが社会福祉士の受験対策上重要である。社会保障は具体的な事例を想定しながら、制度を学習すると理解しやすく、かつ暗記が容易となる。復習する際には、各自で具体的な事例を想定しながら学習することを求める。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

試験(60%)、授業中の課題(40%)を総合して評価する。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会「社会保障」中央法規出版株式会社

■参考書

授業の中で案内する。

科目名	障害者に対する支援と障害者総合支援法	担当教員 (単位認定者)	真下 潔	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	共生社会(ノーマライゼーション)				

■授業の目的・到達目標

[授業目的・到達目標]

障害の有無にかかわらず、誰もが相互に人格と個性を尊重し、支え合う社会のあり方。
障害のある人も、社会の対等な構成員として人権を尊重され自己選択と自己決定のもとに、社会のすべての活動に参加・参画する。

■授業の概要

障害の概念・障害者福祉制度

■授業計画

※下記予定は受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	障害者の支援とは。障害者を取り巻く社会情勢…戦後、国際障害者年・障害者の権利に関する	
第2回	障害者基本法の展開と障害者基本計画	
第3回	障害者の生活実態、地域生活の支援	
第4回	障害とは。概念、ICF、修学モデル、社会モデル	
第5回	障害者福祉にかかわる法体系ー障害者基本法	
第6回	身体・知的・精神障害者福祉法	
第7回	発達障害者支援法、障害者虐待防止法、医療監視・観察法等	
第8回	障害者にかかわるその他の法体系、各省庁の障害者施策	
第9回	障害者自立支援制度 (理念・考え方・目的)	
第10回	〃	自立支援給付
第11回	〃	〃
第12回	〃	支給決定プロセス
第13回	〃	〃
第14回	地域生活支援事業	
第15回	障害者福祉計画	

■受講生に関わる情報および受講のルール

ソーシャルワーカー志望の心(社会福祉に対する心)を大切に! その心で受講。

■授業時間外学習にかかわる情報

学習仲間とコミュニケーション

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記テスト(100%)、受講態度も考慮する。

■教科書

「障害者に対する支援と障害者総合支援法」(社会福祉士養成講座編集委員会)

■参考書

社会福祉小六法2013年版(ミネルヴァ書房編集部)

科目名	心理学理論と心理的支援	担当教員 (単位認定者)	島内 晶	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	性格、感情、知覚、学習、認知、社会、発達、臨床				

■授業の目的・到達目標

〔目的〕

さまざまな領域の心理学を学びながら、心理学的な考え方を身につけ、人間に対する視野を広げることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①心理学理論による人の理解とその技法の基礎について理解できる。
- ②人の成長・発達と心理との関係について理解できる。
- ③日常生活と心の健康との関係について理解できる。
- ④心理的支援の方法と実際について理解できる。

■授業の概要

心理学の各領域を網羅的に概説する。基礎心理学から応用心理学まで幅広い視点で学習を進め、心理学理論による人間理解と心理的支援の方法について学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション、心理学とはなにか
第2回	性格
第3回	感情
第4回	欲求と動機づけ
第5回	感覚・知覚・認知
第6回	学習
第7回	記憶
第8回	知能・創造性・思考
第9回	人間関係と集団
第10回	対人交流とコミュニケーション
第11回	発達の概念
第12回	適応とストレス
第13回	見立て・面接・心理療法
第14回	脳と心
第15回	総括

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・予習、復習をしっかりと行い、授業への理解度を高めること。
- ・各授業の学習成果を確認するため、小レポートや小テストを毎回行う予定である。

〔受講のルール〕

- ・授業には、遅刻、居眠り、忘れ物等をせずに、各自目的意識を持ち、集中して臨むこと。
- ・他の受講生の迷惑になる行為（私語など）はしないこと。
- ・授業に必要な物（携帯電話など）は鞆の中にしまうこと。各自の諸事情により、机に出す必要のある物に関しては、あらかじめ担当教員に申し出ること。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・新聞、ニュースなどで関連事項があればチェックしておき、各自の意識を高めること。

■オフィスアワー

開講時に指示する。

■評価方法

- ①授業時に課す課題（小レポート等）、出席状況、受講態度等（40%）
 - ②学期末試験（60%）
- ①～②を総合的に評価する。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会 編集 『新・社会福祉士養成講座2 心理学理論と心理的支援—心理学』第2版 中央法規出版 2009年

■参考書

梅本堯夫 大山正 岡本浩一 共著 『心理学 心のはたらきを知る』サイエンス社 2002年

科目名	社会理論と社会システム	担当教員 (単位認定者)	白石 憲一	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会学				

■授業の目的・到達目標

社会学の歴史と人名について、理解して覚えることが期待される。学習効果として挙げられる。社会福祉士の受験科目でもあるため、合格水準に達することを授業の到達目標とする。

■授業の概要

ジェンダー、児童虐待、DVについては、ビデオ学習も取り入れる。社会福祉士の受験科目である社会理論と社会システムで必要とされる人名や業績について包括的に学習する。また人口動態や社会指標では具体的なデータを取り上げて、説明を行う。社会福祉士の過去問題も授業では取り上げて、演習形式で学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	ジェンダー
第3回	児童虐待
第4回	ドメスティック・バイオレンス
第5回	高齢者虐待
第6回	まとめ
第7回	問題演習
第8回	問題演習解説
第9回	組織
第10回	役割理論
第11回	いじめ
第12回	人口動態
第13回	福祉国家の理論
第14回	社会学人名(1)
第15回	社会学人名(2)

■受講生に関わる情報および受講のルール

本講義では出席を重視する。また積極的に授業に参加すること。毎回小テストを実施する。

■授業時間外学習にかかわる情報

必要とされる予備知識については、教科書を事前に通読しておくことが望ましい。社会福祉士の試験では社会理論と社会システムは暗記すべき項目が比較的多いため、授業で学習した内容は、その日のうちにしっかりと暗記するように努めること。暗記は工夫すると覚えやすいので、授業の中でも紹介していく。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

試験(60%)、授業中の課題(40%)を総合して評価する。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会「社会理論と社会システム」中央法規出版株式会社

■参考書

授業の中で案内する。

科目名	社会福祉特講 I	担当教員 (単位認定者)	柳澤 充	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会福祉特講 I				

■授業の目的・到達目標

〔目的〕

社会福祉士国家試験に向けた学習方法を自分なりに把握することを目的とする。また、編入後の学びが円滑に進むようにすることを目的とする。

〔達成目標〕

社会福祉士国家試験に向けて、自主的・主体的な学習方法を形成し、継続して学習する習慣を身につける。

■授業の概要

既習科目を中心に学習していく。社会福祉士国家試験に合格するための基礎的学習方法と基礎的学力の向上を図るため、過去問を解いた上で、自身で解説を作成し他者に発表する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション
第2回	社会福祉士になるために① 社会福祉士に求められる知識、技術、価値、倫理
第3回	社会福祉士になるために② 学習の進め方
第4回	人体の構造と機能及び疾病①
第5回	人体の構造と機能及び疾病②
第6回	人体の構造と機能及び疾病③
第7回	心理学理論と心理的支援①
第8回	心理学理論と心理的支援②
第9回	心理学理論と心理的支援③
第10回	高齢者に対する支援と介護保険制度①
第11回	高齢者に対する支援と介護保険制度②
第12回	障害者に対する支援と障害者自立支援制度①
第13回	障害者に対する支援と障害者自立支援制度②
第14回	相談援助の基盤と専門職①
第15回	相談援助の基盤と専門職②

■受講生に関わる情報および受講のルール

社会福祉士国家試験過去問3年分を自分で用意し、予め問題を解いておくこと。該当科目のテキストを持参すること。学内模試が行われる場合には、参加すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

社会福祉士国家試験過去問3年分を自分で用意し、予め問題を解いておくこと。

■オフィスアワー

講義初回にて伝える。

■評価方法

試験またはレポート(70%)、課題への取り組み・提出物など(30%)

■教科書

社会福祉士国家試験過去問3年分

■参考書

社団法人日本社会福祉士養成校協会編集『社会福祉士国家試験過去問解説集』中央法規(最新版)

科目名	相談援助演習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	宮本 雅央	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	自己覚知、他者理解、言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーション				

■授業の目的・到達目標

社会福祉における相談援助の実践は、単なるサービス提供やサービスマネジメントにとどまらず、利用者の全体性やストレスに着眼した援助を行うとともに、家族・近隣や地域など総合的に支援する視点が要請される。本演習では、ジェネリックソーシャルワークの視点の習得とそれを展開できる力量の習得を目指すための基礎固めとして、「自分を知り、他人の話をよく聴け、ソーシャルワークの価値や倫理を理解する」ことなどについて演習を行う。
本演習によって相談援助実習と理論との融合を目指し、相談援助実習において必要な知識・技術を習得する。

■授業の概要

相談援助等の実習と関連づけながら、福祉専門職として必要な基本的な視点や原則、姿勢、態度についての理解を深め、援助技術の基礎をとして、ソーシャルワークの役割や価値基盤の理解、専門職としての自己理解・自己覚知、他者理解、基本的なコミュニケーション技法の習得を目指し、ロールプレイやグループワークによる実践的・体験的な演習方法で学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション 相談援助演習の意義・目的及び位置づけ、授業の進め方、授業に参加する上での注意事項
第2回	社会福祉の基本的姿勢 ・定義 (IFSWのソーシャルワークの定義、社会福祉士の定義等)
第3回	社会資源の理解 社会福祉施設・機関、福祉専門職の把握
第4回	自己理解・自己覚知(1)
第5回	自己理解・自己覚知(2) 自分自身のルーツ ジェノグラム
第6回	自己概念及び自分の性格の把握
第7回	自己開示(広さと深さ、自己開示の互惠性・返報性)
第8回	他者理解(共感の意味と深さ)
第9回	他者理解・価値観の違い
第10回	コミュニケーション技法(1) コミュニケーションの基本
第11回	コミュニケーション技法(2) 言語的コミュニケーション
第12回	コミュニケーション技法(3) 言語的コミュニケーション
第13回	コミュニケーション技法(4) 非言語的コミュニケーション
第14回	コミュニケーション技法(5) 非言語的コミュニケーション
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- (1) 履修上の注意
グループワーク等に積極的に参加し、“気づき”の感性を養い、知識・技術の習得に努めること。
遅刻・欠席は講義進行の妨げになるため厳禁
- (2) 学習上の助言
社会福祉専門職として必要な実践力の習得するために、自ら考え、気づくことが重要である。
- (3) 予備知識や技能
相談援助の基盤と専門職と深い関わりがある科目である。そのため、相談援助の基盤と専門職の復習をしっかりと行うことが望まれる。
※社会福祉士国家試験受験資格の取得を希望する学生は、特に編入後の相談援助演習ⅡやⅢ、実習等へ繋がる科目のため、上記の事柄に特に留意すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

ボランティア活動等に積極的に参加し他者を理解するためにはどのようにすれば良いのか気づくこと。各種技法を復習し習得する事。

■オフィスアワー

第1回の授業で説明する。

■評価方法

試験またはレポート(40%) 授業への参加態度(60%)

■教科書

社会福祉シリーズ21 ソーシャルワーク演習 『相談援助演習』弘文堂

■参考書

社会福祉小六法 社会福祉用語辞典(出版社は指定しないが、最新版のもの)

科目名	権利擁護と成年後見制度	担当教員 (単位認定者)	森田 隆夫	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	憲法、行政法、民法、成年後見制度、裁判所、社会福祉士				

■授業の目的・到達目標

成年後見制度に代表されるように、権利擁護のための法、制度、組織、団体および専門職は、現在においても多くのものが用意されている。しかし、このような法、制度等を知らず又は理解しなければ、折角の法、制度等は画餅に帰する。そこで、権利擁護のための法、制度等を知り理解して、それを社会福祉の仕事、社会福祉士の資格の取得等に生かしてもらうことを目指す。

- ①憲法・行政法・民法につきその重要な概念、制度等を説明することができる。
- ②成年後見制度につきその重要な概念、手続等を説明することができる。
- ③成年後見に関連する事業、機関、団体、専門職につき重要な点を説明することができる。
- ④権利擁護に関する実際の事案につき、分析、配慮等ができる。

■授業の概要

相談援助活動と法との関係を学んだ上で、相談援助活動に不可欠な成年後見制度および権利擁護に係る事業、組織、団体につき概説し、これらを踏まえて、権利擁護活動の実際を考えて行きたい。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション、権利擁護と憲法Ⅰ(人権)
第2回	権利擁護と憲法Ⅱ(統治)
第3回	権利擁護と行政法Ⅰ(行政組織、行政活動)
第4回	権利擁護と行政法Ⅱ(行政救済)
第5回	権利擁護と民法Ⅰ(契約など)
第6回	権利擁護と民法Ⅱ(親族・相続)
第7回	成年後見の概要
第8回	保佐の概要、補助の概要
第9回	法定後見制度の手続等
第10回	任意後見制度、日常生活自立支援事業
第11回	成年後見制度利用支援事業、権利擁護にかかわる組織、団体
第12回	権利擁護にかかわる専門職の役割
第13回	権利擁護活動の実際Ⅰ(成年後見活動の実際)
第14回	権利擁護活動の実際Ⅱ(権利擁護活動の実際)
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・可及的に多くの情報を提供したいので、予習復習は必ず行うこと。
- ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・社会福祉を志す者として、出席時間を厳守し、態度や身だしなみ等を整えること。
- ・授業の流れや雰囲気乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁する。

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書で予習・復習すること、根拠条文を確認しておくことが、絶対に必要です。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期試験(60%)、授業時間に行う小テスト(40%)を総合して評価する。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員編「権利擁護と成年後見制度(新・社会福祉士養成講座19)」中央法規

■参考書

六法(例:「ポケット六法」有斐閣,平成24、ミネルヴァ書房編集部 編「社会福祉小六法」ミネルヴァ書房,2012年)
宇山勝儀・森長秀 編著「社会福祉を志す人のための法学」光生館,2011年

講 座 等

科目名	編入学指導	担当教員 (単位認定者)	大竹 勤	単位数 (時間数)	
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード					

■授業の目的・到達目標

群馬医療福祉大学編入学試験合格に照準を合わせ、短大で学んだことを振り返るとともに、学部編入の意義と意味を考える。

■授業の概要

入学願書・各種出願書類・志望理由書の書き方の指導。面接指導・小論文指導を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	編入学とは・入試要項を取り寄せる
第2回	入学願書・保管票AB・受験票の下書き作成
第3回	入学願書・保管票AB・受験票の下書き提出 志望理由書作成
第4回	志望理由書下書き提出 小論文試験対策
第5回	小論文模擬試験
第6回	面接指導 大学の建学精神・教育方針・特色まとめ 面接のポイント①
第7回	面接のポイント② ワークシート作成・提出(面接試験想定質問への回答)
第8回	模擬面接
第9回	模擬面接
第10回	模擬面接
第11回	試験の振り返り
第12回	編入後のコース選択及び科目履修について
第13回	基礎学カテスト①
第14回	基礎学カテスト②
第15回	基礎学カテスト③

■受講生に関わる情報および受講のルール

編入学を希望する学生は必修。欠席したことにより得られなかった情報は、自らの努力で得ること(自分で質問に来ること)。

■授業時間外学習にかかわる情報

書類作成等は自宅での課題とすることが多いので、指示された時までには作成できない場合は、授業は先に進むことになる。

■オフィスアワー

1号館事務局教務課にいる時にはいつでも対応可能。

■評価方法

授業科目としての評価はしない。編入学試験の合否が評価である。

■教科書

なし 大学の入学パンフレットを各自入手すること。

■参考書

授業中に指示する。

科目名	就職指導	担当教員 (単位認定者)	長津 一博	単位数 (時間数)	(30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	就職指導				

■授業の目的・到達目標

自己の適性について理解を深め、望ましい職業観、社会人としての心構えや基本的なマナーを身につけ、就職に対する意識の高揚を図る。

■授業の概要

学生一人ひとりが、建学の精神やボランティア活動を踏まえた中で、実社会において自分の力を存分に発揮できる『適職』を見つけることができるような指導を行う。また社会に貢献できる能力を高めるために、大学生生活をより深化するための計画化の徹底を図り、人間にとって職業が重要であることを踏まえた「職業に就くことを志す→職業を見つける→必要な訓練を行う→職業に適応していく」という個人の一連の過程全体を支援する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション
第2回	就職に対する考え方・キャリアデザイン・指導年間計画・進路希望調査
第3回	自己理解・志望先の決定
第4回	応募から内定までの流れ・基本原則・就職関係書類
第5回	求人票の適切な見方及び理解・就職情報システム①
第6回	求人票の適切な見方及び理解・就職情報システム②
第7回	履歴書の書き方・応募書類の準備と提出①
第8回	履歴書の書き方・応募書類の準備と提出②
第9回	マナー指導
第10回	履歴書作成
第11回	応募の基本的事項（電話対応・求人依頼等）
第12回	就職試験・採用側が望む人材とは
第13回	面接の基本・成功する面接
第14回	面接ロールプレイ
第15回	試験前日の心得・採用試験当日の心得・内定後の心得

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・就職を希望する学生は全員必ず履修すること。
- ・すべての講義に出席すること。
- ・自分自身の適正について理解を深め積極的に就職活動を行う意識を高揚させ講義を受けること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

第1回のオリエンテーションで説明する。

■評価方法

第1回のオリエンテーションで説明する。

■教科書

『進路の手引き』（群馬医療福祉大学キャリアサポートセンター発行）

■参考書

抗議の中で適宜照会していく。

